

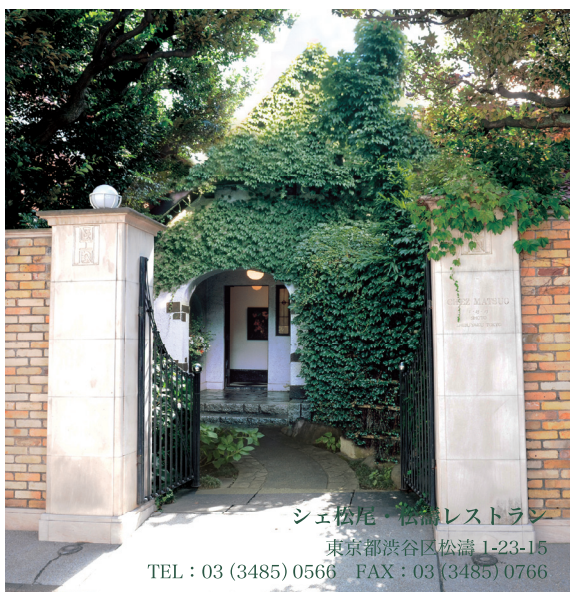
朝陽



No.64
2015 May

CHEZ MATSUO

シェ松尾のお食事・ご宴会・ご婚礼



お問い合わせ

株式会社 ボンサンテ

TEL : 03 (6868) 6759 FAX : 03 (6868) 6021

E-MAIL : umezawa@bonnesante.co.jp

代表取締役 梅澤 博 (23 回卒)

朝陽六四号 目次

会長ご挨拶	15	支部だより	26
周年記念特集記事	垂水尚志	朝陽USA	金杉一朗
卒業二十周年	四七回生	九州朝陽会	26
卒業三十周年	三七回生	関西支部	28
卒業四十周年	二七回生	多摩朝陽会	44
卒業五十周年	一七回生	群馬県支部	33
卒業六十周年	七回生	宮城支部	15
卒業七十周年	中二十回生	北海道支部	38
随筆「部活特集」	31	OB・OG部活動	31
気象部の思い出	5	六声会	3
生物部の思い出	19	戸山對抗戦報告	3
剣道部の思い出	27	母校便り	59
水泳部の思い出	24	学校長所感	58
硬式野球部で一九年	25	母校便り	62
かんらん会	30	部活動紹介	62
朝陽バラ会	18	軟式野球部(佐藤由紀夫)	66
会員随筆	39	離任恩師ご挨拶	67
水上寮の思い出	34	恩師の会	68
論語による生涯学習の楽しみ方	7	教員版「新宿高校同窓会」	69
新宿高校百周年記念登山に向けて	25	事務局便り	70
同期会便り	42	平成二六年度総会報告	71
中一六会	16	総会記念講演	71
中一九会	19	百周年記念事業	72
六新会	2	事業実行委員会	72
新五回	5	二七年度事業計画	75
新八会	8	予算・決算報告	76
九回	9	寄贈図書一覧	78
新樹会	10	追悼文・計報	79
いちご会	15	久米先輩さようなら	80
	49	小泉公生君を悼む	79
		計報記事	80

篠原法律会計事務所

弁護士 篠原由宏 (15回)

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目16番2号 岩尾ビル3階

Tel : 03-3502-2086

FAX : 03-3502-2069

会長挨拶

異業種集団のさらなる連携強化

朝陽同窓会会長 垂水尚志（15回）



会長就任後一年が経ちました。私は、チーム新宿を応援すること、グローバル人材を育

てること、異業種集団の特徴を生かすこと、日本の存在価値を高めることなどに留意して会長業務に取り組んでいます。新宿高校が全人教育を標榜し、高校生活を充実するために学校、父兄、同窓会が丸となって努力している状況を理解し、関係の皆様のご尽力に敬意を表します。また、懸案の卒業生の同窓会加入率の増加が期待できそうな状況になり安堵しています。

大学の同窓会は、通常、同種の業種の集団であるのに対し、朝陽同窓会は異業種集団としての性格が濃いという特徴があります。15回の同期会においても、文化芸術分野や医学分野を含む広い範囲の実力者や経営者による講演

や話題提供等、異業種集団ならではの活動が活発に行われてきました。今後は、これらを充実するとともに、異業種集団のさらなる連携強化を図り、在校生やご両親等に多分野の同窓会員の実務経験や職場を効率よく紹介できれば良いと思っています。

さて、百周年記念事業の実行委員会を設置し準備活動を開始しました。重要な施策が数多く提案されており、一朝一夕には実現できないものもあります。この記念事業を成功させるには、皆様に寄付をお願いしなければなりません。事業の趣旨に賛同していただき、絶大なるご支援を期待します。

これまでの同窓会活動の実績を踏まえつつ異業種集団としての特徴をより活かし、チーム新宿を強力に支援することは、必ずや日本の存在価値の向上に貢献すると確信しています。こうした努力は、昨年五月の朝陽会報で青柳会長（当時）が提唱された「朝陽同窓会に新たな文化の息吹を」を具現化することに繋がるものです。

事務局より会費納入のお願い

☆会費の種類

- ① 年会費… 2,000円
- ② 長期会費… 10,000円（6年間有効）

①、②のいずれかをお選びいただけます。毎年の納入が煩わしい方には長期会費をお勧めいたします。いずれも本誌に同封の振込用紙をご利用下さい。

☆会費納入免除

- ・卒業時に入会された会員は入会金を納めていますので、卒業後5年間は納入免除です。今年は63～67回生の方々が該当いたします。
- ・現・旧職員[名誉会員]と80歳以上[寿

会員]は納入免除です。今年の寿会員は中2～新6回生の方々です。

☆期間

- ・会計年度は4月～翌年3月で、会費は納入した年度から起算いたします。
- ・重複して納入があった場合には、有効期間が重ならないよう連続期間として扱います。
- ・寿会員から会費納入された場合は、寄付扱いとさせていただきます。

☆寄付金

- ・昨年も寿会員はじめ多くの方々からご寄付を頂きました。今後ともよろしくお願いいたします。

（事務局長 15 西出 紀久）

卒業二十周年…… 今再びの交流を

47回

またどこかでと言葉を交わし校舎をあとにしてから、気づけば二十年の月日が経ち、きっかけさえあれば、いつでも会えると安易に考えていたものが、すでに語り合うこともかなわない友がいる現実にはショックを受けたのは、今回の寄稿依頼がきっかけでした。

「この杯を受けてくれ どうぞなみなみ注がしておくれ 花に嵐のたとえもあるぞ さよならだけが人生だ」(漢詩「勧酒」)に対する井伏鱒二の名訳)が頭に浮かび、さよならだけが人生だ……だからこそ、また逢うことがかなうなら、酒を交わし、悔いが残らないくらい語りあかしたいと思ったものであります。

(代表幹事 E組 渡邊 宏之)



京都から

A組 中田 理央

「作り手にとっては数多く提供するうちのたった一食やけど、お客さまにとっては大切な一食やで。美味しく気持ち込めて作ります」

東京生まれで東京育ちの私が、「京都人にはないバイタリティーがある。京都で頑張ってみないか」との誘いを受け、一念発起して京都に移り住んでから三年が経ちました。

昨夏、会社から飲食業に新規参入するプロジェクトの主要メンバーに指名され、大阪へ調理の修行に行くことになりました。食べることは大好きですが、調理の技術は家庭レベルで……。そんな私にプロの技術と味を習得し、更にその成果を従業員に伝えるという難題が突如降ってきたのです。それまで担ってきた業務とは全く異質な業務への転身でしたが、視点を変えれば、そんな機会は望んでも巡って来ない。やるし

かない！ 失敗したら、その時対処しよう！ と勢いと好奇心に任せ、火中に飛び込みました。

全身に動きを叩き込み、舌に味を覚えこませるのみ！ という怒涛の修行期間は、身体こそ疲れたものの、気力充実の楽しい毎日でした。ほんの少しついた自信を手土産に京都へ戻りましたが、その味を人に伝える段階になった時に初めて大きなプレッシャーを感じました。

オープンまで待たなし状態で思考回路は完全停止。やるしかないことは頭ではわかっていても、何から始めるか判断ができません……。その時に頭に響いてきたのが、修行先で毎日のように言われた冒頭の一言と「負けてたまるか。東京人の根性を見せてやる。」の思いでした。

京都に来る前に親や知人から、京都人は保守的で排他的だと聞かされ、更に京都に来てからも、京都人から自虐的且つ自慢げに同様のことを聞かされました。

実際、自分たちの思いや主張はオブラートに包んで表現しますが、自分たち以外へはその生い立ちや考え方を、関西人の伝家の宝刀である？ コミュニケーション能力で切り込んできます。「東京からわざわざ京都まで何しにきやしたん？」「ほんまの京都はなかなか解らへんよ」と観光客に

見せる顔とは違う排他的な京都人の顔。それは生活の顔という表現が近いかもしれない。

確かに京都に来た当初は、言葉の機微が理解できず、京都人は噂に違わずキツイと感じたのですが、じっくり付き合うにつれ徐々に真意が感じとれるようになってきました。今では、キツイ言葉の裏には「この人どこまでしはるんやろか。おきばりやす」という期待感を込めてくれているのだと受け取っています。

さて、プロジェクトの後日談ですが、新たに作成したマニュアル書と実技を反復させることで、なんとか従業員への調理技術の伝達も終え、取っ掛かりの一号店は、予定通りオープンすることができました。こうして、気持ちを込めた美味しいものを提供し、お客さまに喜んでいただける店創りという私のミッションは無事完了し、現在は、本来の業務に戻っています。

今回のプロジェクトで初めて飲食業に関わり、お客さまに美味しいものを提供する喜びを知ったことで、私の中にこれまでとは違う「食」へのこだわりと灯が生まれました。

世界文化遺産に指定された和食を、その拠点である保守的で排他的な京都において歴史にとらわれることなく、ただ一点「気

持ちを込めて美味しく提供する」を心に創作し、事業化することを決断しました。

人生半ばでの再出発となります。

そして、まだまだ小さな火ではありませんが、この火を育み、多くの人たちが集い暖まっていただけるたき火となるように、修行修行の毎日を送っています。

いつも愉快な新宿高校友

（日君編）

B組 木村 円

新宿高校同級生たちとは卒業後もなんだかんだでそんなに間を置かず会っており、お互い変わらないねーなんて言い合いながらお酒を飲みつつ過ごしていたら、もう二十年も経とうとしていることに驚いた。

ほんとにみんな、見た目も中身もそんなに変わらない。まあ見た目に関しては、夜道で月と併走してると満ち欠けに気付かない現象、みたいなことだろうけど。

新宿高校の友達とは他者と自分を比較する考えが希薄で、それぞれ独自のリズム感があり、それを変わずキープしていると思う。一緒にいて共有する高揚感も安心感も、私にとって、他にはない心地よさだ。年を

とるにつれて、ますますそう感じる。

よく会う友達はもちろん高校の時から仲が良かった人たちだけど、高校の時に殆ど話さなかったのに、今良く飲む友達が一人いる。今回はこの人から寄稿B組担当を依頼されたので、いつも愉快な新宿高校友の代表としてフォークスしたい。

彼は在学中、男子群から絶大な人気があった。新宿高校四七回生男子はまるで芸人さんのように愉快な人たちが多かったが、彼らの面白さをたまに褒めるとどの人も口を揃えて「いや、うちの高校で一番面白いのはあいつだ」と言っていた。

しかし面白さを堪能したくとも、照屋さんな彼は在学中殆ど女子と話をしてくれなかったので、理解も出来ず悪意になれずじまいだったのだ。

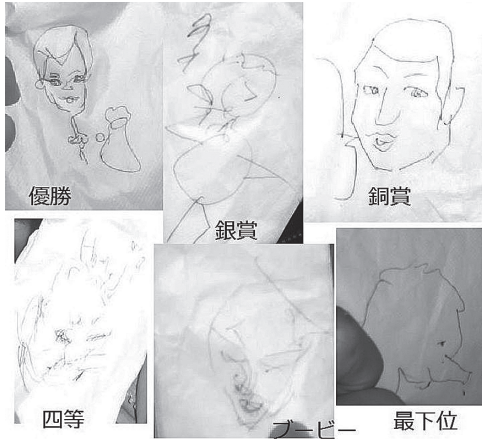
彼の面白さについて、ちょっとここでコラージュして考えてみます。

喋る速度はゆっくり目で、一言毎吟味しつつ間を空けて発している／／子供と動物に好かれる傾向にある／ライター…ピンク色。ゴルゴ13が「ふふふ、女は信用しないことだ」と語っている絵が書いてある／声…くぐもってる／斜めに真面目／シマウマ親子の写真に「ケーコとマナブです」とだけ書かれてある絵葉書を突然送りつけら

れた（A君談）／髪型…昔から通年五分刈り／シャツの柄はいつも小粋／お冷を持つ手がお猪口を持つそれ／とにかく優しい／社会性は持ち合わせているが、我が道を行く

繋ぎあわせれば、あの彼の像が浮かびあがる。「一言毎吟味しつつ間を空けて発している」「斜めに真面目」「社会性は持ち合わせているが、我が道を行く」このあたりが、誰もがぎゃふんとなる、なんつーか面白い事を言う素になっているようだ。

彼の良さは、会って見てはじめてじわ／＼とわかるという声多数。網の目のよう



な文章では、とても旨みを表現しきれない。この味わい深さを堪能するには、高校生じゃあまだ早かった。大人になって良かった。彼のことを考え続けた一ヶ月もこれまた乙だった。

とにかく皆に愛されてる、個性が強い四七回生を代表する男なのです。

※画像は七名で飲んでいるときに開催された、彼の似顔絵大会でナプキンに描かれた絵たち。左上が彼の選んだ優勝者の画。

二十年！

C組 浅野（小早川）真澄

自分の年齢を考えれば何の不思議もないのですが、二十という数字はちよつとした衝撃でした。もうそんなに経つのか……と思いを巡らせているうち、その年月を改めて文章にしてみるのもいいかも、と寄稿を決めたしだいです。

卒業後、早稲田大学教育学部に入學した私は、高校時代に続きバスケットボールに勤しみ、大学生活を楽しみ、それなりに勉強もして、教職の道に進むかと思いきや、フラフラと道に迷い、就職活動もろくにせ

ず卒業を迎え、しばらくは父が赴任していたルクセンブルグで遊んで過ごし、帰国後はとりあえず何か仕事をせねばと派遣の仕事をしていました。

グダグダ気味だった私に訪れた転機が、祖父母との同居です。祖父母は静岡県富士市で二人暮らしをしていましたが、祖父の転倒で事態は急変。車椅子の祖父と祖母だけで生活が成り立つはずもなく、親族一同どうしたものかと悩んでいたところ、私が同居を志願しました。

二十代女子の突然の決断に周囲は驚いたようですが、迷いはありませんでした。幼い頃から祖父母の待つ富士に遊びに行くのが大好きで、祖父母にはいつまでもそのままいて欲しいという自分自身の強い願望が原動力となっていたのだと思います。

親戚やヘルパーさん等と協力して祖父母の生活をサポートをする一方、近くにあった専門学校で情報処理の勉強をはじめました。時が経ち、専門学校にも就職活動の季節が到来。大学時代には身が入らなかった就職活動ですが、勉強したことを活かせればと挑戦して採用されたのが、現在の勤め先でもある日本IBMシステムズ・エンジニアリングです。専門知識云々ではなく「介護経験アリ」という珍しさを買われての採用だったようで、人生何が幸いするか

わからないものです。

二〇〇三年春、祖父母の世話は富士市で再就職した父にバトンタッチして東京に復帰しました。キャリアを積み、結婚して、出産して、現在は夫と共に六歳の娘と二歳の息子を育てつつ働くワーキングマザーです。ちなみに夫は代々木上原のイタリア料理店『ラ・ジョルジーナ』のオーナーシェフをしており、人手が要るときは私が接客することもあります。

職場では残業ゼロを掲げ、自分のことは二の次三の次という「子ども中心生活」ですが、今は子ども達の笑顔と成長が何より幸せ。そんな毎日に感謝です。

窓下に広がる御苑の緑、ダン！ダン！と体育館に響くボールの音、友達とのおしゃべり、ニコニコしている林先生の顔。高校時代に思い馳せると、キラキラとした情景が次々に浮かんできます。

うちの子達にはどんな高校生活が待っているのかな……

卒業から二十年が経ち、私はそんな妄想に胸をときめかせる「母」になっていたのです。



二十年の変化

D組 細谷 周史

気が付けば、卒業から二十年。本当に驚くほどに早かった。高校時代はラグビーに明け暮れた上に、実に良く遊んだので、ろくに勉強していなかった。おかげで入学当初それなりだった成績もぐんぐんと急降下した。当たり前のように、現役での大学合格は出来ず、卒業後一年間は場所を変え、御茶ノ水での浪人生活を十分に楽しませてもらった。大学を卒業したのは二千年。世の中は、まさに就職氷河期時代だったが、奇跡的に内定を獲得し、無事に就職することができた。入社同期の素敵な女性と社内恋愛し、二〇〇三年に結婚。今時の共働き夫婦として働きながら、マイホームを購入し、二〇〇九年待望の子宝に恵まれ、長女五才、長男三才。こうして、文章にしてみると色々あったが、順調に年を重ねることができているようだ。

二十年の間に体型はかなり変化した。高校時代に作り上げた引き締まった肉体は見る影もない。自称鍛え上げられた筋肉の上には、分厚い脂肪のコーティングが施され、体重は約二十kg程度増えた。二十年で二十kg、年に一kgの体重増加となるとたいした

事無いように聞こえるが、二十年連続増加だと、たいしたものだ。妻には詐欺だと言われるほど立派に成長した。出張先の香港空港ではバスポート写真と異なる本人を目の前に、困惑の表情で本人確認されたこともあった。二十年間会っていない同級生は、気が付かないかもしれない。何とか減量したいと思うが、意志が弱く何ともならない。体型と同じく、生活も着実に変化をした。高校卒業まで十八年の両親との生活を終え、大学入学と共に一人暮らし、結婚して家庭を持ち、二人暮らしから三人暮らし、四人暮らしと家族が増えた。人生の節目を感じ、社会と家庭で様々な経験を重ね、生活が変化し続けているからこそ、二十年が驚くほど早いと感じ、楽しいのかもしれない。

人生八十年の折り返しを迎えようとしている現在、人生を順調だと感じ、楽しいと感じることができた。この事実、これまでに人生の岐路において、自分が選択した方向は正しかったことを証明している。この先の四十年をさらに楽しめるよう、変化し続けてみようと思う。



「戦後思想を考える」でも 読み返してみるか

F組 五明俊輔

『恋、仕事、金以外の事で相談がある』最近一緒にテニスを楽しんでいる、A組出身の本城くんより意味深げなメールが届いた。何事かと連絡をとってみると、卒業二十周年の原稿依頼だった。依頼については快諾したが、卒業後二十年もの時間が経過したことに愕然とした。高校時代といえは「つい最近」とはさすがに思わないが、比較的近い記憶として感じていたからだ。新宿高校に入学直後、中学校生活からのあまりの変化に戸惑ったのを記憶している。現在では到底考えられないことだが、入部したバスケットボール部では新入部員歓迎コンパが開催された。場所は品良く言えば思い出横丁、俗に言うしょんべん横丁だった。当時は部活やクラス単位で、学期末毎にそういった会が行われた。我が家では大酒豪の祖父、酒豪の父を持つ私は、五明家三代目と目されていたが、一年生の最後の飲み会で自分の足で帰れなくなる大失態を犯した。お陰でその後、酒で痛い目は見えていないが、三代目の称号は二つ年上の兄に譲ることとなった。多くの個性的な先生に教

わったが、一年生の時の現代文のS先生は特に強烈だった。まず、雨が降ると自習になった。(自習とは名ばかりで、その時間は自由時間だった。)教科書は使わず、高校生には全く理解できない思想的な本を読まされた。地学のT先生も印象的だった。授業の途中で話が逸れるため、一向に授業が進まなかった。原稿依頼を受けたのを期に、高校時代と卒業後の人生を回顧することが多くなった。正直なところ、自由な校風に受けたショック、冬には何故かみんな揃って縄跳び、飲み会の後の中央公園、空調の無い体育館での真夏の部活、断片的に思い出す記憶は、「キラキラと輝いていた青春時代」と胸を張れる程のものでもなかった。でも一つ言えることがあるとすれば、新宿高校で体験した様々なことは、これから自分を支え続けてくれるであろう。

歴史と私

G組 石川琢也

私と歴史との出会いは小学生の時にやったファミコンのゲームである「信長の野望」でした。最初は誰が誰だか全くわかりませんでした。ゲーム内でステータスの

高い武将がいるとその人物に興味を持ち、学校の図書館などでその人物の本を読むようになりました。ちょうどその時学校には漫画日本の歴史という本があり色々な人物の話がわかりやすく書いてあり戦国時代の武将から始まって、その他の時代の人物の本をたくさん読むようになりました。

織田信長や豊臣秀吉、徳川家康などから戦国時代を、足利尊氏から室町時代を、源頼朝や義経から源平時代というようにまずは人物の伝記からその時代に興味をもち色々と本を読むようになりました。

小学生の時から三八歳になる現在まで歴史に関する本を毎年少なくとも数冊から十数冊は買って読んでいます。

本だけではなくテレビの大河ドラマや歴史のドラマ等も観るし、日本の歴史だけではなく、これもゲームの影響なのですが、中国の三国志や水滸伝、春秋戦国時代やローマ帝国時代に関する本などにも興味を持ちそれに関する本をいろいろ読んだりしました。

こう考えるとゲームによって歴史に興味を持つことが出来たので、あながちゲームも悪くなかったなと思います。

ちなみに妻とも歴史の趣味サイトで知り合って結婚しました。

自分は東京で彼女は兵庫に住んでいたの

で遠距離恋愛だったのですが、最初は東京や大阪などで会ったりしていたのですが、どうせ宿代がかかるならと逆にそれを生かして東京と兵庫の間にある場所に旅行も兼ねて行くようになりました。

もちろん二人とも歴史好きなのでどうせならお城がある場所がいいということで兵庫の姫路城や滋賀の彦根城、長野の松本城等の近くに宿を取りお城やその他の観光スポット等に行きました。

その他にも鎌倉や江の島、広島では宮島の厳島神社や広島城や呉などに、あとは日光の東照宮等にも行き歴史的な建物や場所を楽しみました。

ちなみに現在日本で当時の天守閣が残っている城が十二城でその中でも姫路城、彦根城、松本城、犬山城は国宝指定されている城になっています。

国宝指定されている城でまだ行けていないのは犬山城だけなのでそれは近いうちに行きたいと思っています。出来れば十二城も行きたいのですが結婚した今となつてはなかなか行く時間と先立つ物が……。

国宝四城の中では（犬山城はまだ行っていないですが）やはり世界遺産登録もされている姫路城が自分の中では最も印象に残った城でした。

私が行ったのは一昨年の十一月で大河下

ラマの「軍師官兵衛」が始まる前の年でちょうど天守閣の改修工事を行っている時でした。

姫路城は天守閣と三つの小天守閣から構成されており、その時は天守閣の改修工事を行っていました。天守閣の周りを素屋根といわれる仮設建物で覆っており水平目線で天守閣の屋根を見ることが出来るのです。次の改修工事はいつになるかわからず今回は徹底した改修であり、簡単には出来ない工事であることから現在生きている人にとって二〇一三年までがそれを見ることが出来る最後のチャンスだったのかもしれない。

姫路駅を降りると正面にすぐ姫路城が目に見え込んできました。今回は改修工事のため素屋根に姫路城の実物大の絵が描かれていました。

姫路城は別名（白鷺城）とも呼ばれ、白を基調にしたとても美しいお城です。また四百年の歴史の中で戦にまみえることもなく、近代の戦災に遭うこともなかった類まれなるお城です。その結果天守や櫓、門などの保存状態が非常に良い上に他に類例のない遺構も多く、極めて貴重な文化遺産となっているそうです。

戦国時代の出世頭の豊臣秀吉が一時期居城にしていたこともあり、とても幸運なお

城としてパワースポットとしても有名だそうです。

……とこんな感じで今まで観た城の説明を写真付きで色々と書きたい所なのですが、今回は字数制限があるためにこんな所でやめておきたいと思います（笑）

自分としては姫路城の他にも彦根城や松本城の事も書きたいのですが……（笑）

歴史好きという話から最近ハマっているお城の話に脱線してしまいましたが、最後に自分が思う歴史の魅力、楽しさについてお話ししたいと思います。

私にとって、歴史は人生の教科書だと思っています。何年に何が起こったという事象よりも、なぜそれが起こったのか、またそれに関わった人たちがどう思いどのように行動しその結果どうなったかという事がとても勉強になります。

また今生きているこの社会がどういう経緯で成り立っているのかという事も興味を引くところだと思います。

ただ、そこから教訓を得てもなかなか普段の自分の行いの中にそれを取り入れるのはなかなか難しいのですが……。

でもそれにめげずに歴史を楽しみながら自分の日々の生活が少しでも充実するようにそこから得た教訓を生かしていきたいと思っています。

卒業三十周年 同窓会やります、みんな集まれ

37回

B組 林 衛

地学準備室のカフェオレに 励まされ

同い年に「半沢直樹」がいる。勿論、テレビで主人公を演じた俳優と同年齢という意味ではない。原作小説の中の「半沢」は、

自分と同じ一九八九年（平成元年）に社会人になった設定だ。ということは、彼も丙午生まれなのだろうか。

我々三七回生のおお半が生まれた一九六六年（昭和四一年）は丙午ということ、前後の代に比べ人口が大幅に少ない（一説によれば25%減とか）。そのせいで実験台にされた訳ではないのであろうが、我々の入学した一九八二年（昭和五七年）から都立高校の入試制度が大きく変わった。前年までの「学校群制度」が廃止され、新たに「グループ合同選抜」なるものが導入された。試験科目も三科目から五科目に増えたと記憶している。群制度があった時代には、合格後、新宿／駒場のどちらに振り分けられるかわからなかった訳だが、三七回生は全員が（少なくとも都立では）新宿を第一希望として入学した筈だ。中一の夏に、新宿野球部の大躍進を観て以来、新宿で野球

部に入ることだけを考えていた自分にとっては幸運だったのだろう。

高校の三年間は野球に明け暮れ、卒業後の高校との繋がりも、野球部関係のものが殆どであったが、一昨年、少人数で集まった同期会を機に、フェイスブックを通じた小じんまりした同期のコミュニティが出来た。そして、今回、同窓会事務局の方より卒業三十年の原稿依頼を頂いたことを受けて、やり取りが活発化し、本年六月に、かなり久し振りと成る（卒業以来二度目？）同期会開催の話も盛り上がって来ている。

おそらく人生の折り返しは過ぎたであろう我々にとって、新宿での三年間はどのようなものだったのか、この三十年で大きく変貌した新宿での同期会の暁には、大いに語り合いたいと思っている。

（代表幹事 E組 羽藤 俊昭）



高校一年地学の最初の時間、豊澤弘正先生は、「地球が丸いと考えられた理由」を生徒たちに問い、チョークをもった右手をぐるりとさせて黒板に円を描き、「[The higher the farther]」と唱え、説いていく。

高所ほど遠くがみえる、出帆する船のマスとは遠くほど高いところだけがみえる、といった観察事実と、それまで英語学習の範囲だけで使っていた知識がぱっと結びついて、狭い教室にいたまま広い世界を見渡しているような気分になった。春の御苑を見下ろす五階の教室で、知的興奮を覚えた。

高校三年生の秋に地学補習が始まった。

共通一次試験科目に新課程にあわせた変更があり、新設の「理科一」と「物理、化学、生物、地学」から一科目の計二科目に変わったために、それまで「七時間目」の視聴覚教室を埋めていた補修受講者（共通一次の理科二科目のうち一科目に「地学」を想定）が、私たちの年から大幅に減った。第一回は、西田学君と私の二人。二回目からは、私一人になり、地学準備室にてマンツーマンの指導を受けることとなった。

キーとなる演習問題が示される。それに
取り組んでいるのを机の反対の席で豊澤先
生は腕組みをしながら、はたからみていて、
時間の終わるまでに不明瞭なところをすっ
きり解説してくれた。宇宙膨張を示した
「ハッブルの法則」、恒星のひかけの明るさ
と色の二つの観察だけから、恒星までの距
離、恒星の大きさ、質量、寿命、一生のど
の段階にあるかがわかる「HR図」、地上の
いくつかの露頭の観察によって得られた柱
状図から地殻の構造がわかる「地質図学」
などなど。「HR図」では、質量や大きさの
単位がkgでもtでもkmでもなく太陽スケ
ールで、太陽の10の何乗倍だと対数を使う。
数学で抽象的に学習していた対数ログの意
味がはじめて腑に落ちた気がした。

腑に落ちたのはそれだけではなかった。
校則でアルバイトは禁止されていたが、家
計を支えるため、放課後、渋谷郵便局に行
かねばならなかった。郵便車の助手席に乗
り、区内の郵便ポストをまわり、鍵で扉を
開け、郵便物の詰まった郵袋を交換して集
めるアルバイトをしていたからだ。地学準
備室のトースターで焼きたてのトーストと
温かいカフェオレをとくとき振る舞ってい
たのだ。

どれだけ勇気づけられただろう。腕組み
をしたまま目を閉じて寝息を立てている豊

澤先生に、そおっと感謝の言葉を残して、
バイト先に急いだこともあった。

卒業後に務めた渋谷区役所は三年で辞め、
大学に進学する機会を得た。都内の大学の
大学生しか教育実習を受け入れないとい
うのが、当時の新宿高校の暗黙のルールだ
たそうだが、私の母校での実習の希望にた
いし、水泳部OBとして館山臨海教室を20
期お手伝いしていたのを考慮していただき、
体教の先生方も動いてくださった。職員会
議では「新宿高校の教員で林を知らないの
はもぐりだ」との豊澤先生の一声が決め手
となり、教育実習を受け、教員免許状を得
られた（都立高校の強制移動によって、「誰
だ、林は」という方もいたという）。免許は
得られたものの当時、教員採用の道は細く、
残念ながら高校教員にはなれなかった。し
かし、学べたことをどう生かせるのか、な
にが決め手になるかわからない。雑誌『科
学』（岩波）編集者、NPO起業などを経
て富士山大学に職を得、理科教育法を担当
している。「明日はあなたのこれからの人生
の最初の日であるから」、豊澤先生による
共通一次試験対策「地学」（旺文社）の前
書きにあったメッセージをかみしめながら、
「いい学校に行くこと」ではなく、行っ
た先の学校や世の中をよりよいものにする
ために知恵を身につけ、発揮するのに惜し

まない生徒、世代を育む大切さを痛感して
いる。自由のなかで学ぶのを惜しみなく励
まされた世代の一人として。

卒業三十周年を迎え

D組 沖山雄一



二〇一四年も終わろうとしている頃、三
十年前の頃を少しだけ振り返ってこの文章
を書いていきます。

最初に浮かんできたのは、新宿高校の受
験番号が一番だったこと。鳥から郵送で早
めに送られた願書は最初に受理された事を
示す番号で、手元に届いた受験票を見た
とき、もの凄くプレッシャーを感じた事を覚
えています。

受験当日、御苑の冬の景色が素晴らしく、
都会ってスゴイなあ〜でも記念受験になっ
てしまっただろうなあ〜と心のどこかで半分
諦めてテストを受けていました。

合格発表の当日、多くのメディアが渋谷
区という立地もあって数社合格発表の様子
を撮影に来ていた。開門と同時に行くわけ
でもなく、眠い目をこすりながら遠くから

一目でわかる一番を見つけた時には涙が溢れた。あの日が新宿高校生の始まりでした。この原稿を書いていると横原敬之さんの遠く遠くという歌が流れていました。

島から突然都会の学校に入学すると、なんだか自分が小さく見えて、毎日が不安でした。

入学時に行われた実力テストでは入学者三六〇人中三五八番という結果。まうしょうがないでしょうと思いつつも、かなりショックだった。それから三年間、低空飛行を続ける事になります。

高校二年の夏休みにジャック・モイヤーさんと島でダイビングをしました。人生初のダイビングは、その後クマノミが雌雄同体である事を世界に発表する研究の為にダイビングでした。そんな大事な時間を共有できたことは僕のその後の生き方にだいぶ影響があり、今もその残像を追い続けているのかもしれない。

その年の十月三日、三宅島は大噴火があり、これまで順風満帆だった父の事業や中学まですごした家や想い出がすべて溶岩に埋まってしまいました。

当時、新宿高校では僕にわからないように募金活動などをしてくれてた皆さんの方から多額の寄付を頂きました。その時の事をこの原稿を書く前に父とも話したのです

が、本当に感謝して止みません。

噴火で全て失って、両親も経済的に厳しい中、大学受験には一度失敗し、浪人なんてさせてもらい大学に進学、その後は人生のチョイスにいろいろと迷いながら、二千年にも噴火があり四年半の全島避難、二〇〇五年の全島避難解除と同時にサラリーマン生活にピリオドを打ち、島で商売を継ぐ決意をしました。

遠く遠く離れていても、力いっぱい輝ける日をこの島で迎えたい。
の夢をかなえる場所はこの島と決めたのだから……



卒業後の沖縄三十周年

D組 野中正法

新宿高校OBで沖縄在住者というのとはどれくらいいるのだろう。私は沖縄在住三十年となる。高校卒業してから琉球大学に進み、そのまま居ついてしまっているのだから、そのまますべて居ついてしまっているのだから、なかなか稀有な存在であることは否めない。

琉球大学へは、海洋生物の研究をしたい、

という殺し文句で、親、先生を説き伏せて海を渡った。でも実際のところは、とりあえず「沖縄」という未知の土地で四年間過ごすことができるではないか、というかなり適当（沖縄では「テーゲー」と言う）な意思のもとに、私のテーゲー人生は始まったのである。今でこそ「沖縄」は結構人気の観光地となっているが、当時（一九八五年）はまだまだマイナーで、「琉球大学」と言っても「そんな大学あるんだ」てな感じで、当時の担任のT先生は「そんなに落ちると、都会での就職は難しいぞ」と言われたくらいである。無論四年後のことなど全く考えていない私にとっては思いとどまる理由にはならず、先生のご助言通り、今に至るわけである。

大学時代は、沖縄の海を満喫しつつ、サンゴについての研究をした。サンゴやサンゴ礁というと、昨今ではかなり注目されつつある研究分野であるが、当時は研究者も少なく、琉大においてもサンゴをテーマにする学生は少なかった。海に潜ってデータを取り、それに基づいて論文を書くという、字面にとんだんだかっこいい感じだが、趣味と実益を兼ねた楽しい作業であったことしか記憶にない。こんな浮世離れた生活をしており、気が付くと四年生、周囲は就職活動にいそしんでいた。そういう卒業

業後のことを考えていなかった、と我に返った。さて、何を仕事にしたかったのだろうと思うと、やはり海洋生物に関するのかな？ と。とりあえず、研究生でもう一年くらい研究室に残ろうかと考えていた卒業間近の二月、地元の水族館に求人があるとのことで面接に行き、その日のうちに就職が決まってしまった。昨今であれば水族館員は人気の職業で、結構狭き門であるが、どうにも簡単に私の人生は決まってしまった。

私の就職先は「国営沖縄記念公園水族館」一九七五年に沖縄海洋博が開催された時に建設された水族館である。私が入社した当時、既にジンベエザメとマンタを飼育しており、これは世界で唯一の展示であった。ただ、その後東京の葛西臨海水族園、大阪の海遊館など巨大水槽を持つ水族館が次々とオープンし、そちらの方が話題になることもあり、わが水族館の知名度は全くと言っていいほどなかった。入社十四年目の二〇〇二年、水族館は老朽化のためリニューアル。旧水族館の隣に建設された新水族館は、約十倍の規模に拡張され、日本一の規模となった。「沖縄美ら海水族館」の誕生である。当初は年間百万人ほどの来館者を見込んでいたが、これまでにはない大型の水槽に、ジンベエザメ三匹、ナンヨ

ウマンタ四匹が泳ぐ姿は圧巻だったようで、予想外のブレイク。沖縄観光のメッカとなり、修学旅行などでも人気となり、現在では年間三百万人が訪れる日本一の水族館となった。

ただ、ここでも私の担当は超マイナーな「サンゴ」。一応動物ではあるが、水槽の中で「動く」ことはない、背景にしか見えない展示物である。ただ、ここでいかにこのサンゴに注目してもらおうかが私のこれまで進めてきたことであり、これからのテーマでもある。最近の高校生は「グループ学習」という、修学旅行先で専門家にインタビューをして学習を深める、というプログラムがはやっている。うちの水族館にもそのようなリエストがあり、テーマが「サンゴ」だったりすると私が担当することになる。様々な難しい質問を受けるが、その前に「皆さんはサンゴとサンゴ礁の違いを知っていますか？」と聞くと、まず答えは返ってこない。それで分かりやすく説明をしてあげると、後ろで聞いている先生が「へえ、そうなんだ」という感じである。まだまだ「サンゴ」については一般的ではない、いい例である。

振り返ってみると、出て行ったまま帰ってこない親不孝者が、彼の地で好きなようにやってきた感じであるが、そろそろ年貢

の納め時であろうか、この数年は生き物の世話よりも人間の世話の仕事ばかりになってきた。定年まであと十年余、このままでもいいけれど、また生き物に関われる仕事がないかと、また無計画なテーゲー主義が頭をもたげ始めている、今日この頃である。

隠居のネギそば



G組 行方史郎

卒業して北海道の大学に進み、その後、アフリカでボランティアをした私は、新聞社で職を得てからも、転勤で東京を離れ、数年たつてまた戻ってくるという生活を続けている。昨年は三年間勤めた米国から久しぶりに東京に舞い戻った。

東京に戻ってくるたびに新宿の街は変わり、中でも通学路だった南口周辺の変貌はすざましい。通学路だった道は今も残るがこの同窓会誌のどこかに登場しているかもしれない「ちゃん屋」は消え、たまにメシを食った定食屋の「こまどり」もなくなった。

それでも当時と変わらないものもある。先日、東口近くの「ロッテリア」が装いを

新たにしているのを見かけた。硬式野球部の仲間で一時期、たむろした場所だ。

あるときハンバーガーを一個買うとスクラッチカードがもらえるキャンペーンが始まった。当たりの部分をうまく削ると最高五個のハンバーガーがもらえる。

暗闇でカードの後ろから懐中電灯を当てると「当たり」がわかる——だが見つけたか知らないが、この方法で野球部には一時期、百個以上のハンバーガーの「貯金」ができたと思う。ふだんハンバーガーなど高くて買わないが、このときは店に入り浸った。最後は当たりカードを山分けにした。親にハンバーガーを土産に持ってかえって呆れられた記憶がある。

練習を終えた帰り道、京王線の改札口横にある立ち食いそば屋にもよく立ち寄った。ネギが取り放題で、注文するのは決まって「かけそば」だが、ネギを繰り返しおかわりする。「隠居のネギそば」といっては笑われた。(野球部に入った早々、腰痛で練習を離脱した私は、当時「隠居」という、あまりありがたくないあだ名をもらっていた) この店も健在だ。先日、仕事で新宿に行ったついでに立ち寄ってみると、取り放題のネギを入れた小さな壺が見当たらない。まさかあのせいでなくなったわけではないと思うのだが。

やらなければ いつまでもできません

H組 上野昌枝

「ラーニング・アーキテクトの上野昌枝です」

このように名乗ると、必ず「何をする人ですか」と訊かれます。平たく言うと「学習の設計者」です。更に言うと『良い仕事をしていただくために、どのように学習を進め成長すれば良いのかを一緒に考える』仕事です。企業の中の教育担当者を思い浮かべていただくとわかりやすいかもしれません。

このような仕事をしています。私は勉強をするのが苦手でした。そもそも勉強の仕方がわからない。数学だけは高校の時、関先生に教えていただいたおかげで、どのような視点でどのように取り組めば良いのか。がわかり、楽しく勉強をすることができました。しかし、他はまったくわからない。数学の勉強方法を他に応用しよう、なんてことも考えない。「勉強の仕方がわからない」勉強しない。試験勉強も全く身が入らない。ということの繰り返しです。でも、どうにかなっていたので、どうにかなるのだな、と何の根拠もないポジティブ(?)

思考で学生時代からそのまま仕事生活へと過ごしてきました。

しかし、二〇〇八年頃から色々勝手が違ってきました。

仕事をくれるお客様をどうしても受け入れることができない、反対に自分の仕事を認めていただけない、表面上はうまくいっているようでも納得のいくレベルの仕事になっていない、等々空回りばかり。

そもそも勉強をするのが苦手、人にモノを教えるなんてとんでもない、と思っている人間が人材育成に関わる仕事をしているのが間違っているのか、と悶々とした日々が続きました。

二〇一〇年、あることについての勉強を始めました。「これをしっかりやらないと、後がないかも」とかなりの悲壮感をもって始めたのですが、その時真っ先に思い出したのが、高校三年の時の朝礼で校長先生がおっしゃった『やらなければいつまでもできません』です。

「君たちはやればできる、と思っただろうが、実際にやらなければ結果はついてこない。やらなければいつまでもできません。だから今、勉強しなさい」

その時は「ふん」と思っただけでしたが、なぜか勉強を始めた時にこの言葉がチカチカしました。そして、勉強の仕方云々

卒業四十周年記念…… (A組からH組までの思い出 & 新二七回生の思い出 幹事会K組からのお知らせ)

27回

昨年から代表幹事を指名され半年に一回の定例会に出席させて頂いています。還暦を迎えようとしている私がまだ小僧の様な代表会議です。皆様お元気で七十代、八十代の方もいて新宿高校の今後を生きいきと話していると同時に、自分が過ごした高校時代に誇りを持って生きていらっしやる感じがひしひしと伝わってきます。

私の在学中は新宿駅の南口を出るとまだ汚い一杯飲み屋が並んでいる頃でした。昭和の香りどころか場所によってはまだ戦後の香りすらする新宿でした。大人たちが前向きで混雑する通勤電車をものともせずに乗っている中、我々高校生はわざと退廃した雰囲気を出しながら学校へ向かっていました。授業に間にあわないと、仲間に「○で待つ！」と書いた紙をドアからそっと差し入れ喫茶店に行ったものでした。それでも担任の有賀先生には迷惑はかけられないと、合唱コンクールや修学旅行は真面目にやったものです。車座になってベトナム戦争を語るという斜に構えた大人びたところと新宿御苑でハンカチ落としを真剣にや



2010年10月30日 27回生同窓会集合写真

る子供っぽい所と混在した高校時代でした。アコースティックギターの音が遠くから聞こえるようなアナログ時代が懐かしく今も当時の仲間と度々会って飲んでいます。

(代表幹事 F組 梶村 正彦)

クウちゃん

A組 大槻哲也

クウちゃんは、優秀で、明るくて、いつも音楽とともにいて、魅力的で素敵な人、そして何よりも本当に本当に優しい人でした。

館山臨海学校のととき、各班単位で何かしらの出し物をしましたよね。我が班は、クウちゃんから都々逸を教えてもらって、披露しました。みんな都々逸って何なのかさえ全然わかっていない年代だったけれど、クウちゃんのご指導どおりに覚えて渋く唸ってみせたら、先生方に大ウケしました。何度も行ったバリ島では、現地の人とすぐに仲良くなって、村の結婚式に呼ばれたり、お祭の神聖なお祈りに参列したり、お家に招かれたりと、楽しい経験を沢山しました。

趣味で始めたジャズボーカルでは、クウ

ちゃんは持ち前の音楽センスを発揮して、リズムあふれるスキヤット、バラエティに富んだフリーズ、心にしみるバラード、どれも素敵で聴く人を魅了していました。お店やプロのミュージシャンからも素晴らしいと認められ、歌仲間からも慕われていました。ライブでは新宿の同期が集まって、いつもミニクラス会でした。

何事にも前向きで、いつでも歌いどころでも踊る、一緒にいてすごく楽しいクウちゃん。いっぱい元気と幸せと愛をもらいました。

今でも、私が何かで悩んだりして、でも、「何とかなるかも。やっぱり頑張ってみようかな」なんて思い直したとき、『そうそう！その調子でね!!』って、クウちゃんの声が聞こえます。クウちゃんとの思い出は尽きませんね。

【クウちゃんこと大槻美絵（旧姓空閑）は、二〇一三年、一足早く翔び立っていきました。素敵なクラスメート、唯一無二の親友、大切な人生の伴侶でした】

共同執筆 吉沢日高（旧姓宇佐美）



バレーボール部の思い出

B組 高瀬靖幸

入学した七二年はミュンヘン五輪で男子バレーボールが金メダルを取った年。テレビアニメでは代表選手、監督、コーチ一人の生い立ちや金メダルへの想いを紹介し、空前のバレーボールブームでした。プリンス島岡選手やゲリラ木村選手を覚えていました。二人の名選手は私の中学の大先輩です。

六月のインターハイ予選が終わり、新チームが結成されるとすぐに一学期末試験。十日間身体を休めた後は、お盆前の合宿終了までぶつ通しの練習が続きます。体育館の練習は、守備八割、攻撃二割で個人技を伸ばします。三時間の練習の最後がグラウンドでの「ノック」。コーチの打つボールを、左右交互に5m走ってフライングレシーブします。ノックは十本から始め、毎日一本ずつ増やすので、合宿前には三十本近くになります。疲れきった身体で、手を使い切り伸ばしボールに向かって飛ぶので、腰骨やあごの傷は耐えません。それでもノックで今日の練習が終わると思えば、力がわいてきます。埃だらけの運動着を脱ぎ、頭から水を浴びた時の爽快さは忘れません。

この年のバレーボール部の合宿は、男女一緒に越後湯沢。毎日六時間の練習は、エアカン付きの体育館。費用援助いただいた先輩方のおかげです。合宿から試合形式のチーム練習が始まります。初日はOBチームに全く歯が立ちませんが、最終日の練習試合では、チームワークが少し出来てきたなという感じ。こうして、八月末の国体予選に向けた新チームが少しずつ出来上がってきます。中学から五五歳までバレーボールをしてきましたが、高校時代のこの一ヶ月ほど自分が上手になったと思ったことはありません。

二〇二〇年東京五輪、有明スタジアムにバレーボールを応援しに行きましょう。

思い出

C組 齋藤伸子

思い出はいろいろありますが、先生にまつわる思い出を二つご紹介します。

入学したばかりの一年生の、中野博之先生の現代国語の授業でのことでした。先生が順番に質問し、私の番になったときです。「うまくいえないんですけど、」と前置きしてから話そうとすると、先生から大声で

怒鳴られました。「うまく言えないとは何だ。甘えるな、言い訳をするな!」。怒鳴られて思わず泣きそうになりましたが、この言葉が真実であることは明白でした。うまく言えようが言えまいが、伝える努力こそが大切でした。ただし、それがわかったのは後になってからで、そのときは心の中で、「本当にうまく言えないと思ったんだ」とまだ言い訳をしていたのです。

もうひとつは、二年生の秋のことです。部活を辞めるかどうかという高校生にとっては重大な問題に悩み、その日私は、体育館の裏の外階段に立って一人で考えていました。そこは学校の駐車場に面しており、止めてある車の中に一人の先生の姿がありました。三十分もそこにいた後、もう帰ろうと階段を降り、「さようなら」と先生に挨拶すると、その先生は挨拶を返してすぐに車を発進されました。そこで初めて、先生は私のことを心配して車から見守っていたのだと気づきました。

怒鳴られたり見守られたり、どちらも本当にありがたいことでした。あれから四十年経って、そのありがたさが益々身にしみています。

紀伊國屋書店の裏

D 組 岩間邦彦

新宿高校での三年間は、まさに「自由な日々」でした。特に三年生になり、戸山戦が終わると多くの運動部では引退扱いとなり、卒業までは「さらに自由な日々」となりました。

もちろん、大学受験はだれもが頭の隅にあったと思いますが、十七、八才の若者を刺激する要素が新宿の街には満ち満ちていて、結果としてほとんどの男子生徒は、自由を満喫して高校生活を終え、浪人生活へと移行したのでした。

自由の使い方は人それぞれでしたが、私の記憶に残っているのは、「ジャズ喫茶」と「ビリヤード」です。ジャズ喫茶は、紀伊國屋書店の裏にあった「DUG」という店に通いました。近くに「DIG」という店もありましたが、そちらは会話禁止のプロ仕様という感じでした。初めは「ジャズを聴く」ではなく、「ジャズ喫茶に行く」ことが目的でしたが、充実したLPのコレクションを持つ仲間の影響もあって、一時は本気でジャズ関係の仕事をしたと思うこともありました。

新宿の街にはビリヤード場もたくさんあ

りましたが、よく通ったのは新宿末廣亭近くの古ぼけた小さな店でした。当時は「四つ玉」が主流で、その店にポケットの台はありませんでした。

このような日々は今でも楽しい思い出ですが、同時に芯がなくモヤモヤとした日々を過ごしていたという記憶もあります。自由をマネジメントするのは難事で、それなりの実力がないと自由を持て余すということを知ったのもこの頃でした。

短編集、E組の二年間

E 組 赤間正毅

■二年学園祭の前日、成子坂下にあった橋本君のお祖母さん経営の卓球場に泊まり込み前夜祭。一晩中橋本君の歌謡ワンマンショーに。このたび、その時回していた幻のテープ発掘。

■学園祭の出し物は人形劇でしたが、テレビ局まで取材して「セサミ」のようにラバーで作りました。この時に脚本演出をした小幡君は、演劇の世界に。

■二年時の修学旅行は鳥取島根。最終日、男女共に「朝日を見よう」てなわけで暗い中に外出。海辺で日の出を待ったのですが、

待てど暮らせど昇らん。なのに周りは明るくなる。当たり前です。日本海だから日は後ろから昇ってくる。誰か気づけよ（笑）

■三年時、前中先生が担任になった瞬間、「お前ら普段と違って修学旅行じゃ真面目だったそうじゃねえか、えれえ！」と褒められたのが、めっぽう嬉しかったです。榊原委員長のもと、みんなで「大人」に徹していましたから。

■体育祭の後、ご存知激安中華の「石の家」で打ち上げ。たまたま二階に案内されたら窓際で、駅への坂道まっ正面。同期の女子はもちろん帰宅する先生方ともご対面。どの先生も「お前ら、早く帰れ！」。

■合唱コンと校長杯を同時に取りました。二年時の担任田中先生が、体育教師並の運動神経だったせいではないですが、校長杯はダントツで強かった。しかし合唱コン優勝はさらに嬉しかった。アカペラでいったのが正解でした。

■卒業アルバムは、凝り過ぎて失敗。前中担任曰く「馬鹿ほどいっぱい写ってるだろ」。はい、仰せの通りで。



ありがたきものは新宿の友

F組 竹内伸介

神奈川県公立中学校の国語科教員となり、三五年がすぎた。定年まであと二年だがあまり実感がわかない。

先日勤務校の合唱コンクールがあり、開会式でこんな話をした。「自分が高校生の時の合唱コンクールでレコードを作った。六月に担任の先生の墓参りを兼ねてクラス会をやったときにそれをCDに焼き直して持ってきてくれた友人がいた。それを聴きながら昔話に花が咲いた。君たちが今日ここで歌う合唱も将来の宝物になるだろう」今はもうない日本青年館で行われた合唱コン。我がクラスの自由曲は「ひよっこりひょうたん島」。今は大学の先生として活躍している立川君が編曲し、私が振り付けと指揮をした踊り付き合唱だった。E組と共同でレコードを作った。賞のバッチと共に今でも手元にある。

担任は物理の有賀先生。梶村、秋山両幹事のお骨折りで介護施設にいらした頃から亡くなった後も毎年のようにクラス会をしてきた。

私は高校ではバスケット部だった。（他に新研で土岐君とガリ版刷りの「斜陽時

報」なるものを作り世界史の武井先生に怒られた）茅野の合宿では寺に泊まり朝の鐘で起こされ、8kmのランニングから一日が始まった。教員になってからもずっと運動部の顧問をしてきた。管理職になって指導も審判も引退してから体重は増え、血圧も悪化の一途をたどった。チームメイトの三上君がフルマラソンで三時間を切ると聞き自分も走り始めた。去年の市民マラソンでは十マイルを走った。話のネタでも健康面でも高校時代の経験や友人が私を支えてくれている。

G組は、地味だけどガッツリのG

G組 金子尚子（旧姓神藤）

とにかく現役高校時代はどちらかというと地味な印象のG。だけど、還暦を迎えようとすると今になって、皆ガッツリ生きているのが私たちGです！特に高校生時代は、男子と女子が話することなく卒業したといっても過言ではないのですが、今になって男子と女子が仲良くお喋りすることが楽しくてたまりません。大人になって利害関係、損得勘定、上下関係、等々…。人間関

係で多くの煩わしさを抱えた私達ですが。ひとたび高校時代の仲間に出ると、一気にタイムトラベル！ 同じ歌を歌い、同じファッションに身を包み、同じスポーツ選手活躍を見、同じアイドルに憧れた同じ時代の仲間です。会えばいつでも、ドラえもんどこでもドアのように同じ時代に帰れるんです。さて、「あの時代」を振りかえれば。

●ファッション 高校生でも手に入ったジーンズ。男子もベルボトムをはいていたね。わたしはホットパンツなんかはいて登校した日もあります。髪の毛は男子も長髪が流行りました。

●御苑大好き。体育の時のマラソン、部活動の準備運動でよく御苑二周をやりました。桜も咲くすばらしい裏庭です。

●音楽 アイドルでは山口百恵などが流行。軽音楽部ではレッドツェッペリン、ローリングストーンズ、などを演奏。その他にもカーペンターズ、ABBAなどが街に流れていました。

●先生たち 担任は豊原先生でした。柔道が強く、お酒が好きでタフに見えた先生でしたが、意外にも早くに亡くなられ、残念でなりません。今だったらあの頃先生の考えていたことが少しはわかるでしょうに。今豊原先生を囲んで飲み会のできない寂し

さをお願いします。生物の石川太郎先生も楽しい先生でした。地学の豊沢先生も恋の出会いから破綻(?)までをよく話してくれました。今の高校にそんな先生いるのかな？ 武井先生には世界史を教えていただきました。今でもあの話しぶり、黒板の書きぶりを思い出します。日直は前回までの板書を書かねばならず、とても大変な思いをした覚えがあります。それなのに内容はよく覚えていません。また私ジンちゃんは物理と数学Ⅲがとて苦手でして、いつもその授業になるとぐっすり寝てしまいました。足をつねる、コンパスで手をさす、昼にこっそりコーヒーを飲んでみる、一番前の席に座る、などなど様々な工夫をこらしました。しかし毎回復てしまいました。ここで培った度胸(?)は、学校長になった今も役立つて(?)いて、自分が司会をしていながらあまりの退屈さにぐっすり寝込んでしまったこともあります。(だめだろ!?)というように学びの多かった(?)授業、そして先生方を今でもみんな懐かしく思い出します。

●そしてG組の今! 今も何人かで集まってテニスをしたり、ゴルフをしたり、美術展を見に行ったり、飲み会を催したり、しています。中でも立花氏、中嶋氏、吉上氏、鈴木氏、のように音楽活動をやっておられ

る方々がおり、宣伝のあったところからお互いに演奏、公演を見に行っています。これを見たG組の方々、演奏会などのお知らせは立花、佐野、折井、金子のいずれかまでお知らせください。もちろん他の組も歓迎です。

新宿高校H組の思い出

H組 菅谷 隆

今も新宿南口を見ると思い浮かびます。ゆるい坂道の先の階段を下りて道路橋をくぐり、線路脇の道を進んで校門を抜けると、左右に図書館と食堂があり正面にはピロティが広がっています。一九七三年、教室からは窓越しに御苑があり、授業が始まると深夜放送で重たくなった目蓋と格闘していました。

しかし抑揚のある声で生徒を呼ぶ英語の田中先生、麻雀とドライブの大好きな数学の宮下先生、長い眉毛が忘れられない政治・経済の福井先生、脱線話が止まらない現国の前中先生と沢山の個性豊かな先生の授業に惹きつけられました。しかし私の成績は低空飛行、英語のディクテーションが全然聞き取れないのにクラスの女子は早々

卒業五十周年…… 初の戦後生まれが歩んだ半世紀 17回

「そこ」に吹いていた

風を感じる

奥 武則



〈ことしの受験生は終戦直後の昭和二一、二年生まれの「ベビーブーム」第一波とあって全日制の応募者は六万一千六百五十人と昨年より約一万一千人多く、競争率は一・六八倍〉

一九六二（昭和三七）年三月一日の毎日新聞夕刊社会面。都立高校入試が始まったことを報じた記事の一節である。私たち十七回生は、この入試を経て新宿高校生になった。

「ベビーブーム」か。後には「団塊の世代」とも、「全共闘世代」とも呼ばれた。思えば、私たちはいつも時代の臨界を生きる運命を負わされてきた世代らしい（いままた「超高齢化社会」の「当事者」なのである）。

時代は、高度経済成長の坂道を懸命に

登っていた。在学した三年間の経済成長率は、7・5、10・4、9・5である。毎日通った国鉄渋谷駅も新宿駅も、さらに新宿駅南口から学校までの甲州街道もいつも何か工事をしていた。

私たちが通った初代校舎は、いま立派な三代目校舎がそびえる同じ場所にあった。しかし、「同じ」なのは場所だけである。盛り場・新宿の縁の脇にあって、まだ盛り場の空間に飲み込まれてはいなかった。学校のすぐ手前の交差点に「ジャズ喫茶」（いまならライブハウスということになるか）ACB（アシベ）があった。それがいわば、盛り場・新宿の縁だっただろうか。一九二三年完成の校舎は、当時すでに相当の「オンボロ」だった。だが、安手の建て増し木造校舎が並ぶ東京・世田谷のマンモス中学校から進学した人間には、ツタのからまる鐘塔の存在とともにそれは十分重厚に見えた。

私たちの世代の「集合的記憶」をかたづけくっているのは、何といっても東京オリンピックである。一九六四年、私たちは

三年生だった。しかし、オリンピックへの熱狂も含めて、さまざまに去来する記憶は断片的ですでにしてさだかではない。

五十年——半世紀。遠い昔。校舎も鐘楼もとっくの昔に消えてなくなった。

高校生活はわずか三年。私にとって、そしてすべての同期生にとっても、その後の人生の方がずっとずっと重い。だが、私はいまも「そこ」に吹いていた風を耳元に感じることができる。

血湧き肉躍る時代

近藤 均



沢登哲一校長始め、個性豊かな先生方と級友との三年間は、その後の人生を豊かなものにしてくれたと思う。高校入学後の一学期なんとなくよそよそしかったのが、夏の塩見で、同じ釜の飯を食い、雄々しい「六中健児の歌」を歌うことで、六中健児として育つてゆく。

授業二時間目と三時間目の間の校庭での、やや奇天烈な「業間体操」は、開放感を与えてくれたのかもしれない。ある時、数学

の孫ちゃん（今泉義男先生）が演壇に立ち、あのとばけた語り口で、確か「君たちの目は輝いている」と話された時、皆で大笑いしたものだ。

今、週刊誌で法律相談の連載を続けている竹下正己君が勤めた法律事務所原秀男弁護士は、北園高校（府立九中）時代の沢登校長の一番弟子と言われていた。

当時『高校一年生』（旺文社）には、寺内大吉氏（本名：成田有恒、六中十三回生）の「貴様と俺とは」が連載され、傘を開いて校舎の二階から飛び降りた生徒の話が載っていた。今回、国会図書館で読んでいて、所々で吹き出してしまった。しかし、同期生の三割が戦争で亡くなったそう。

同期の奥武則君の『昔』（都立高校）があった（二〇〇四年出版）には、当時の高校生活とともに、学校群制度導入の舞台裏が克明に書かれている。その十二年前には二年歳下の戸山高校生だった林望氏の『帰らぬ日遠い昔』が出版され、今回改めて読み、フィクションも含むが、詳細な高校生活が書かれていることに感心した。

その頃の新宿の空は、スモッグでどんよりした日が多かったのかどうか記憶にはつきりしないが、まだ公害が社会的に認知されていなかった。武田健君が東大五月祭で企画した当時公害反対運動の先頭で

闘っていた宇井純氏（東大助手）と厚生省の課長を招いての討論会を聴きに行ったこともあった。

高校一年の時にビートルズが来日し、三年の時に東京オリンピックがあった。通学路の鰻の「登亭」の並びに地下に続くジャズ喫茶「アシベ」があったが、我々は横目で見て通り過ぎただけである。後から振り返れば、私の中学の先輩のファイトイング原田が活躍した「血湧き肉躍る時代」だった。

妻の指定日

秋田 眞次



私には三人の孫娘がいますが、出来れば次は男の子を、と思わぬでもありません。以下、三十七年前の冬、三歳の長男に次いで弟の誕生を指して奮闘した時の話です。

当時、私は鉄鋼会社に勤める若手技術者、主力の圧延工場の建設を担当し多忙を極めていました。計画から二年、設備の発注、設計、製造を経て、現場工事に入り、据付、試運転等に忙しく、三ヶ月ほど会社に泊ま

り込んで、半徹夜状態の日々でした。巨大なプラントを頭で描いた通りの形にして動かすのは、技術者冥利につき、途轍もなく面白く、最初に数本の圧延を成功させた時に、現場で涙したことを昨日の如く思い出します。因みに、そのプラントは現在も主力工場として稼働しています。

たまに家に帰っても、息子は不思議な顔をするだけで近づきません。ある日、妻から会社で電話があり、三日後に家に戻って欲しい、長男一人では寂しいから、弟を作るのだと言います。指定日の夜、家に戻り、久しぶりにゆつたりと風呂に入り食事をして頑張ろう……としました。

ところが、連日満足に寝ていない上に、久々の我が家の布団は寝心地がよく、横には暖かいのが……。大事な時に、というとうとするのは自然の成り行きです。二回ほどとうとうとしたら、妻が「私だって好きでやっているわけではない」と怒ります。兎も角、二日連続で家に戻り、努力しました。

その時は結局失敗でしたが、一ヶ月後、また会社に電話があり、再度苦難の二晩を過ごし、今度はうまくいったようです。妻は体を酸性だかアルカリ性だかにして、男の子を狙っていたらしく、十ヶ月後に無事男の子、つまり次男が誕生、苦労が報われ

ました。会社の上司や同僚に男の子が生まれたと言うと、家に帰っていないのに子供が出来るはずがない。お前の子ではないと言います。

次男は今三七歳、顔も性格も私に似ており、間違いなく我息子……と思います。

パラグライダーで世界を

岡 良樹



新宿高校を卒業し、早稲田大学大学院修士課程を修了したにもかかわらず就職をせず、五木寛之の『青年は荒野を目指す』に触発され、

ヨーロッパに渡り、フランスのスキー場でアルバイトをしながら過ごした。三年目の夏に目にしたハングライダーに魅せられ特訓をし、このスポーツを日本に広めようと帰国して早四十年。

そのタイミングで、スキーのディスカウントショップのはしりとなった「小川スポーツ」の社長と運命の出会いをする。ちょうど日本で最初のハングライダーのスクールを立ち上げることにになり、ヨーロッパ仕込みの私にインストラクターを依頼さ

れたのだ。

その後、ハングライダー部門が独立し、ハングライダー専門の「ファルホーク」を小川氏と設立し、ハングのスクーリングとハングライダーの製造を行う。それまで最も簡便な空飛ぶスポーツであったハングライダーに遅れること十余年、さらに勘弁なパラグライダーが登場する。こちらは四角いパラシユートに似た、骨組みの無い、ナイロンの生地とケプラーなどのロープだけで構成され、畳めばリュックサックに収まってしまふ大きさで、重量も六キロと軽量。落下を防ぐパラシユートの安全なイメージとバブルのタイミングが合致して、パラグライダーの創世期は爆発的な人気を博した。



今現在は、競技人口一万人程度で推移している。なんと

いってもパラグライダーが楽しいのは、簡便でどこへでも行けることだ。また飛ぶために体力は必要ない。したがって、ジョギング程度が出来さえすればいくつになっても飛べる。

八年前からアキュラシーという着陸精度を競う大会に参加している。これはいたって簡単なルールで、地面に2センチのターゲットがあつて、いかにその近くに降りるかを競う。二年ごとに世界選手権とアジア選手権が行われるので、毎年どこかで日本代表として戦っている。パラグライダーをやっていないければ一生行かないようなところへ行かれるのも楽しみの一つだ。生涯現役を貫けたらと思っている。

おかげさま

小島（今尾）美恵子



六歳上の兄が新宿高校に入学、その後医者になりました。何も考えることもなく、私も後をついて新宿高校へ。入学当初、兄に縁のあった先生方から「今尾の妹か？」と声をかけられ恥ずかしかったことを思い出します。

授業の進みが速く、副読本などもあり、予習をすると復習の時間がなくなり、どんどん遅れてすぐに落ちこぼれてしまいました。それなのに在学中、日本舞踊、長唄などの習い事は休まず、好きなことは存分に

やっています。

全体が受験体制の三年の時、何と。受験物理選択クラスのE組に。担任は有賀健治先生。文系受験の上、物理は科目にない困惑していました。有賀先生は「授業に出なくて良い。図書館で自分の勉強をしないさい」と仰って下さり、お言葉に甘え物理の授業は受けませんでした。私どうして卒業できたのかしら。不思議。不思議ではなく、有賀先生の心優しきご配慮の賜物。おかげさま、と深く感謝しております。卒業後も気にかけて下さいました。私の人生の分岐点は高校時代にあったと、改めて思います。

女義太夫演奏家として四十余年となります。入門した頃の頃、東京都の邦楽演奏会がお堀端の第一生命ホールで催され、受付をしていました。出演者に面会を乞う方がありました。何と。二年G組の時の担任、世界史の丸山外史先生でした。「えー。ど



うして?」。お互いにびっくり。ご長女が義太夫の三味線弾きを志し大阪で修行中。その師匠にご挨拶にみえたとのこと。不思議なご縁に重ねて驚きました。その後鶴澤寛也(芸名)としてご活躍です。

年に一度催す「竹本土佐恵の会」には高校時代の友人達が誘い合って来て下さり、毎回盛会となり大変有難く思っております。生涯現役と言いたいところですが、「八十八歳まで元気に現役」を目標に頑張ります。どうぞ応援の程、よろしくお頼み申し上げます。(重要無形文化財総合指定保持者)

研究に魅せられて

武田 健



高校卒業後、薬学部 of 大学院を終え、医学部で二十年間癌の研究を、薬学部にて二十年間環境と健康に関する研究を行ってきました。十年以上前から小さな粒子の健康影響の研究に取り組んでいます。「中国の大気汚染」や「P・M_{2.5}」などの話題が報道されるようになってから、研究成果の社会貢献を強く意識すると同時に、伝えることの難

しさを痛感しています。

P・M_{2.5}(粒径2.5マイクロメートル以下の粒子)には粒子濃度と死亡数などの統計から基準値が設定されています。死亡の主な原因は心筋梗塞など循環器疾患と考えられています。なぜ循環器疾患なのか。解明が必要です。喘息などの呼吸器疾患との関わりの研究も盛んです。しかし、健康者には影響がほとんど見られないか、直ぐにはできません。煙草と同じです。

私の研究は、最も影響を受けやすい人たちを対象としました。妊娠している母親です。いや母親ではなく、妊娠中に粒子を大量に吸った母親から生まれてくる子です。ディーゼルエンジンの排ガス曝露装置を大学内につくり、実験動物を対象としました。その研究の過程でP・M_{2.5}に含まれるよりさらに小さな粒子のナノ粒子、私がP・M_{0.1}と呼んでいる粒子が脳や生殖系、免疫系などに様々な影響を及ぼすことを世界に先駆けて明らかにしました。自動車が出す粒子以外に、工業的につくられるナノ素材の粒子も同様です。トナーなどに使われるカーボンブラック、化粧品として使われる酸化チタンナノ粒子など多種多様の粒子です。子の脳の細い血管周囲の細胞が傷害され、血管が閉塞している写真が撮れています。ナノ粒子は体に入ったあと外

に出にくい。長期にわたって留まり、体に刺激を与え続けます。

しかし、ご安心ください。ナノ粒子を基準値を超えて大量に吸い続けなければ、あるいは化粧品を塗っても角質層が大きく傷ついていなければ良いのです。ただし、どの国でも大気中（室内空気中）のP・M_{2.5}やPM₁₀・1の濃度を下げる努力は必要でしょう。

私の銀行員生活

関根 篤太郎



一九七〇年に入行以来、銀行員生活二八年のうち十三年間が海外勤務でした（一九八四年から九一年まで香港、九四年から九八年までロスアンゼルス、シカゴ）。

香港は当時英国領でアジア有数の国際金融市場でした。英米銀行が幅を利かせていました。シンジケートローンの主幹事獲得のために韓国、インドネシア、タイ、インド等に出張しました。当時の韓国財閥系の幹部社員は日本の高度成長期のサラリーマンのようにプライドに溢れていました。一

九八九年に天安門事件が起き、中国返還が確定した香港も騒然としました。邦銀は貸出資産を積み上げて、アジアのデールの主幹事を務め英米系銀行が従う例が多くなりました。

帰国後数年間で、ロスアンゼルス支店に異動しました。米国西海岸の不動産市場はバブル崩壊直後で宴の後の様相でした。銀行合併によりロスアンゼルス支店も統合され、合併後のシカゴ支店へ発令されました。米人行員百人程度の店舗です。シカゴでは、中西部の山奥に日本の自動車関連企業が現地生産を行っており、海外経験の少ない日本人が米人を指示しているのを見て真のグローバルゼーションと感心しました。海外合併支店は大変でしたが、帰国時に米人行員から「支店長が赴任した時は心配したが、公平に扱ってくれて有難う」と言われました。

一九九八年から二〇一一年まで銀行系のリース会社に勤務しましたが、ここでも二回の合併を経験しました。銀行に入った時は多数あった都市銀行も今は三メガバンクを中心に集約され、まさに金融業界も激動の五十年でした。これからも六中精神で残りの人生を充実させたいと思っています。

学び直しの楽しさ

竹中 哲也



平成二二年、六三歳になる二月で、四十年の会社生活を仕舞いしました。

三鷹ICU・市民聴講という安くて誰でも参加できる聴講を見つけ、新学期から通いました。ICUは次女が以前通っており、深い木立にコンパクトに配置された学舎が印象的で、こんなところでまた勉強できたらいいなあと思っていた場所でした。聴講は、学部のクラスにシニアが参加という、躊躇してしまう状況でしたが、思い切って英語で行われる授業を選びました。

武蔵境駅からはICU行バスですが、ほとんどが学生で、しかも女子が六割位。バスは構内まで入り、そこから学生に交じって五分位教室まで歩きます。いつもの自意識過剰が出て、学生にどうみられるのか、とても気になりました。学生とは思われないうえに、さりとて教員と思われるのも困るなということで、服装は真面目な学生程度のカジュアルさにしました。娘が、「お父様がいても、ICUだと、いろいろな人がいるから、そんなに違和感ないよ」

と背中を押してくれたので、少し緊張感が取れました。

クラスは、留学生と帰国子女、それに純日本人学生が半々位でした。授業の進め方は、課題文献があり、パワポとインターネットを使って、学生に質問しながら、双方向に進められます。今の授業は、みなそういうのではないでしょうか、昔の大教室講義形式の記憶しかない私には、とても新鮮で、楽しいものでした。小グループ討論と課題発表にも参加させてもらいましたが、プレゼンと議論はやはり留学生が上手ですね。

学生が、私をどのように感じていたのかわからないのですが、サラリーマン人生の垢が溜まった私にとっては、青春真っ盛りの青年たちと、教室で、図書館で、学食で一緒させてもらって学ぶという、楽しくリフレッシュな経験でした。

日本では、シニア専門の講座が多いようですが、米国では、クラス参加型が豊富なようです。クラス参加方式が日本でも増えると双方にとって利点があるように思いますが、教授はいやかも？



新宿女子今昔

田辺（笠原）圭子



四月二十六日開催予定の卒業五十周年記念大同期会の準備のために集まったクラスメート。五十年たっても、姿、形は多少変化しているものの、声や性格（お話しの内容）は、高校生時代を彷彿させ、古希が近づいていることを忘れさせるほど懐かしく感じました。その席で私が寄稿するようご指名されました。

新宿高校の三年間は、周囲秀才ばかりで、劣等生の私には学業では良い思い出はありません。放課後クラスメートと、新宿の繁華街に寄り道しました。さる筋の「姉さん」が新宿高校のOGで、在校生に手出しはしないという噂があり、昔はかなり危険な雰囲気だった歌舞伎町もブラブラしました。午後の授業をさぼって、伊勢丹そばの「武蔵野館」で名画鑑賞しました。「風と共に去りぬ」を全編立ちっぱなしで見たことが印象に残っています。

水上の林間学校での谷川岳登山は、途中頭痛、吐き気で脱落して、石川太郎先生の付き添いで下山。谷川岳登山開始以来初の

落伍者といわれました。後年、ユングフラウヨッホ、ニセコアンヌプリでも高山病になりました。

この夏、デング熱騒ぎで一時期閉園になった新宿御苑は、第二グラウンドの壁の穴から無断進入する憩いの場でした。クラス全員で輪になってハンカチ落としなどして、今思うとかわいい高校生でした。

さてそれから五十年後の私。専業主婦歴四十余年、月一のゴルフと体力維持・高血圧予防のための毎日五十〜六十分、六千歩を目標に速歩しています。三年前、十五年ぶりにスキーを再開し、真っ白なゲレンデを滑る楽しみに目覚めました。スピードは控え目に、後姿は若作りで頑張るつもりです。

最後に私の夢は、母校の野球部が夏の全国高校野球大会の東東京代表になり、甲子園で応援することです。女子生徒が半数を越え、部員の減少で存続が危ぶまれている現状のこと。京大の田中英祐君のように文武両道で頑張る生徒が、多数入部することを願っています。



言われてみると五十年

山路 一隆



十月三日、救急隊から連絡があり家内がくも膜下出血で倒れ、病院に搬送されたことを知った。

緊急手術の三時間、過去五十年が繰り返しの繰り返し走馬燈のように流れていった。家内とは、二年A組で出会った水野武子で、その後の人生を共に歩んでくれている。

大学四年の時に安田講堂事件にぶつかり、工学部の代表として事態の収拾にあたる過程で、理系文系を超えて多くの友人ができて、結果として人生に大きな影響をもたらした。石油会社での三五年間はいろいろありました。通産省担当時、徳山での火災事故、エチレン不況カルテル立ち上げ等に係わり、その仕事ぶりを高杉良氏の『虚構の城』に描かれたこと、五年間の海外駐在、五年間の合成樹脂営業、その後の二十年間の新規事業開発、バブル崩壊、台湾での事業立ち上げ等、夢中で過ごした日々でした。

五十歳代後半で退社し、京葉コンビナート化学会社の退職者・技術者を集め、中小企業支援のNPO活動を開始したが、小宮山元総長と同じ研究室であった縁で、六十

歳を過ぎて東大勤務となり、思いがけない展開となった。昨年は六年に一度の総長選挙。私の仕事は寄附集めの渉外業務で、総長・理事が動いてくれないと大きな話が進まない。今後の活動が楽しみとなった。

家庭では些細なきっかけから犬と生活を共にすることになった。二五年ほど前からである。子は親の鎧というが、我が家では三人の娘たちは家を離れ、二匹の犬が夫婦の鎧となっている。合計体重百キロの大型犬は二人で協力しないと飼えないからです。高校の卓球部の仲間たち、中山、高橋、鈴木、亀岡、紀の各氏、明石、鈴木、唐寄の各女子、中学から同期の宮坂、嘉山、武田の各氏とも、少ない機会であるが時に旧交を温めている。

家内は、幸いなことに無事退院。目立った後遺症も無く、少しずつ日常性を取り戻しつつある。今後は、五月、三女の台湾青年との結婚式に備え、体力作りに入る。残された人生を、妻とそして犬と共にゆっくり過ごして行きたいと思っているが、もう少し変化のある人生が続きそうである。



平凡な人生

山本なおこ（柘植直子）



雨季の最中、白頭鷺が巣作りしている姿を窓から眺めながら、この平穏の日々に過去を振り返る。

大学を卒業後早々に結婚。夫の転勤に続く転勤。まずは三十歳の誕生日はイランのシラズだった。滞在した二年でパーレビ国王が、ホメーニ師を中心とした宗教勢力の台頭で呆気なく倒される。石油のおかげで多かった外国人は出国を余儀なくされ、スーケース一つで帰国。父がよく「平凡な人生を送ることは難しい。自分たちの時代に戦争があるなんて夢にも思わなかった」と話していたことを思い出す。

暫く日本で暮らした後、次は米国オハイオ州アクロン。雪深い五大湖の辺。慣れて心地よく暮らせるようになるとまたも転勤。今度は、カントリーミュージックの町、テネシー州ナッシュビルへ。南部訛りには閉口したが、経済は活発で若く元気な感じだ。ここも、電車もバスもないので、子供たちの学校との送迎をはじめ、私は常にお抱え運転手役である。

七年後、晴天の霹靂で、夫のメキシコ転

勤が決まり、家族で引っ越すことを前提にメキシコ市のアメリカン・スクールを見学するため訪問。ところが子供たちの反対に負けて家族はナッシュビルに残り、夫は単身赴任。私のみ両市を往き来する。

四年ほどのメキシコ勤務の後、戻った夫を待っていたのはリコール問題。これで主だった日本人は帰国せよとの命で、夫は米国に残るべく退社。シカゴで別の職に就く。あちこちへの引越していつも救われるのは友情である。日本でも海外でも近所の人々や趣味を通じての友達には心底お世話になった。高校、大学時代の友達とのメールや電話でのおしゃべりがどれ程の助けになったか計り知れない。引っ越す度に別れは辛い、その分また新たな人々との出会いがある。

三年前初めて自分で選んだ土地へ引っ越した。日本に近い米国北西部のシアトル郊外である。海に囲まれた気候が穏やかな自然豊かな土地である。海の幸、山の幸に恵まれ、食べ物が美味しく、人は親切で気取らない。この平凡な生活を大切に思う。



仲間はいつまでも

田中 俊郎



父の転勤で、私は幼稚園二つ、小学校三つ、中学校三つと転校を繰り返してきた。新宿高校は、入学から卒業まで過ごした最初の学校であった。

その新宿での三年間は、サッカーに明け暮れた。東京都でベスト8に三回なったのも良い思い出である。東京五輪では、母親まで並ばせて得た切符で6試合も観戦した。その都度「公欠」を認めて下さった担任の丸山外史先生。その先生の一言が一つのきっかけとなって大学教師の道を選んだ。

三田の職場には転勤がないので、自分づくった。米、英、白、伊、白へと留学した。観るものになったサッカーとは大学でもご縁があり、「サッカー部長」を十九年務めた。高校時代の部顧問、体育の須田一先生（すだちん）の合宿での「やかん酒」を懐かしく思い出しながら、六蹴会（新宿サッカー部OB会）の仲間たちと定期的に飲んでいる。

新十七回の名簿に載っているメンバーは、転出した生徒（X組）を含めて、合計四二

八名。住所不明も多いが、亡くなった友は十九名になる。私にとって特に印象深く残念に思うのは、二年末から「特考」の張り出しの常連で、秀才の誉れ高かった数学者、浅田健嗣君、精神科医としてまだまだ多くの病める人々を救うことを期待されていた稗田正志君、当時としては珍しかった赤革のスパイクを履き、鬼のような形相でバックラインのセンターを死守してくれたサッカー部の仲間、山尾浩久君。ここでこの文を終えることにしていた。しかし、原稿締め切り直前に、もう一人追加を余儀なくされた。水泳部で見事な逆三角形のプロボーションを誇り、「海の男」として世界の港を渡り歩いていた島雄節彦君である。合掌。今年卒業五十年。同期会は、不定期的に何回も催してきたが、一度逃すと何年も会えない。お別れになってしまいかもしれない。そこで還暦祝賀時から、毎年（三十一の年は自粛）同期会をクラス順の幹事団によって開催してきた。古希、東京オリ



ンピック・パラリンピック、新宿高校創立百年、喜寿、傘寿、米寿、卒寿、白寿を目標に毎年お会いしましょう。

と答案を出すのを見て焦り、どんどん進む授業に心が沈みがちでした。

それでも夏の授業のプールサイドは、まだ高層ビルが無いばかりとした新宿の青空に映画館の看板や丸井が映ってのんびりした別天地でした。放課後はボロボロの部屋で着替えデコボコのテニスコートに石のローラーを一生懸命掛け、下校のシバの女王であつたという間に終わる日々でしたが、新宿厚生年金会館での「真夏の夜の夢」の舞台を皆でやりとげたりと、生き生きとした毎日でした。フォークソングを聞いて長髪で背伸びをした時代、卒業するとクラスメイトの笑顔は僕の宝物になりました。そして今、仕事では得られない大切なクラスメイトは人生のクラスメイトになりました。

四十周年同期会は

11月7日(土) ですよ！

K組 小林 誠

私たち新二七回生は、これまで同期会を三十周年、三五周年と開き、今年は表題の通り四十周年を予定しています。詳細は追ってご案内しますが、当日の午後から夜

は皆さんぜひとも時間を確保しておいてくださいね。

幹事団は各クラス2〜3名。男子11名、女子10名で、同期会のたびに交代するといふ訳でもないのです、自分たちで「3年K(＝幹事)組」と呼んでいます。

私にとってこのメンバーは、同じクラスだった人以外は在校中にはほとんど話したことがなかった顔ぶれなのですが、過去二回の同期会、そして今回の準備を進める中で、当然ながら共に老けていく同志として、ずっとクラスメートであつたかのような錯覚を覚えます。

打ち合わせのたびに感心するのは、卒業後の長い年月を経て、様々な境遇、価値観、立場にいるであろう旧友のことに、皆さんがよく思いを巡らせているということです。討議のテーマは細かなことも含めて多岐にわたり、議論は時に白熱、時にぐだぐだ。思いの外の長時間に渡ることにもよくありますが、お互いの話をよく聞き、根気強く「大人の落としどころ」を探り合います。その点では、文字通り還暦を間近にした「クラスメート」に学ぶところ大であり、懐かしい思い出とともに、新宿に通つてよかったなとしみじみ感じている次第です。この秋に向けて目下プランを練っていますので、皆さんどうぞお元気で。今回の幹事

長は松野淳子(H組・旧姓平田)さんと、私(D組)が担当します。よろしくお願いします。

四十周年記念記事 編集後記

代表幹事 H組 北島行雄

今回の四十周年の記念記事原稿は、K組幹事を通じて無事に収集することができました。さすが新二七回生は一芸に秀でる筆達者なメンバー揃いで、どの記事もあの頃が昨日の出来事の様な臨場感で鮮やかに表現され、思い出が生き生きと蘇る素晴らしい出来事です。お蔭様で私はこの大役を果たすことができて感激しています。

この場を借りて恐縮ですが、執筆頂いた皆様、ご協力いただいた同窓会編集長の林様はじめ関係各位の皆様へ心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

新二七回生の皆様には、本年十一月七日の同窓会にて、新宿高校同窓の誇りを胸に、年齢相応のそれなりの元気な姿で再会できる事を楽しみにいたしております。

以上



「卒業六十周年」

新七回この十年……

結構頑張ってきました

7回

我々の学年が母校に入学したのは一九五二年、母校創立三十年という節目の年でした。その秋に新制高校としての今の校歌が発表されました。卒業は一九五五年ですから卒業五十周年を祝ったのが母校の三代目新校舎落成の二〇〇五年となり、またも節目の年でした。（旧同窓会館で同期会を開催したのがその三年前。）

その頃から、つまり古稀を目前にしてから同期会活動は総会が二年ピッチで開催されたのははじめ種々活発化しました。まず、すでに同期のミニイベントとして実績のあった「新七会ゴルフ」が賑わって来ました（別掲）。

囲碁仲間の「朝陽」への寄稿がきっかけになって先輩後輩との交流へ、さらに戸山高校「城北会」との囲碁交流にまで発展。これを契機に、十一回生との協力によるゴルフなど他の分野でも種々交流が生じたことは周知の通りで、同期出身の吉村幹事長の同窓会活性化にバックアップが果たせたかと関係者は勝手に満足しています。

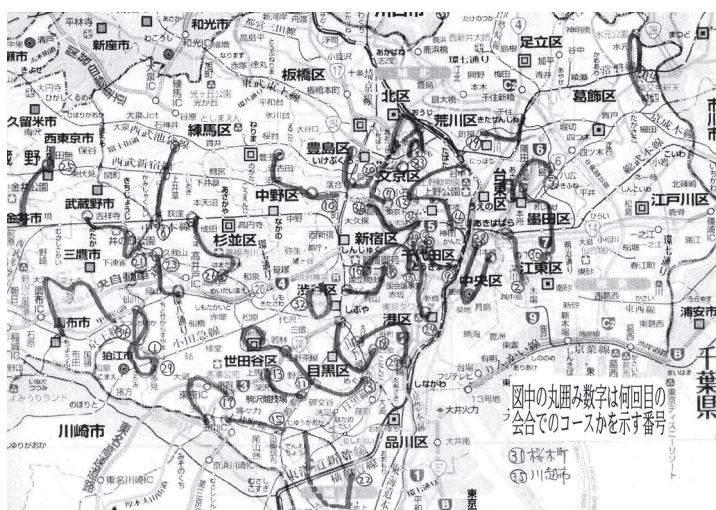
そのほか新趣向の散歩のグループが人気

を集めました。まずこの散歩行事についてレポートします。

七歩会のこと

〇六年に始まった散歩の会「七歩会」は、古稀を前に心身の健康維持を図り、寺社・公園の水と緑や江戸情緒を残す街並みに心を癒すべく皆で歩こうという趣旨。九年間四季一回ずつ三六回開催されました。喜寿を越えた本年は十年目に突入することになります。

この話はまだ発足直後のテストケースだった一年目四回分を「朝陽」五六号同期会だよりで報告したとおり、ヘコースは東京都二三区内、歩行時間は十〜十六時の正味五時間。幹事下見所要時間の三倍をかけてゆっくり見聞する。出欠登録不要、途中からの遅参・早退も自由。解散後希望者で軽く一杯」とし、そのためにコース設定は電車・バスの便のいい地域に限定しました。そんな自由なコンセプトが長続きの秘訣だったのでしょうか。参加人数平均二十名余りは存外の好成績でした。喜寿の今でこ



そ流石にピークを越えた気味がありますが、三十名以上の日もあって幹事の目が届かず健脚組と懇親のんびり組との間が千切れてしまったり、迷子が多かったりのハプニングも。当日の都合で不参加だった人やまた出直したい人のために幹事が残した紀行文まがいのメモも結構重宝されているようです。幹事の反省としては、健康ウォーク重視の

コースのため文学散歩・歴史散歩としての
質問要望によく答えられなかったこと、記
念館・美術館見学の時間が不足したことが
あります。昼食のグルメやおしゃべりの楽
しみにも時間が欲しかったけれど、まあ欲
張っても無理でしょう。

この号発行の頃には恒例のお花見コースか
ら十年目が始まります。この機会に過去三
六回分の概要を地図つきの一覧形式で総括
してみました。御参考になれば幸いです。
「紀行文」は同窓会事務局にファイルして
あります。

(代表幹事・七歩会幹事 森田 亨)



第13回世田谷駒沢 双子の給水塔 '09.3.20

よくも続いた新七会ゴルフ会

卒業六十年を迎えた今、同期生の約一割
はこの世にいないが、残っている者のうち
約二〇〜二四人が年二回行われるゴルフ会
に参加している。発足当初は趣味の集まり
として少人数のプライベートコンペだった
が、段々人数も増え、正式に同期会の行事
として定着した。

名称は「新七会ゴルフ会」。昨年十月で
四三回を数えるに至った。病氣その他でリ
タイヤした者もいるが、最盛期には四十名
近い大コンペもあった。開催は原則春と秋
の年二回。夫婦参加大歓迎で頭数確保には
大いに助かっている。小生と小谷野君の二
人が永久幹事に祭り上げられて毎回コース
取りには苦労しているが、首都圏から割と
近く、程度も良いコースを取るようになって
いる。会員の温情によって何とか苦情も言
われず続いている。

以前は固定ハンディキャップで、成績順
位で増減していたが、昨年の会からはペ
リア方式に改め、誰にも優勝のチャンスが
巡ってくるようになった。

現役を退く者が増え、皆さんヒマができ
たので六年前からは長野県佐久の春日温泉
に一泊して周辺のコースで一日か二日のエ
クストラ新七会コンペも行っている。この



会はたまた
ま現地に移
住した名村
君のお世話
になってい
る。最大三
組十二名が
やつとだが
中には神戸
から参加の
会員や、新
宿高校関係
者、ご家族
の参加もあ
りミニ同窓
会の様相を

呈している。

さて、昨年は会員のうち三名がこの世に
お別れを告げた。この春のコンペは人数が
減るので頭を痛めているが、会員の中には
同期会同様生きているうちは続けようとい
う声が多い。会員の協力によってこの会が
末永く続くことを祈っている。

(幹事 長谷川澄雄)



卒業七十周年……

紅顔の美少年？ も米寿に

中20回

六中20回生の大半は、昭和3年4月2日～4年4月1日の生まれ、その4分の3が今年数え八十八歳の米寿を迎える。60周年の諸兄姉（70周年の我々には姉はいない）も後期高齢者であるが、十年（年齢は八歳）先輩として貴重な紙面を頂くこととした。拙稿を草するに際し、文末に掲載の文献を参考にした。以下参考文献の2を引用しながら進めて行く。

(1) 昭和16年2月25日、入学志願者五十五名、3月8日、入学考査（3日間）——筆者は六中と同じ内藤町に居住、家から一番近い学校として受験した。新宿御苑の東端に接する自宅から、西端にある六中に通学することになった。始業時間は冬季7時47分、夏季7時17分、家を出発する時間をそれぞれ7時30分、7時丁度と定めていた。遅刻に厳しかったので、御苑の塀に沿って駆歩、健康長寿に効果があったようだ。

(2) 同年4月1日入学式、2日対面式（先輩二～五年生と新入生との対面、明治神宮参拝）——記念写真撮影、六中の伝統である。

(3) 同年12月8日、対米・英宣戦詔書渙発——二階校長以下、全教職員、生徒一同、歓

喜の声を挙げる中、国語の岡本優太郎先生が「これは容易からぬ事態である」とお話をされたのが印象的であった。

(4) 17年4月18日、米機初空襲——ノースアメリカンB25の機体を筆者も目撃した。

(5) 同年7月29日、二年塩見臨海授業——筆者は参加直前赤帽（初心者）を脱却、遠泳の経験が貴重。

(6) 同年12月2日、競歩（深大寺大國魂神社往復）——当時は行軍競争と称していたと思う。A～Fクラス、各クラスを上中下三チームと個人数名に分けて小田急参宮橋を出発点として競争、よく鍛えられました。

(7) 19年8月21日、三年廠営——習志野で四日間。

(8) 19年7月28日、四年勤労動員——この頃はA～F組は敵性文字だとして一～六組（なお三年進級時にクラス替えがあった）一～三組は横河電機、四～六組は中島飛行機へ、筆者は横河電機で研磨盤作業、昼夜二交代でベアリングを磨いていた。同じ職場には女学生も動員で配属されており、何事も初体験であった。

(9) 同年11月24日、空襲により中島飛行機

に動員中の四年生生徒10数名が軽傷を負い……数次の爆撃で、工員、他校の学生・生徒に多数の犠牲者が出た。

(10) 20年3月28日、第19回卒業式（四年・五年）——六中・新宿高校の歴史の中で2学年が同時に卒業したのは、この年だけだろうか。ここにいる四年とは20回生であり、五年とは19回生である。この時、一番焦ったのは20回生であろう。先輩の五年生、浪人生（他校も含む）と争って高校、高専、大学予科へ進学せねばならない。当時の忠君愛国の思想も当然ではあったが、先に進路が決まり19年9月～20年2月に入学できた軍諸学校（陸士・海兵他）へ約80名が進んだ。昭和50年これら諸君（含む筆者）に30年ぶりの卒業証書が授与された。

平成24年9月、母校創立90周年記念祝賀会に参加した。心身ともに健康状態を維持して、次の百周年を迎えたいと思う。

（中20回 清水 典郎）

△参考文献▽
1 「朝陽」44号 特集「卒業50年」

六中20回生十三名（うち五名は故人）が健筆を揮っている。

2 「五十年の歩み」府立六中・新宿高校昭和48年3月 記念誌編集委員会

3 「六十周年記念誌」昭和58年3月 記念誌編集委員会

北海道各地の新鮮魚貝、産地直送厳選素材を集めました

新宿 丸港水産

北海道直送の天然帆立の浜焼きや
根室産花咲ガニ・厚岸産の生牡蠣など
厳選素材を、漁師街の海の家の様な
活気あふれる店内で思う存分ご堪能下さい



東京都新宿区新宿3-12-12 吉田ビル1・2F

03-5367-2377

〈姉妹店〉 丸港水産 大和店 046-200-2730 神奈川県大和市大和南 1-2-8
丸港浜街道 行徳店 047-390-1105 千葉県市川市行徳駅前 1-17-7

からあげ 鳥 とり多津

外はカリッと中身はジューシー。

秘伝だれに8時間以上漬け込んだ専門店ならではの味わい

〈東京都〉 根津店 03-5832-7729	〈千葉県〉 京成大久保店 047-470-4129
千駄木店 03-5832-9625	
亀戸駅前店 03-5836-4129	〈神奈川県〉 茅ヶ崎店 0467-81-3374
平和島駅前店 03-6450-0281	川崎駅前大通店 044-200-8908
八幡山店 03-5316-1729	関内馬車道店 045-633-3480
方南町店 03-5305-4129	綱島店 045-533-4429
つつじヶ丘北口店 042-426-8125	〈静岡県〉 磐田店 0538-33-3456
三田駅前店 03-5765-2977	浜松葵東店 053-438-2883
落合駅前店 03-5348-7029	
東十条店 03-5902-5129	〈宮城県〉 仙台木町通店 022-346-6801
六本木店 03-6447-0032	仙台上杉店 022-797-4129
本郷三丁目店 03-5805-5029	仙台柳生店 022-797-5121



からあげグランプリ
東日本しょうゆだれ部門
平成24年～26年 三年連続
金賞受賞



蕎麦と手揚げ
波留乃屋

東京都港区芝4-9-3 5階

株式会社エフアンドビー・プロジェクト
代表取締役社長 織岡 陽一郎 (24回卒)

気象部の思い出

遙かなる青春の日

五回 粕谷恵美子



新宿高校は男子校なので入学前同じ中学女子四人で学校訪問し、教頭先生から校内限なく案内していただき女子用トイレの新設、体育の先生は女性で、コーラスで有名な六声会がある事等説明されました。その際、本館の街側の通路の窓ガラスが殆んど破られているので大変違和感を持ちました。しかし入学時父親から、長兄が創立時に入学（卒業は旧二回生）していた話をされ急に親近感を覚えて部活を考え二学期に上級生の天橋登さんに勧められて気象部に入りました。

部室は本館と体育館の間の細い路地を入って裏側にあり、窓の無い穴倉の様な部屋で机と椅子が幾つかと、机上に小さな本立てが置かれていて壁に日本の天気図が貼られていました。部長は二年生の吉田努さんで吉田姓の方が他にお二人いて日本橋からいらしての俊夫さんと中野からの方は幸夫さんでYYさんと呼ばれていました。同期では菊地さんだけでした。部活の主な活動は毎日ラジオの気象通報を聞きながら天気図を作成すること、雨量計、百葉箱の湿度計の記録記入や観天望気でした。

天気図が日本で初めて作られたのは一八八三年二月十六日です。

気象通報が地名、風向、風力、天気、気圧、温度の順に読み上げるのを聞きながら直接地図に記号で記入し、最後に等圧線を引いて仕上げるのですが初めは通報に追いつかず苦労しました。雨量計は部室の屋根の上に設置してあり、それで先輩達は部室の外側と本館の間のすきまを両方の壁に手を付いて這い上がっていました。或る時他に誰も居なかつたので思い切って這い上がって見たら案外上手く登れました。この技術は後日登山するようになった時に役に立ちました。それから屋根続きの体育館の屋上で鬼ごっこをしたりしました。

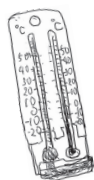
百葉箱は第一グラウンドと第二グラウンドのつなぎ目の三十平米位の緑の芝生のなかに建っていました。百葉箱内には通風型乾湿計と金属製自記温度計が設置されていて乾

湿計に使われていた毛髪は金髪でした。ここの部活は昼休みでした。天気の良い日、青い空と緑の芝生の中に真つ白な百葉箱が建つ風景は大変美しく、芝生の周りを縁取るようにクロウバーが生い茂り四葉を探しては葉にしてお借りした本の間に挟んでお返しすると喜ばれました。

雪量を第二グラウンドで一度測ったことがあります。確か気象上の晴の特異日といわれる四月十日の二日前で膝近くまで積もっていました。観天望気は放課後第一グラウンドの鐘撞堂を背にして全天を見渡し雲量と雲形を確かめるのです。そんな時、部長と先輩達がサッカーの練習をしていましたが何故かグラウンドがぬかるんで居たり小雨もよいの日でした。サッカーは未だ同好会だったのでグラウンドが空いている時しか使用出来なかつたのかも。サッカー部になつたのは、先輩達が卒業された翌年の様です。我々が入部した年の夏休みに先輩達は尾瀬にキャンプして雨量の研究をしたそうです。土曜日の午後は気象庁お天気相談所へ見学に行きました。大野所長さんは気さくな方で先輩達の質問に快く応じられてましたし、先輩達は、所長さんの許可を得て電話の取次ぎを手伝っていました。こんな風でその頃は天気予報に全関心を集中した毎日でした。三年生になると日常の部活は殆

ど二年生が主役になりました。

現在毎年参加している校歌祭で記念撮影の為に公会堂の階段を下りていると背後から「もしかして水泳部の先輩のMさんでは」と声を掛けられある記憶が甦ってきた。二年生の二学期にクラス対抗の水泳大会があり、借り着して出場し、その際プールサイドで大会の進行係りをしていた水泳部の北川茂治先輩の世話になった事です。一瞬戸惑って「いいえ、気象部でした」と答えると六十回生の札を下げた男性は、明らかに怪訝な顔をしました。後日、教務へ電話で問い合わせた所、部活の歴史や記録は何も残って無いそうです。気象部だけか、全ての部がそうなのか。美しい自然に恵まれた日本、反面自然災害も多い日本、二年前の調査では地学を選択する高校生は全体の七パーセントに過ぎないそうです。新宿高校に気象部が復活するのを願っています。



生物部の思い出・

チヨウと展示と浅間山

一九回 橋本健一



生物部への入部は高一の時昭和三九年である。様々な思い出のある中で印象深いのは高二時代の春の展示会・夏の合宿・学園祭の生物展であろう。

先ずは春の展示会。当時、初代校舎正門脇にあった部室として使用していた温室内に葉山海岸で採集したアメフラシなど磯の生き物、鉢植えの春の野草やギフチヨウなどの標本を展示した。果たしてどれだけの見学者があるか不安であったが、朝礼での呼びかけの甲斐もあつてか昼休みには多くの生徒が温室に向かつてくる。ところが、何だか様子が変わる。「何だいないじゃないか?」どうやら朝礼で「春の展示会」と叫んだのを「サルの展示会」と聞き違えたらしい。会期は四月二六日から三〇日。この間、例のアメフラシ君、猛烈な勢いで海藻を食べる。止む無く伊勢丹地下で生ワカメを買って与え続けた。「デバ地下のワカメを食べ続けたアメフラシは日本中探してもそうはいないだろう」とは同期の杉山隆君



学園祭生物展会場 浅間山パノラマ (撮影杉山隆)

の弁。

夏の合宿は八月九日から三泊四日、長野県佐久市にある山間の鉱泉・初谷鉱泉を基点に浅間山・神津牧場・信濃追分などを訪れた。この計画はすべて我々の手で行ったのだが、バスから列車への接続時間が僅かに二分と綱渡りのな設定など高校生ゆえの無謀な計画もあった。それでも、顧問の辻三男先生はいささかも異議を挟まれず最後

までお付き合い頂いた。今から思えば先生はヒヤヒヤものであったに違いない。最終日は信濃追分の通称追分原へ向かう。雄大な浅間山を背景に現在では各地で減少著しいヤマキチョウ、ヒメヒカゲ、アサマシジミ、ミヤマシジミなど草原性のチョウが右へ左へと飛び交い、ネットを振る。特に前2種のシジミチョウが同時に見られる場所など現在では耳にしない。訪れた何れの地でも昆虫相は豊かでまさに興奮の連続の四日間。持参の三角紙も底を尽きかけた。

この年の学園祭は来場者に「生物に親しんでもらうこと」を目標に「生物それぞれの生きる姿」を統一テーマとして展示に工夫を凝らした。中でも夏合宿で訪れた浅間山のパノラマを数色のラシヤ紙の切り絵と木枠で作り、その作業には夏休み中から取り掛かった。「ここに來て初めて展示を見たと感じた」と司書教諭の佐元光子先生からお褒めの言葉を頂いたときはさすがに嬉しかった。

その後、生物学の教員の道へ進んだが、その原点はあの時代にあった。

(元千葉県立保健医療大学教授)



剣道部の思い出

(かかり稽古と私)

二七回 萩原 淳



高校卒業後は、殆ど竹刀も握っていない私が剣道部の思い出について語ること、剣道部の諸先輩や後輩の皆様には誠に申し訳なく胸が痛みますが、朝陽同窓会監事の山本君からの再三の依頼であるということ、お許し願えれば幸いです。

昭和四十七年に入学してすぐに新宿高校剣道部に入部し、先ず面喰ったのが、その大変厳しい剣道に対する姿勢と稽古でした。

「目標は強くなること」であり「それに賛同できないのなら辞めてもらって構わない」と言われ、ひたすら厳しい稽古を自ら課している先輩方の姿はまさに、求道者のようでありました。一五歳の子供である私達一年生には、平塚先輩、西村先輩などの三年生とはもちろん、二年生のキャプテンの磯貝先輩とも、怖くて口もきけないほどでした。

新宿駅南口前での発声練習（恥ずかしかった）や手や足のマメがつぶれた痛みに耐えながらの「かかり稽古」が毎日のよう

に行われ、その最たるものは富士見高原の合宿でした。

生来、引っ込み思案で怠け者であった私にとつて、新宿高校剣道部は、まさに青天の霹靂であり、高校時代の私の人生全てと言っても過言ではないほど、大きいものであったと思います。

それが、何の間違いかキャプテンをやることになり、また、三年生の戸山高校対抗戦まで続けられたことは、その後の自分の人生にとつて大変貴重な経験となりました。今振り返ってみると、この時に私のその後の人となりが形成されたように思います。

自分で限界を決めずとことん遣り切ること、そして何より仲間が支えてくれて初めて自分も頑張れること、その仲間は誰よりも大切な存在であること、そういう中で自分が生かされているのだ、ということを肌で学べた三年間であったと感じています。

高校卒業後、しばらく朝陽剣友会（剣道部同窓会）の幹事をさせて頂きましたが、あれほど怖かった諸先輩は皆、実は大変に魅力的な「笑顔」と「人間味」の持ち主でありました。「戦友」のように仲がよい先輩たちの輪に、自分たちも自然に入って行けたのが大変嬉しく感じたものでした。

その後も機会があるごとに集まりがあり、先輩や同期の仲間達に悩みや人生相談に

乗っていただいています。

社会に出たあとも、苦しい時や辛い時に剣道部時代のかかり稽古や合宿を思い出すと、まだまだこんなもん大丈夫と、思えてくるので不思議です。

また、気難しい職人などとも、通い詰めて、最後まであきらめない気持ちで相手に通じるとなぜか家族のごとく胸襟を開いて対応してくれる様は、まさに「かかり稽古」と剣道部の仲間を彷彿とさせるものでした。

五年間のインド駐在時代、言葉も文化も全く異なる中、繰り返し現地・現物で物造りを伝え続け、いつか自然に「オハヨウゴザイマス!」と言われるようになったのも、悠久五千年の文化との「かかり稽古」の成果と言えます。

本年、一月から北米の子会社勤務を命じられ着任したところです。

これから、アメリカ文化との「かかり稽古」が始まると思います。

(TRAD North America Inc. 社長)



水泳部の思い出

水泳部が僕の幸せを運んできた!!

二四回 佐藤 栄作



一昨年、還暦を迎えた私ですが、改めて人生を振り返ってみると、結婚や就職それぞれの場面で私を支えてくれたのは、いつも水泳を通じて出会った仲間たちでした。そんな仲間たちに心から感謝していますし、これからも、ずっと大切にしたいと思っています。

☆とても怖いS島先輩との出会い

昭和四四年入学当初、すでに化学部に入学していた私の前に、怖いルックスで二年生のS島先輩が現れて、

『きみは水泳部に入学したからね。部費五百円も払っておいたから』

私「えっ。僕はプールサイドで友達の山野君が泳いでいるのを見てただけです。運動は苦手なので無理です」

『まあ、やってみよう!』

こんな私が、三年間バタフライの選手になるなんて驚きです。S島先輩に感謝です。

☆塩見臨海教室で素敵な出会い

私が大学二年生の時、臨海教室をサポートする水泳部OGが少なくて困っていたところ、美術科の吉江先生からの推薦もあり、当時、東京学芸大学生、二五回卒で元女子バスケット部のOGがひとり、異例の対応策として臨海教室にやって来ました。この素敵な女性(山下恵子さん)に、恋に落ちてしまった私。色々ありましたが、頑張つて、頑張つて五年後に見事結婚できました。以来三五年間、わたしの大切なパートナーです。館山の塩見寮は、私たちの「思い出の渚」です。

☆就職活動…N村先輩との出会い

早稲田大学の水泳サークルに所属していた私は、記録を目指さない楽しい水泳と麻雀の日々を味わうことになるわけですが、四年生になると就職活動に悩むことになりました。そんな時、S生命に勤務しておられたN村先輩が『うちの会社に来ないか』と言って頂き、大した努力もしないでN先輩のいるS生命に入社することが出来ました。以来、定年退職までの三七年間、無事

に勤務することが出来ました。バタフライのライバルでもあったN村先輩に感謝です。

●水泳部同士の恋は？

昭和六十年頃までは、水泳部同士の結婚実績が全くなく、「水泳カッブルは出来ない」というジンクスがありました。冒頭に登場したS島先輩もカッブル第一号になるべく果敢に挑戦しましたが「土俵際でうちやり」となりこのジンクスを破れませんでした。本当に残念です。

この事件の後、三二回の白川夫妻がカッブル第一号を達成。その後十組ほどのカッブルが誕生しているようです。

なお番外のファインプレー賞としては、一九回のI山先輩が体育科の須田先生のお嬢様と結婚されています。

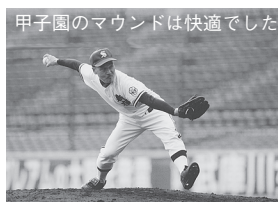
多感な学生時代に、どんなクラブ活動をするか？ これは人生において「大切な選択」なのかも知れません。

(朝陽水泳会副会長)



硬式野球部で十九年

二五回&旧職員 鈴木裕太



甲子園のマウンドは快適でした

私が入学した昭和四五年は学園紛争の直後で、大人っぽい先輩達が赤いヘルメットを被って難しい事を言っていたという印象。旧校舎の講堂で入学式を行い新校舎での生活が始まると、早速に硬式野球部の活動を目にした。体育館前に鳥籠のようなネットを張り打撃練習の準備。入部を申し出た私の最初の役目は御苑の塀に腰掛けて飛び出たボールを探す事だった。新校舎が出来て二年目のグラウンドは狭くて十分に野球が出来る状況ではなかった。その為か、毎週水曜日には多摩川の矢野口にある九段高校のグラウンドに出掛けた。部室はプールの軒下であり、雨が降ると浸水した。暫くして旧校舎側のグラウンドも使用できるようになり、部室も旧校舎の広い部屋を割り当ててもらった。一学年先輩が十一人もいたので練習にも熱が入った。二年生の夏にはシード校を破り、秋にはブロック決勝に進み修徳相手に七回まで2-1で勝っていたが……涙を飲んだ。しかしながらシード権を奪取。

三年生の夏は五回戦で早実に1-6で敗れたが、自慢は強豪に負けてもコールド負けする失点をしなかった事だった(笑)。投手だった私は、一日おきに二百〜三百球の投げ込みを一年間したが、肩も肘も痛くはならなかった。でも練習中にこっそりと水を飲みに行つてはOBにバレたり、トレーニングを誤魔化したりする部員もいたので勝てるチームだとは誰も思っていなかったようだ。確かに部員数もギリギリで弱小チームだったが、クジ運だけは良かった。密かな自慢はプロ野球で活躍した選手に三塁打も打たれたが三振を取った事。

卒業後に部活動の指導に行くのは、どの部も当然のように行われており、私も頻繁に顔を出して学生監督も務めた。その後、教員として定時制高校に勤務した時も、昼に講師として新宿の体育科で授業を持たせていただけだったので、硬式野球部の二八回生〜三五回生までの指導に関われた。後輩達にはよく頑張つてシードを取ったりベスト八になったりの活躍だったので、私はいつかは母校の正式な教員となって思い切り指導をしたいと思っていました。

教員十年目、なんと夢が叶って新宿高校に異動が決まり、また十二年間、四十回〜五三回生迄の指導が出来ました。この時の私の使命は野球ではなく、臨海教室の指導

であると校長から言い渡されていました。しかし体育科の皆が私の野球指導に理解と協力をしてくれたので、思い切った指導が出来ました。夏の大会で勝ち進むと、館山から早朝の列車で神宮球場に向かい、試合後はまた館山に戻って海での指導に従事。こんな充実した生活が最高に幸せでした。ベスト八が最高成績だったが、多くのOBの協力があつたので毎年実力のあるチームを育てることが出来ました。私を支えてくれた先輩後輩に感謝し、健闘した選手達に敬意を表します。

新宿高校を離れて十年。野球の指導が出来ない学校で教鞭をとっていた私に朗報が届きました。マスターズ甲子園の参加である。先輩後輩達ともう一度野球が出来て、しかも教え子達とも一緒に野球が出来て、ゲーム監督兼投手まで任せられ、こんな幸せな機会は二度とないので積極的に取り組みました。大会への参加者は五十名を越え、組織力で東京大会を優勝し、甲子園への夢を果たしました。その報告は、この朝陽で仲間達がしているので皆さんもご存じでしょう。新宿高校で私が生徒の時から教員時代まで、いつも素敵な仲間に関われ本当に満足でした。皆さんに心から感謝致しております。

(現羽村高校教員)

かんらん会

(新宿高校出身の獣医師の会)

現在進行形

三十回 芦沢 博道

私は、柏木一丁目(現、西新宿)で生まれ育ちましたので、幼稚園から高校まで新宿駅の周辺にありました。幼稚園、小学校、中学校は過疎化(?)の影響で順次合併統合されてしまい、名前も変わってしまいました。新宿高校だけは名も所在地も未だ健在です。だからというわけではありませんが、友人も高校時代の同級生が多く、いまでも連絡を取り合っています。しかし、一学年違うと、ほとんど知り合はいません。

そのような中、二十年ほど前になります。新宿高校出の獣医師の会があるので参加しないかという誘いがありました。申し遅れましたが、現在私は群馬県で乳牛の健康管理を中心に仕事をしております獣医師です。獣医師という職は比較的少数派ですし、その中で同じ高校出身者が出会う事は非常に稀なのですが、なぜか新宿高校卒業生の中には四十名近くいるらしいという事で、大先輩が号令をかけてくださり集う事になりました。私は、はじめの二、三回は参加できなかったのですが、その後はボ

チボチ参加させていただいています。

高校在学中の部活動は、もちろん一年生から三年生までの三学年の幅、つまり年代の近い者同士のお付き合いですし、OB会になれば、年代の幅が広がりますが、高校時代からのお付き合いの延長になると思います。

かんらん会の幅はOB会と同様ですが、部活動ではありませんので、高校時代の交流はありません。初回の参加は大先輩と初めて会うという事になります。また、その大先輩の方々は、獣医師の業界では、いわゆる重鎮とされる方々です。正直、初回の参加の時は、気重でした。

緊張しながら会場に着き、テーブルに座り、挨拶、乾杯と続き、自己紹介。この頃になると、場も打ち解けてきます。大先輩



方は、大学教授や獣医師会会長のような方々ですので、私は存じ上げておりましたが、面と向かってお話しするのは初めてです。それでも、高校の話、仕事の話などをするうちに、さも同じ時期に高校に通っていたような錯覚さえ覚える親しみをもって懇談している自分に驚き、楽しい時間を過ごしていました。

その後、数回参加するうち、連絡係などを仰せつかり現在に至っております。また、自分も年を重ねておりますので、後輩も増えてきました。先輩方とはもう何回もお会いしています。もともと敬語が不得意な上、宴席でお酒がはいります。やや失礼な言動もでてしまいます。この場をお借りしてお詫びをしたいと思います。(笑)

高校仲間のつながりが深い理由として、十代後半の三年間をいう时期的な要因もあるとは思いますが、しかし、新宿高校という一つの不思議な引力も感じます。かんらん会という現役の部活動？ も、この引力のおかげで楽しく過ごせているのかなと思っています。

(開業獣医師)



朝陽バラ会

新宿で農作業十年

一八回 手島幹雄



新宿高校にはバラ花壇がある。正門の両側、甲州街道に面した学校のフェンスには、つるバラを這わせているが、花壇は校舎の南側にあり、外からは見えない。その花壇とフェンスのバラの世話をしているのが朝陽バラ会。旧制六中の五回生が一九八四年、渋谷区側にあった二代目の校舎の時代にはじめたものののだ。

そんなバラ会が私が見つけたのはインターネットで。花壇が現在の場所に移った後の二〇〇五年の夏、目黒区駒場で公園のバラ花壇を管理する体制を作ろうとしていたことによる。申し訳ないのだが、バラそのものに興味があったわけではない。公共の場でバラの管理をやっている事例がないかとインターネットで検索し、朝陽バラ会のホームページを見つけたのである。

新宿高校の同窓会とはお付き合いもなく、いささか敷居の高さは感じたものの、とにかくホームページにあったメールアドレスに連絡してみた。すると、すぐにバラの手

入れのある日に学校に來いと返事。当時の藤野与志隆会長(中20)、植村茂事務局長(中22)にお目にかかり、勉強させていただくことになった。鈴木省三先輩(中5)というバラ愛好者には神様のような人の存在を知ったのはそれからのことである。早いもので今年で十年目となった。

勉強といってもバラの手入れは季節ごとにいろいろあり、それを一通り知るにも一年はかかる。肥料を撒いたり草をむしったりの仕事に加え、虫を手で殺したりもする。移植のために深さ六十センチほどの穴をスコップで掘る必要もある。花が咲いた後の花ガラつみは容易だが、枝を刈り込む剪定はむずかしい。つるバラの見栄えをよくする誘引となるともつとむずかしい。いずれにしても花壇という名の畑での農作業なのである。

楽しみは収穫ではなく、五月から一月までの期間に見ることのできる折々の花。特に五月と十月がすばらしい。世界共通のバラの品種名を覚えるようになり、花壇ならではの立派な花を堪能できるようになったのは、何年かたってからであった。

月に二回ほどの手入れと呼ぶ農作業の主体は、同窓生というよりPTAバラ会のお母さんたちと、そこから朝陽バラ会に入れた皆さんがほとんど。毎回二十人前後の

参加がある。

思えば、高校生として学校に通った期間は三年なのに、バラ会の会員となつて十年になろうとする。卒業生という意識は全く、ただ農作業をするために新宿に通っているのである。

この十年の間には、東京メトロ副都心線が開通して、学校のすぐそばの新宿三丁目駅が西武池袋線、東上線、東横線と直接つながった。来年は新宿駅南口に高速バスのターミナルができる。そんな環境の中で農作業。新宿の中心繁華街の変わりようを眺めながら続けるつもりである。

追記・朝陽バラ会の三十周年記念誌をダウンロードして見ることができる。

<http://www.shibuya-west.com/chouyou/choyorose30th.pdf>

(朝陽バラ会事務局長)



同窓会員 随筆 一般寄稿

水上寮の思い出

： 忘れ難き日々 ：

三四回 小野瑞城



豊澤、関、橋本各先生と杉山(15)、小林(23)両先輩とに御引率頂くとともに、水上町の方々に
お世話頂いた水上林間教室は強く印象に残っています。

それは天井裏のムササビの出会いから始まりました。豊澤先生に「あのガサゴソはムササビで、あの穴から時々覗く」と言われて皆が振り向くと、「騒がしいな。何が始まった?」とでも思ったのか部屋の隅の天井板の穴から顔を出し、女子が一斉に「カワイ」と声を上げました。続いて「風呂は無い。女子はヨネモトの風呂を借りる。男子は銭湯。金は自分で料金箱に入れる。番台は居ないが『俺はすぐ上がったから半額で良からう』なんてのはダメだぞ」と言われました。銭湯の帰りに必ず寄ったヨネモト(今は在りません)のかき氷も忘れられません。就寝前には「枕が足りないから早い者勝ちだ」と言われて一つ



確保しましたが掛け布団を取って来ると消えていました。生き馬の目を抜く様です。某君は二晩目からは消灯の三十分ほど前から枕を抱いて居ましたが結局は奪われたかも知れません。消灯時刻を過ぎても消灯せず、一時間ほどして関先生に「明日(谷川岳登山)バテるぞ。そろそろ寝ろ」と言わ

れて男子は消灯しましたが、女子は点灯のまま実には賑やかでした。その夜更かしが祟ったのか谷川岳で某君が熱を出したので二晩目は「静かにしてあいつを寝かせてやろう」と男子は定刻に消灯しましたが女子の部屋は点灯のままでワーワーキャーキャーと大変な騒ぎでした。見かねた関先生に「熱を出した男子がいるから静かにして寝かせてやれ。君達も早く寝ろ」と言われると流石に消灯しましたが、すぐにまた点灯して元通りの大騒ぎになり「うるせえな女は」と男子には（ムササビにも？）相当な響きでした。女子は実に元氣です。男子の定刻の消灯の為か前日の谷川岳登山の疲れが抜けきらずに三日目は（男子は）静かだった為か夕方には某君の熱は下がり、翌日から一泊二日の尾瀬ではすっかり元氣でした。その尾瀬から戻るバスの内で「今夜、花火をやる。金後は後で集める」と伝言ゲームの様に伝わって来ました。（実際には関先生がお払い下さいました）夕食後に庭で花火が始まって少しすると女子のすさまじい悲鳴が上がり、何事かと思ったら某君が女子の輪の中にネズミ花火を投げ込んだ為でした。男子が口々に「俺にもやらせろ」と言いだしてネズミ花火の数だけ悲鳴が上がりました。それも収まり「一本ずつ線香花火をやるう」ということになりました

た。初めは誰の玉の落ちたのが早いの遅いの言うのみでしたが、その内に「もう落ちたな」「お前が揺らすからだ」等の小競り合いも起きて実に盛り上がりました。花火が終わっても興奮冷めやらず、部屋でハンカチ落としをしました。罰ゲームは芸達者は歌（某さんのピンクレディーは可愛かった）か物まね（某さんの「北の湖の目」は見事！）、無芸な者は衆人環視の中での腕立て伏せでした。かくて最後の夜が終わりました。

それから1／4世紀で林間教室廃止、1／3世紀で水上寮の取り壊しは残念ですが、母校の創立百周年記念事業の一環に林間教室復活との声もあると聞いています。実現の暁には是非とも今後の新宿高校生にもあの様な体験を持つて欲しいものです。林間教室の最終日から三四年後の同じ日の同じ曜日に水上寮のお別れ会が開かれたことには不思議な偶然を感じました。

楽しい思い出をくれた水上寮と長い間支えて下さった水上町の方々に謝意を表して筆を置きます。

有難う御座いました。お疲れ様。
そして水上寮には、さようなら。

（株）東芝 主任研究員 理学博士

「論語」による

生涯学習の楽しみ方

七回 古田 清司



七八才の身ですが、「論語」を読む度に何か新しい発見があり大いに楽しみかつ元氣づけられております。

孔子の教えは、後に儒教として思想化したり、政治的利用でイデオロギーとして硬直化したりしたため、孔子本来の姿が見えにくくなっています。ですが、根氣よくそして素直・丁寧に進んでゆきますと、生命力に満ち溢れている人間孔子が立ち現われてくるのが、実に驚きです。

「論語」は、日本の縄文後期に相当する西暦紀元前の、孔子（とその弟子たち）の言行録とされています。卑賤な母子家庭で生育した孔子が、徒手空拳、学問（学↓習↓思↓内省）によって、かの「三十にして立つ」（為政）から始まって七十まで、何と各十代毎に階段を登っていくように、主体的・自発的・能動的に己を絶えず更新・イノベートして人格を形成した：その生き方と、その間の進展過程が辿れるように述べられています。特に五六才頃から十数年に及ぶ亡命諸国放浪の苦難の、しかも命の危

機の下ですらこれを跳躍台として飛躍してゆくその強じんな精神力には、こちらも煽られてしまいます。

そして、二千五百年前（因みにわが古事記はほぼ半分の千三百年前）という時代の差をほとんど感じさせないで現代の我々の身に味わい深い響きをもって伝わってくる、まことに不思議な書物です。亡命中の六十年頃の、「その人と為りや発憤して食を忘れ、樂しみを以て憂を忘れ、老の將に至らんとするを知らず」（述而）との自画像は、わが身に沁み入ってきます。このように孔子は学問による生き方の樂しみを随所で語っていて、共感を呼ぶものがあります。

また、弟子たちとの対話では、それぞれの素質・性格・志・成長・環境等を勘案しながら、各人の人格形成に資するように循々然と誨え（おしえ）・誘って（いざなうて）ゆく導き方に感心します。

「論語」は、孔子自身の著作でも特定の弟子の著作でもなく、後年孫弟子あたりから各代長年に亘って収集したもので、当然きちんと編集されていません。本当は孔子や弟子たちの精神発達の視点からの再構成が必要なのですが容易ではありません。それだけに高度な推理小説を読み解くような面白味も具えています。

ともあれ、豊富な知識・経験を有つ（もつ）熟年者にとつては、奥行き深い意味が堪能できる、まさに生涯学習に相応しい普遍的古典だと思っております。

（論語を楽しく学ぶ会）

新宿高校

百周年記念登山に向けて

二五回 渡辺 康隆

二〇二二年の新宿高校創立百周年に記念登山を計画しています。「何処に登るのか？」登山対象はまだ決めていません、これから決まります。世界一の高峰は言わずと知れたエベレストです。単純に「百周年はエベレストを目指す」でも良いんですが、ここは「ちよつと待てよ」です。

現在エベレスト登山の大多数は公募隊登山です。「公募隊」とは、その山に登りたい人が参加費を払って申込み、登山業者がその人たちをまとめてガイドし登頂させる（登山に必要な機材は基本的には参加者のほうで用意するがレンタルもあり）、いわば商業ベースの登山です。公募隊の参加費はエベレストの場合三百〜一千万円（これは他に比べ破格の高さ）です。またエベレストを初めとして、世界の高峰は入山料を払わないと登頂できません。そんな中でエベ

レストはネパール国に一人一声百万円払わなければなりません。これがまた他の山に比べ破格です（公募隊の場合は参加費の中にこの入山料は含まれます）。で、「じゃーエベレストはそこまで登る価値が有るのか？」はなはだ疑問になってきました。さらにエベレストの場合、この先十年は公募隊を中心に「許可待ち」の計画がたつぷり溜まつてると聞きます。と言う事ですから、「エベレストはちよつと待てよ」でして、じゃー何処に登るのか？ 渡辺の希望はマツキンリーですが…。

次にもう一つ、「誰が登るのか？」です。そこで先ずは「朝陽山岳会」を設立します。もちろん新宿高校関係者の山岳愛好家の組織です。ここで百周年に相応しい記念登山の対象・メンバー等を議論し、記念登山の骨格を決めます。他にも記念イベントはいくつも計画されていますが、それ等の中でも本件は最もビッグな企画にしたいと考えています。これこそ百周年に相応しいイベントとなるよう、内部での盛り上がり、対外的なインパクトを併せ持った、記念登山に醸成しなければと思っています。

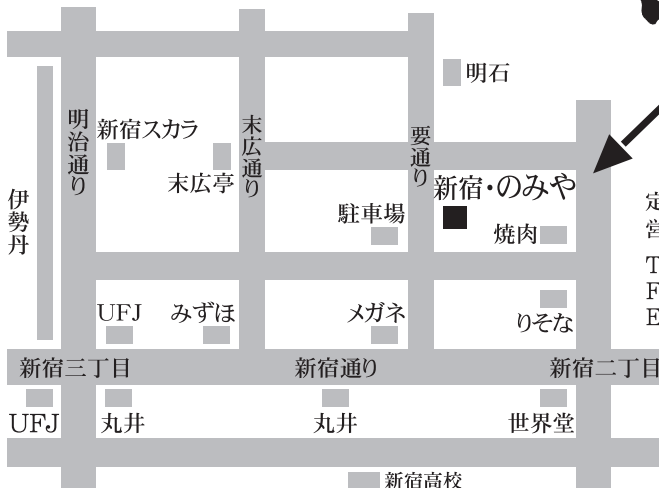
その内部盛り上がりのために「朝陽」に投稿させてもらいます。百周年記念登山を目指す同好の皆様、ぜひ渡辺までご一報下さい。

28回生、矢向と申します。
(3年F組、水泳部)

新宿高校から一番近いOBの店を経営しております。
カウンター10席とテーブル26席。
こじんまりとした居心地のいい小店です。
お一人様で軽く一杯、またはクラス会等に
是非ご利用ください。

<http://nomiyanooyaji.cool.ne.jp>

新宿・のみや



定休日 日曜・祝日
営業時間 17時～24時
TEL 03-3353-2101
FAX 03-3353-2102
E-MAIL shin.jyukunomiya@aol.com



くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ
感じてください。



京王フラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1
TEL. (03) 3344-0111
<http://www.keioplaza.co.jp>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」 「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

同期会便り

一六・六・一六目指し 「朝陽十六会」

一九三七（昭和十二）年四月に府立六中に入學、太平洋戦争の始まった翌年、四二（同十七）年三月に卒業した十六回生の「朝陽十六会」は、毎年六月十六日（六・一六）に総会を開いている。卒業七周年を迎えたことし二〇一四（平成二六）年は、会員が満九十歳になるので、六月十六日の総会で閉幕を決める予定であったが、二〇一六年六月十六日（一六・六・一六）目指し、あと二年間は頑張ることになった。

「十六会」は意気軒昂である。途中入退学などを含め三二六人いた在籍者のうち六二%にあたる一九五人が亡くなり、二十%の六三人が不明。残る会員は十八%の五二人だけとなった。その会員も多くが身体の不調に悩まされているが、未来に希望を持ち、助け合って一六・六・一六を迎えたいものである。

総会は、六月十六日正午から有楽町のニュートキーヨー七階にある「桃杏楼」で開催、天田憲治、宇田川敏夫、岡崎久、内

藤道興・綾子夫妻、村岡久志、山埜井乙彦、渡辺和郎の八人が参集した。車椅子の内藤君は綾子夫人に付き添われ、介護タクシーで駆け付けて三十分だけ参加し全員を感動させた。会は渡辺和郎君の音頭で乾杯。

「十六会」の今後について、前述のように、あと二年は続けることを決めた。内藤君の近況報告を聞いたあと記念撮影。同君が再会を約して退席後、全員が近況、抱負、消息などを語って歓談、二時半過ぎにようやく散会した。



後列 岡崎、渡辺、宇田川、天田
前列 山埜井、内藤夫妻、村岡

卒業アルバムや二千年以降のこの会の足跡は、卒業七十周年のときに「朝陽十六会の歩み」と題するDVDに記録した。その中で二千（平成十二）年六月十日にクラブ関東で開いた総会の写真は、速水優（元日銀総裁）

を中心に、下中邦彦（元平凡社社長）、白田義弘（東京即売）ら五五人の級友諸兄が、四列に並んで勢揃いし、この会の最も盛んなころの姿を再現している。

「照顧脚下 随处為主」を座右の銘に校長始め、よき師よき友に恵まれて新宿御苑の一隅で過ごした年月、芦花公園の農場で自然に親しんだ日々が懐かしい。母校の一層の発展を祈ります。（山埜井記）

朝陽十九会だより

昭和第一学年意気軒昂！

中十九回は、全員が昭和生まれの第一年である。六中十九回に因んで、毎年六月十九日に総会を開いている。会場は平成十三年以来新宿中村屋と決めていたが、中村屋改装中のため、平成二十五年の総会は「銀座ライオン新宿エルタワー店」で行われた。

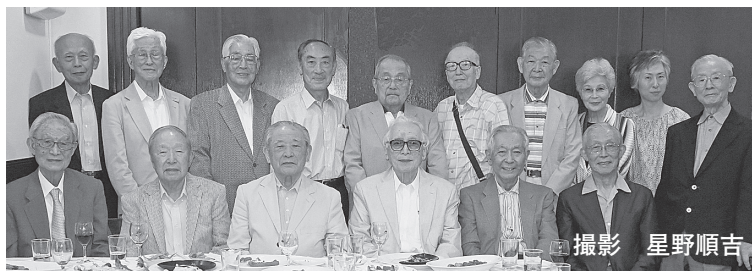
出席者は次の通り。会員十四名、夫人一名（敬称略）

椎名政夫、日高宏、平井和雄、星野順吉、安田和義（以上世話人）青木淳、大城辰彦、小泉宏、陣内智一郎、伊達宗起、綱島健一夫妻、中野正、浜野輝、矢吹二郎（旧姓大

野)

他に案内状の発送等でお世話になっている椎名建築設計事務所から、山本さんに応援に来て戴いた。感謝。

会員も高齢化して、物故者や体調を崩す者が多くなっているのは仕方がないが、入学時の二百八十人に対して出席率5%というのは少し淋しい。



撮影 星野順吉

定刻十二時、代表世話人の挨拶が始まる。黙祷、乾杯の後、食事を共にしながら懇談、近況報告。卒業後六十九年も経つが、たちまち中学生の昔に戻るのが嬉しい。先生方の渾名も飛び交い、想い出話に花が咲く。

流石にアルコールの量は減ったが、出席者は概ね壮健、米寿を迎えてなお会社を経営する者、返子を根城にして一年中ヨットを楽しむ者、ゴルフを

週二回・海外にも遠征する者、写真撮影のため寧日なく山野を跋渉する者等々、何れも意気軒昂、大いに元気づけられた。
今年の総会には新装成った中村屋で行います。奮って御参加下さい。

(中十九回 陣内智一郎)

六新会 (二回)

第十四回六新会(入学七十周年記念)は二〇一四年九月二七日(土)正午から新宿プリンスホテルで開催、参加者は前回を上回る三九名と盛会であった。乾杯の挨拶に立った穴水幹事、白紙に記した五言絶句の漢詩を披露する。「馬上に少年過ぐ、世平にして白髪多し、残軀は天の赦す所、樂しまずんばこれを如何にせん」これは戦国時代を生き抜いた伊達政宗が平和を迎えた晩年に若かりし頃を回顧する作品の第一句だそうである。馬上少年を神宮詣での少年におきかえれば現在の吾らの心境に相通ずる。年令を考慮した全員着席のビュフェスタイルなので適時席を代わって会話を交わす。頃合いを見て三分スピーチ開始。

久しぶりの方、遠くからの方、執筆、趣



味、旅行、ボランティア活動など十名程の方が元気に活躍している様子を披露してくれる。聞き手の反応もよいので、話し手も熱

が入りどうしても時間が長くなり幹事団としては時計が気になる次第である。後半の自由歓談は割愛し、六声会メンバー主導による旧校歌・健児の歌斉唱、中締め挨拶、写真撮影と予定の行事をこなし、散会午後二時二〇分。

さて六新会の活動開始、即ち第一回六新会開催は新宿高卒業から三五年経過した一九八五年秋のことで、記録によると二五〇名の会員に案内し参加数一〇五名で、前川先生その他の旧師六名にも加わって頂き、予想以上の大盛会であった。今年の会（二〇一五年）はこの時から勘定すると三十周年という大きな節目の会になる。この間の六新会運営の特色はと考えると、①新宿開催にこだわったこと。人数、費用を考慮し新宿駅を中心に西南東北と場を転じた。②会員の近況情報を重視。出欠回答にごく短い文章で近況を記載して貰い、それを切り貼りコピーして会員全員に配布し好評を得ている。③旧師との交流を大切にした。第一回から第七回まで（当時は三年毎の開催だったので十八年間）毎回ご都合をお伺いし三―六名の旧師に出席頂いた。マエカツ、マメタンクなどのあだ名で親しまれた旧師の集客効果は絶大でこの会の立ち上りに貢献して頂いた。

当初百名近い出席が最近は四〇名前後と

低減しているのは自然の摂理で已むをえないが、参加の皆さん年令の割には元氣一杯でまだまだ会は継続出奉る雰囲気である。

（代表幹事 加藤善三郎）

新五回同期会

傘寿を祝う会に八十五名

二十六年六月四日、新五回生は、傘寿を祝う同期会を西新宿のハイアットリージェンシーで開催した。

卒業から六十一年経つにもかかわらず、二割強の参加があったことは誇るに足ると思う。

これまで先頭に立って同期会を引っ張ってきた岩倉義昌君が、準備の途中で亡くなったことが悔やまれるが、会は懐旧談などで想像以上に盛り上がり、二時間余の時間は、あつという間に過ぎてしまった。

さて 次はと言えば米寿となるが、期待と諦めが交錯する中それには触れず散会となった。

（五回 河合 明博）



新5回傘寿お祝いの会 於ハイアットリージェンシー

新八会総会開催される

昭和三十一年（一九五六年）卒の八回生は、昨年めでたく喜寿を迎えた。

このお祝いを兼ね、同期会『新八会』の総会が二年ぶりに十月二五、二六日土曜日の午後、京王プラザホテルの四三階ムーンライトで開催された。当日は好天にも恵まれ、七十名の出席のもと、旧交を温め楽しい時を過ごすことができた。

中島悟さんの司会で開宴し、冒頭、前回との間に亡くなられた同期生一名のご冥福を祈り、黙祷をささげた。健康を祝しての乾杯の音頭は横井時久さんが務め、会にはぎやかに進化した。所用やら、傷病で歩行困難、家族の介護などで欠席せざるを得なかった者も多々であったが、久しぶりに顔合わせして歓談に花が咲いた。代表幹事の小林暁生さんからは母校新宿高校の現況と朝陽同窓会の活動状況の報告がなされた。

イベントとして、宮武光吉さんが担当してくれた同期生の著作物を会場内に展示、出席した皆さんは興味深く手に取ったり閲覧をして話題が広がった。宴たけなわのなか、集合写真は二組に分けてカメラ愛好の



高田憲彦さん、スナップは渡辺徹さんが撮影してくれた。後日各人の名前が記入された写真を手にすることができた。最後に全員で校歌を斉唱した。用意された歌詞カードを手にならぬまま、懐かしさを感じながら声高らかに唄い、お開きとなった。

今回の新八会総会は、二年後に予定された同期の皆さん、また元気に再会しましょう。

（新八会世話人代表・滝沢孝之）



九回生同期会

終戦時、国民学校一年生でした」と自己紹介すれば、ある程度年輩の相手なら育った時代世相をわかってもらえる。経済白書が「もはや戦後ではない」と宣言したのは、高校三年のときだった。

卒業して五十七年。九回生の平成二十六年同期会が五月十日、新日鉄住金の代々木倶楽部で開催された。同期四百十六人のうち出席者は二割弱の七十八人。まずまずではないだろう。会場では、「やあやあ、お久しぶり」「元氣そうで何より」などと声をかけあう。その実、とっさに思い出せない相手もいる。顔も体形も歳月の跡は隠しようがない。それはお互いさま。相手の胸の名札をさりげなく眺めて、記憶の奥のほうから呼び覚ます。しばし、青春を懐かしむ。

記念スピーチは長尾龍一君。かつての紅顔の勉強家も今や東大名誉教授にして法哲学の権威である。あの学校に通って良かったことのひとつは、少なからぬ英才・秀才たちと身近に付き合えたことだろう。とはいえ、彼らはこの種の会合で必ずしも大きな顔はできない。代わりに幅を利かすのは、

往年の悪童たちだ。酒や煙草など精一杯悪ぶった振る舞いの数々。夜の新宿の冒険譚も。余計ながら、赤線・青線の灯がすべて消えたのは卒業の翌年だった。ああ、往時茫々。そんな思い出話も細部に及ぶと記憶があいまいで、霞がかかったようになるから、情けない。

二年のとき奈良、京都を巡った修学旅行について触れておきたい。物持ちがよい同期会幹事の大橋進君が当時の「関西旅行の葉」を自宅の書棚から探し出してきた。

学校から配られたガリ版の葉は、随所に古事記や万葉集なども引用して、レベルの高い旅行案内だが、冒頭の注意事項のひとつに携帯品として「米一升五合」とある。つまり一食一合五勺として十食分を持参すべし。周囲の仲間たちに聞いた限り、このことをひとりも、覚えていなかった。思えば、米穀通帳で配給の時代だった。まだ「戦後」は終わってはいなかった。

(九回 橋本 恵堅)



十回生(新樹会) 同期会総会

平成二六年六月二一日(土) 午後一時半より表参道のフロラシオン青山で同期会が開催されました。参加者は一一四名でした。予定より若干名減りましたが年齢もあり、止むをえないことです。最初に朝陽会への代表幹事の交代が承認され、高橋一修君が退任し興津誠が選任されました。小田切由美子さんは留任しました。いずれも任期二年です。

メインスピーカーは中村敦夫君で、種田山頭火や南方熊楠の生き方を示しつつ、自然環境保護の重要性、東洋文明の優位を語りました。さすが俳優、作家、情報キャスター、参議院議員の経歴を持つだけあって、皆心から聞き入りました。

その他の参加者数名から小スピーチをしてももらいました。仙台から来た関口貞則君は地震の事を語らず、彼がプロモートした同期の飯岡肇(銅版画)、長谷好男(水彩画)の「二人展」について熱く語りました。関西から久しぶりに(六十年ぶり?)に参加した内田(脇)万里子さんは、男を見る目が出来たのは新宿高校のお蔭だと言いました。同じく関西から参加した片江宏君は

五十年も関西に住んでいるけれど小学校から大学卒業まで住んだ新宿が心の故郷で、何時かは東京に戻りたい心境だそうです。名古屋から参加された西村(中谷)道子さんは終戦後大連から日本に帰国したのち暫く大分県国東半島に住まれたそうです。新宿高校の英語の恩師、澤先生と大脇先生が国東とご縁があり、中谷家とも親しかった事を話されました。前田(土井)満子さんは女子会の幹事として女性に参加を呼びかけました。男性から参加希望者が出ましたが、「男子禁制」と言われました。

その他各種恒例の行事の後、高橋一修君が中締めをし、二次会に移りました。

二次会と同じ建物の中で歓談組とカラオケ組に分かれていましたが、部屋が隣り合わせで行き来自由で楽しく歌って、おしゃべりしました。参加者は九十名位でした。

(十回生同期会幹事 興津 誠)



平成二六年ミニいちご会は 健康と若者がテーマ

開催インタバルの関係で古希記念同期会を満年齢の翌年に先送りした平成二六年のいちご会は、これからの私たちの大きな関心事「健康管理」を主たるテーマとして、三回のミニいちご会が開催された。

五月十一日は医師、D組・大木繁男さんによる「七十歳からの健康管理」。大木さんは第一回ミニいちご会でも「六十歳からの健康管理」を講演してくれたが、その後十年間の医学の進歩と新常識を織り込んで、改めてこれからの健康管理のポイントを教えてくれた。講演に先立って新宿御苑ウォーキングを取り入れ、歩くことの重要性を説いたのも前回同様だった。

八月二日はH組新保弘一さん。会社員時代の海外勤務経験を活かして現在は高校で「異文化理解」の授業を持つ新保さんは、授業における生徒たちの生息・考え方・反応といったものから垣間見える「現代の十七・十八歳の若者は、半世紀前の我々世代からどのように進化・変化しているか」を紹介し、我々はそれにどう対処すべきかを考える機会を提供してくれた。

十一月三十日は大木さんと同じ医師、F

組・田中健彦さんの「老いに備えて」と題した講演。愛育会病院で日々老人医療と取り組む田中さんは「今話してもちよっと手遅れかなあ」と切り出して会場を沸かした後、これからの人生を楽しく有益に過ごすための貴重な知識を披露してくれた。また、最近訪れたキューバの医療事情にも触れ、エボラ出血熱の治療応援に多くの医師を派遣するなど、一般的なイメージよりかなり先進的な側面もあるキューバという国の意外な姿も紹介してくれた。

いずれの会も一時間の講演の後には二時間の懇親会で盛り上がったのは言うまでもなく、家路につく頃には講演中の神妙な表情はどこへやら、果たしてどれだけの者がしっかりと記憶に刻み、どれだけの者が今日実践しているか甚だ覚束ない状況は、これもいつものことである。

そして今年は古希同期会。六月十三日には前回を上回る諸兄姉が集うことを幹事一同確信している。詳しくは同窓会ホームページ <http://www.nchouyou.net/> 及び本誌六十一ページの広告をご参照のほど。

(一五回 西出紀久)



卒業四十周年同期会 (二六回生)

昭和四九年卒業から四十周年を記念して、昨年十月二五日(土)に五年ぶりの同期会をホテルフロラシオン青山で開催しました。今回初めて新宿を離れての開催となりました。もちろん母校のある新宿近辺が一番なのですが、なるべく皆さんが参加し易いように会費も抑えることを優先した結果です。さて、今回の出席者は前回とほぼ変わらずの一二六名(同期生三七〇名の約三分の一)。ご臨席いただいた恩師は佐藤先生、古川先生、小宮先生、野村先生、松崎先生、幸田先生、佐元先生。最初に司会のG組今泉君とD組三矢さんの開会宣言で会が始まり、三人いる代表幹事からH組金杉が挨拶。その後物故者への黙祷。残念なことですが、同期の物故者十三名のうち六名の方がこの五年間に亡くなれています。そして恩師のご紹介をさせていただき、佐藤先生の乾杯のご発声で歓談へと移りました。歓談中にステージではクラス別の記念撮影がおこなわれ、続いて、業間体操のビデオを見ながら、ビデオに遅れながらも楽しく体を動かしました。

メインイベント第一弾は前回も前々回も



好評だった「オクラホマ・ミキサー」のフォークダンス。メインイベント第二弾は前回大好評だった「想い出のミニライブ」です。舞台には前回に引き続きE組森嶋君、F組大原君、H組内山君、と今回初参加のD組小室君が登場。曲は「Yesterday Once More」「Daydream Believer」「あの時君は若かった」。みんなで楽しく高らかに歌いました。演奏中、スクリーンには卒業アルバムからの映像が次々に映し出されます。運動会、学園祭、修学旅行での、あの顔、この顔、懐かしい写真の数々。思いっきりあの頃にタイムスリップ！時間はあっという間にすぎ、最後の締めへ。恩師からの締めのお言葉は、古川先生にいただき、代表幹事D組 横内（高山）さんのお礼の言葉。そして「六中健児の歌」と「校歌」声高らかに歌ったあと、全員での集合写真撮影を終えて、あっという間の二時間四十分でした。次は同ホテル内の二次会会場へ。

二次会は一二三名参加。代表幹事のB組岩本君の挨拶にはじまり、みんな話が尽きず、あっという間に二時間は過ぎ、全員で手締めをして午後七時に二次会を終えました。四十周年同期会の写真は左記のホームページに掲載中。（金杉一朗 記）

<http://www.k3.dion.ne.jp/~shin26/home.htm>
パスワード：S2640

南欧料理、パリの居酒屋風レストラン

ぐる シャトー

“新宿高校”と言えば特別サービス

アド街ック天国、日曜ビッグバラエティの他テレビで何度もオンエア

東京駅八重洲北口から歩いて2分

創業53年と
なりました。

日曜・祝日の貸切大歓迎。
(場所代無し)是非ご相談ください。
土曜日も昼夜とも通常通り営業
しております。

15回生の池上がやっています。

JR東京駅

外堀通り

八重洲北口

ぐる シャトー

本間ゴルフ

牛井松屋

丸善

高島屋

東京都中央区八重洲 1-6-14
電話 03-3271-7665

★★★
営業時間
昼 11:30 ~ 2:30
夜 17:00 ~ 22:00
(ラストオーダー)



朝陽同窓会様 ご優待プラン

朝陽同窓会様限定の特別プランとして、
3,500 円と 4,500 円のコースをご用意致しました。
ぜひご利用ください。(要予約)
詳しくはお問い合わせください。

モダンチャイニーズの雰囲気包まれた店内は、
広々としたダイニングのほか
貴賓室をはじめとした各種宴会場など、
お客様だけの特別なシーンを演出致します。
癒しの空間で、寛ぎの時間をお過ごしください。

〒160-0022 東京都新宿区新宿 5-17-13 オリエンタルウェーブビル 3F
TEL : 03-3202-0121 <http://www.tokyodaihanten.com>

表参道の青山ダイヤモンドホールで素敵な同窓会

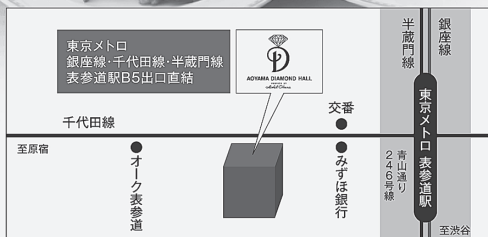
同窓会をはじめ親しい方のお食事からパーティまで
大切な方と「絆」を深めるひと時をお手伝いします。

同窓会プラン

お料理とお飲物そして諸費用がセットに
なったお得なプランです。
お料理はホテルオークラ伝統の欧風料理と
中国料理でシェフが腕によりをかけてご用意
いたします。久しぶりに集う仲間との素敵な
ひとときがさらに思い出深い時間となります
ように！

※詳細等お気軽にご相談ください。

母校創立90周年記念祝賀会にご利用いただきました。
(24期生の井坂が在籍)



青山ダイヤモンドホール

〒107-0061 東京都港区北青山3-6-8
TEL 03(5467)2111

表参道駅B5出口直結

支部便り

朝陽USA支部便り

十月一八日、サンフランシスコ市内の一軒家を貸し切り、第三回総会・同窓会が開催されました。ブラジル、日本、カリフォルニア、シカゴ、ラスベガス、シアトルから総勢十五人。今回は二〇一六年一〇月一五日、シカゴで開催。米大陸に過去または現在在住の皆さん、随時新会員募集中です。

(三十四回 横田康子 yasukoyc@gmail.com)

「期待に胸が膨らんで」という言葉だけでは、多分不可解。日本の裏側の各地から集まった十五人に共通していたのは、おそらく「大きな期待」と「少しの不安」。でも、この「不安」が「期待」へのスパイスとなり、「期待」の味を引き立て、同窓会をより味わい深いものにしてくれたのではないのでしょうか。私自身、アメリカに来てまだ一年弱、ニューヨークからバイエリアに引越してきて約二か月。まさしく不安が期待に寄り添いながらの参加となりました。しかし、いざ同窓会が始まると、皆さんが気さくに話しかけてくださったおかげで、その不安は嘘のように融け、もともと



あった期待の中にとっかりと混ざり、無二の楽しさを醸し出してくれました。午後六時から始まった会は、母校の思い出話や諸先輩方の貴重なお話でまた

たくまに時間が過ぎていき、気が付けば深夜二時。日本を離れ、世代が違っても、「新宿高校」への思いだけでこれほどまでに楽しい時間を過ごせるものかと驚いたのは、きっと私だけではないと思います。夜が明けてもまだ話し足りない感があり、名残惜しさを感じつつ帰途につきましたが、この名残惜しさこそが、次回の朝陽USA同窓会への原動力になるものと信じています。世界各国で活躍中の同窓の皆さん、「新宿高校」をベースにした料理はなかなか味

わい深いものがありますよ！ まだの方は、是非一度ご賞味されてはいかがでしょうか。

(五二回 竹内信紀)

九州支部便り

九州朝陽会総会報告

九州朝陽会二〇一四年度総会は、十一月八日(土)、福岡市天神の老舗中華料理店「福新楼」で開催されました。

折しも秋の叙勲で石井幸孝会長(3回 J R九州 初代社長)が「旭日重光章」を受章されたことから、お祝いの空気の中で和やかな開会となりました。

定例議事後、現在はNPO法人「福岡城市民の会」理事長としてもご活躍の石井会長に、「国を救い、福岡を創った黒田官兵衛」と題して特別講演をいただきましたが、放映中のNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」の舞台が九州に移った時節ともちょうど重なり、出席者一同興味深くお話に引き込まれました。

記念撮影に引き続き、本部よりご参加の橋本健一副会長(19回)から母校の近況を伺った後は懇親会へと移行し、時間の許す限り話に花を咲かせました。



出席者は、ご闘病を経るもますますお元気な小代伸博氏（中21回）、永年の会員ながら初めてのお目見えだった宮崎俊朗氏（20回）、新たにご縁の繋がった武田龍馬氏（15回）と岡崎（岡田）和子氏（23回）、福岡を離れられた現在は朝陽同窓会事務局にいらっしゃる小山（岩崎）春美氏（25回）

関西支部便り

のほか、石井幸孝会長 豊田信夫氏（7回）小泉純理氏（7回）森重夫氏（10回）岡本稔氏（14回）佐治尚雄氏（14回）野上秀昭氏（15回）坂本辰哉氏（19回）小林牧（28回）山下（亀山）美智恵氏（29回）野中道生氏（32回）の、計十七名でした。
（二八回 小林 牧）

関西朝陽会総会は平成二六年十月二四日（金）十八時三十分～二十時三十分迄の二時間、阪急ターミナルビル十七階「さつきの間」で開催された。参加会員は十九名、本部から吉村幹事長（7）がご出席されました。会は渡辺信久氏（34）の司会で進行。濱名正二支部長（24）の挨拶、渡辺洪氏（中19）の音頭による乾杯でスタート。歓談をはさんで、吉村幹事長より母校の現況や同窓会活動についてスライドを交えてご紹介していただきました。続いて、初参加の森住弘氏（中20）、同じく初参加の工藤まち子氏（19）、宮部純氏（14）、村田靖子氏（14）にスピーチをしていただきました。最後に校歌、健児の歌を斉唱し、名残を惜しみつつ再開を期して散会しました。今回は参加



人数が多
くはあり
ませんで
したが、
その分ス
ピーチを
していた
だく方が
多かつた
ため、例
年に引け
をとらず
盛会で
あったと
いう印象
をもちま
した。
○関西朝
陽会世話
人一同

関西朝陽会では、青柳（6）、中野（14）、濱名（24・支部長）、渡辺（34）、西島（44・事務担当）その他で世話人に当たっており
ます。本部事務局なり関西世話人なりその
他の関西在住者にアクセスがあれば連絡は
伝わるようになっておりますので、どうぞ
ご遠慮なくご連絡下さい。

（四四回 西島健太郎）

多摩朝陽会支部便り

毎年恒例の多摩朝陽会の総会ならびに懇親会。今回も多摩市の京王プラザホテル多摩を会場に、七月十二日（土）開催されました。

会の名称を多摩ニュータウン朝陽会から多摩朝陽会へと変更し、新生一回目の開催となった本年は、朝陽同窓会の役員の皆さんや、四名の六中の大先輩の方々など、都合三十名のご出席と久しぶりに賑やかな会になりました。

代表世話人による開会の辞に続き、五月に朝陽同窓会の新会長に就任された垂水尚志さん（15）より、ご挨拶を頂戴しました。垂水さんご自身多摩地区にご在住で、次年度以降もご出席いただけるとのこと。本会にとっては心強い援軍であります。次いで、同窓会副会長の橋本健一さん（19）に、昨年来の母校の模様と、同窓会の活動についてのご報告をいただき、更に、ご出席の乾達也さん（10）がこの度「第十回銀花文学賞」に入選されたというニュースがあり、乾さんには高校時代の思い出から作品を書き上げるに至ったエピソードなどのご紹介をいただきました。

本会恒例の、開宴前の写真撮影のあと、

旧師であり同窓生でもある佐藤喜一先生に今年も乾杯のご発声をお願いし、ここからは懇親会。ビュッフェ形式ですが、皆さん寛いだ様子で久闊を叙し、近況を報告し合い、和やかな宴席となりました。

同窓会副会長の宮崎直道さん（24）と龍岡友子さん（24）から、来る創立百周年に向けた記念事業についてのご説明をいただいたり、多摩朝陽会のFacebookページを会場に用意したスクリーン上に映し出す（会場から直接書き込みをし、画面上でリアルな動きをお伝えしました）ことなどしたあと、同窓会ホームページのカラオケを利用しての健児の歌。再会を約してお開きとなりました。

大事なエピソードをひとつ。今回、現役二年生がひとり参加してくれました。山口すみ代さん（35）が親子で出席してくださったことで、連綿とした同窓生の意識がまたひとつ繋がったのではないか、そんなことを考えた一夜でありました。

（三三回 大内 哲）



群馬県支部・群馬朝陽会便り

群馬朝陽会は二〇〇八年十一月に第一回の総会を持つてから六年、去る十一月八日に第四回総会を開くことができました。

会は十名の少しこじんまりしたものでしたが、本部から事務局長の西出紀久氏（15）と秋山小南氏（15）、更に群馬朝陽会立ち上げに尽力してくださった渡辺康隆氏（25）、そして元群馬県警本部長を勤められ



た桜井勝氏（15）が有志として参加して頂きました。会は本部西出氏の最近の新宿高校の様子をプロジェクトと印刷物を駆使してのプレゼンをもとに和やかな懇談をすることができました。特に桜井氏と群馬朝陽会顧問で合気

道の普及に尽力されている荒井俊幸氏（7）の平成始めの頃のスポーツ教育などの思い出語りには興味深いのがあり座が大変盛り上がりました。

残念なのは物故者一名と前回最高齢で参加された村山幸雄氏（R8）が九六歳の高年齢で参加できなかったことですが、目が不自由で白杖もって県東の東のみどり市から西の高崎まで来てくださった星野政雄氏（R19）には当会の係として頭の下がる思いでした。そして当日旧海軍江田島の会もあり参加されたそのことを聞きびっくりしました。お元気ですね。また、第三回総会から参加していただいている曾根逸人氏（38）の若さと新鮮さに驚き、当会のこれからの発展が期待されるところでした。

このように第四回群馬朝陽会は和気藹々の雰囲気の中無事終了しました。特に都内から遠路駆けつけて頂いた四氏、本部事務局の西出氏、もと事務局で当群馬朝陽会設立に尽力して下さった秋山氏と渡辺氏、群馬県警在職時の貴重な話を頂いた桜井氏には深く感謝申し上げます。

（十五回 齋藤 賢二）



宮城朝陽会支部便り

当会は、宮城県内に在住する府立六中・都立新宿高校出身者の集いであり、実業界をすでに卒業されたOBのほか、現役社会人や学生からも広く参加を募り、活動しています。年代を問わない交流とアットホームな雰囲気が創立以来のDNAとして引き継がれています。

昨年は残暑厳しいなかの八月二三日、一七名が参集し、賑やかに懇親会を開催しました（於…ホテル法華クラブ仙台）。

本部からは、吉村幹事長、事務局から小出富江様が駆けつけて下さり、母校における現役後輩諸氏の奮闘振りや新宿界隈の変遷などにつき、貴重な情報をプレゼン下さしました。

これは東京を離れ生活する我々にとり、ゼツタイに聞き逃すことの出来ない、毎年恒例の人気コーナーです。

また、転勤で宮城県を離れてもお会員の名を連ねていただき、会を支えて下さる方が多数いらつしやるのも当会の特徴の一つですが、今回も関東方面より、心の故郷・仙台へ、20清田啓夫さん、36高橋一隆さん、42齊藤毅人さんが参集下さいました。毎年本当にありがとうございます。当会に



とって大切な応援団、誠に心強い限りです！

会員諸氏から近況やご活躍ぶりの報告がなされたあと、シメは恒例の「六中健児の歌」。

今年は齊藤さんの名指揮のもと全員で高歌放

吟。「また元気に頑張ろう！」とお互いの肩を叩き合いながら散会いたしました。

このように愉しく活動を展開している当会ですが、唯一の悩みのタネは「学生会員ゼロ」です。後輩諸氏には、ぜひ、東北大など仙大を受験され、杜の都仙台にて青春を謳歌されることをお勧めいたします。有意義な学生時代となるよう、当会も力の限りバックアップいたします！

（三八回 小田島 肇）

北海道支部便り
会員名簿を見直しますご協力を

北海道朝陽会は二〇一四年七月五日（土曜日）に二六名のご参加で、札幌ランドホテルで開催いたしました。今回も本部より西出様（十五回）にご出席をいただき、新宿高校の最新の話題に、いろいろな意味でのため息が聞こえてきました。また今回は三月に新宿高校を卒業したばかりの若人の参加がとても良い刺激となりました。諸先輩方のいろいろなおせっかいに懲りずにまた参加してもらいたいと切に希望しております。

現在、北海道朝陽会の名簿には八八名の皆様が掲載されておりますが、次回北海道朝陽会に向けは平成二三年に発行された、朝陽同窓会会員名簿から北海道在住の皆様へお声をかけていただこうと考えております。その際にはぜひご協力をお願いいたします。

次回は二〇一五年七月四日（土曜日）午後五時より札幌ランドホテル「白雲」で開催いたします。今回も三時間確保しておりますので、初めての方、そして道外からのご参加を含め、皆様のご参加を幹事一同心よりお待ちしております。ご連絡は江本



(三一回) 080-1889-0610 または
hokkaido_chouyou@yahoo.co.jp までお願い
いたします。(三一回 江本 匡)



TOKYO <http://www.gerbeaud.jp>



BUDAPEST <http://www.gerbeaud.hu>

パナッシュジャパン(株) 代表取締役社長 宇井 雅人 (新22回生)

入澤法律事務所

辯護士 入澤武久（新36回生）

新36回生（3年次G組）の入澤武久です。親子3代弁護士を生業としております（父親は戸山高校出身です）。事務所は、日本橋1丁目にあります。

取扱い分野といたしましては、一般的な民事（相続、離婚を含む）事件、商事事件の他、各種契約書や就業規則の作成やチェック、株主総会の運営指導等も取り扱っております。また、証券事件、労働事件、建築瑕疵事件、B型肝炎訴訟などの分野の取り扱いも御座います。

何か気がかりな事が御座いましたら、お気軽にお声がけ下さい。その際には、新宿高校出身であることをお伝えいただければ幸いです。

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-2-10 東洋ビルディング9階

入澤法律事務所

TEL：03-3273-5759 FAX：03-3273-5758

e-mail：irisawa-law@lily.ocn.ne.jp

辯護士 入澤武久（東京弁護士会所属）

東証1部（化学）社外取締役

東証2部（電気機器）社外監査役

東証1部（電気機器）コンプライアンス委員会委員

東京弁護士会労働法制特別委員会委員（副委員長）

日本大学法学部 司法科運営委員会委員

（以上は、平成27年3月2日現在）

六声会合唱団の近況

六声会は、昭和二二年～二五年の四年間に、全日本学生合唱コンクール（中学）高校の部で、三回に渉る全国優勝を遂げたメンバーを中心に、校外からの有志をも交えて昭和二五年に男声合唱団として結成されました。三十年代後半から、会員の海外赴任、地方勤務等の増加で一時中断しましたが、昭和五十一年に再開し、一年半毎の定期演奏会はすでに二九回に達した他、要請を受けて幾つかの地方都市での公演、香港でのチャリティコンサート、更には養護施設慰問、全国養護施設大会での童謡合唱等実行了しました。

今年で創立六五年となり、当初からの会員は流石に十名を下回ってしまいました。その後に参加した同窓生と校外からの有志を併せて現在二五名で毎週練習しています。五年ほど前から、飛永悠祐輝（33）氏を指揮者に迎え新鮮さを加えています。練習に先だつて全身のストレッチ、腹式呼吸、発声練習を約三十分続けているためか、平均七九歳という年齢のわりには元気を保つ



ていますが、新人の参加を待望しています。

平成二六年六月十四日には新宿文化センター大ホールでの第三十四回新宿合唱祭に参加し、組曲「月光とピエロ」（堀口大学作詞、清水脩作曲）から「月光」と

トステイ作曲、飛永編曲「最後の歌（伊語）」を歌い、大方の好評を得ました。

同十一月十三日、横浜みなとみらい大ホールでのヴィサン・ジョイント・コーラスフェスティバルに出演、トステイ作曲、飛永編曲「最後の口付け」と、組曲「月光とピエロ」からテンポの速い「ピエロ」と「月光とピエロとピエレットの唐草模様」の二曲を歌い、専門の講評者二人から好評をいただきました。

本年一月三十一日、新発足の朝陽合唱団（混声）にも六声会有志が参加、今後の発展に協力していく方針です。

（三回 渡辺洋望）

新宿三丁目駅E4出口直結
新宿高校から徒歩5分



レストランクルーズ・クルーズ新宿

TEL 03-5485-3900

パーティ

チーム新宿 同窓会プラン ¥6,000 (税別) ※フリードリンク付き／6名様～／3時間制

スペシャル特典

こちらのプランご利用の場合「100周年記念事業委員会」募金PJにお一人様100円が募金されます

パーティー
最大
200名まで

ランチ

朝陽ランチプラン ¥4,300 (税別) ※フリードリンク付き／2名様～(6名様～個室利用可)／3時間制



◆詳しくはこちら
<http://www.ginza-cruise.co.jp/fair/shcy.pdf>

戸 山 交 流 戦

	第 6 回ゴルフ交流戦	第 6 回囲碁交流戦	第 4 回ブリッジ交流戦
日時	平成26年11月14日	平成26年 6 月29日	平成26年 6 月28日
場所	飯能グリーン カントリークラブ	高田馬場囲碁クラブ	四谷ブリッジセンター
参加者・新宿	22名（下表のとおり）	12名	12名（下表の通り）
参加者・戸山	22名	12名	12名
ルール	新ベリア方式の両校上位10 名のネットスコア合計団体 戦	2 回対戦（各 2 名組） 持ち時間45分 オール互先コミ 6 目半	8 ボード 3 ラウンドのチー ム戦
勝敗	負け、通算 1 勝 5 敗	12勝12敗で引分 通算 2 勝 2 敗 2 分	93.91対86.09で勝ち 通算 2 勝 2 敗

ゴルフ参加者				ブリッジ参加者	
小田切 哲	中 21	草川 衛	18	岩橋 洋一	3
宇賀神 百合子	7	榎本 雅弘	18	猪鹿 倉洋子	5
吉村 悟	7	植村 秀樹	18	坂下 哲生	6
小野谷 喜市	7	植村 理恵	19	高野 弘子	7
小田切 由美子	10	伊藤 剛	21	宮岡 淑子	7
野村 満	11	笠井 加代子	22	小出 富江	7
平林 泉	11	寺澤 忠興	22	松田 光司	9
竹内 秀男	11	土井 利和	24	中島 公明	10
森山 勇作	11	龍岡 友子	24	中澤 允伸	12
高木 宏	11	吉岡 剛士	31	武田 宏史	12
浅野 良策	14			矢木 薫	16
大島 勝喜	16			原田 あや子	17



臼井総合法律事務所 弁護士 臼井義眞 (19回) 〒100-0013 千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル 4 階 TEL : 03-5157-8989 FAX : 03-3500-0099 e-mail : y_usui@usui-law.jp http://www.usui-law.jp/	笹木和義法律事務所 弁護士 笹木和義 (25回) 〒737-0811 呉市西中央5-8-29-201号 電話 : 0823-32-7288 Fax : 0823-32-7289
坪井昌造法律事務所 弁護士 坪井昌造 (26回) 〒107-0062 東京都港区南青山 1 丁目10番 4 号 南青山NKビル 4 階 電話 : 03-5771-8041 Fax : 03-5771-8042 E-mail : tsuboi-lawoffice@muu.biglobe.ne.jp	やまぶき法律事務所 弁護士 佐藤貴則 (27回) 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 2 - 1 シンコー・ミュージック・プラザ 5 階イースト・ウイング 電話 : 03-5577-6901 FAX : 03-5577-6902 E-mail : sato@yamabuki-law.jp
(医) 社団 赤坂まつの矯正歯科 院長 松野 功 (27回) 〒107-6102 港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル 2 F TEL : 03-5573-8893 FAX : 03-5573-8892 http://www.ak-matsuno.com/	税理士法人アドヴァンス会計 副代表社員税理士 松野淳子 (27回) 〒154-0004 世田谷区太子堂 1 - 12 - 39 - 7 F 電話 : 03-5787-3255 Fax : 03-3413-6255 E-mail : j-matsuno@advance-tax.com
山本会計事務所 税理士 山本展也 (27回) 〒150-0042 渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズ508 電話 : 03-5459-3411 Fax : 03-5459-3413 E-mail : LDZ00547@nifty.com	弁護士 櫻井一成 (28回) 〒183-0022 府中市宮西町2-13-3 三輪ビル302 TEL : 042-360-2216 FAX : 042-360-2263 e-mail : sakuraichihouritujimusho@jcom.home.ne.jp
公認会計士 島崎主税 (28回) 〒160-0023 新宿区西新宿7-1-7 A310 電話 : 03-3361-4793	登坂法律事務所 弁護士 登坂真人 (29回) 〒162-0826 東京都新宿区市谷船河原町 6 番地 キャナルサイド呉竹101 TEL : 03-3513-7981 FAX : 03-5261-9855

矢島税務会計事務所 税理士 矢島 守 (34回) 〒190-0033 東京都立川市一番町3-31-39 TEL：042-511-6810 FAX：042-507-3657 e-mail：115417pxdd@zeitachikawa.jp	松山税務会計事務所 代表税理士 松山弘行 (36回) 〒104-0031 中央区京橋2-1-1 第二荒川ビル202 TEL：03-6225-2330 FAX：03-6225-2339 E-mail：matsuyama-kaikei@nifty.com http://www.matsuyama-kaikei.com/
医療法人社団恵比寿会 淳クリニック - 内科（呼吸器内科・消化器内科・気管食道内科） - 小児科・放射線科 理事長 院長 内藤 淳 (28回) 〒150-0021 渋谷区恵比寿西1-14-2 ツムラビル2F 電話：03-5489-0463 Fax：03-5489-0463 http://www.ebisukai.server-shared.com/	小泉整形外科医院 院長 小泉隆司 (34回) 〒157-0068 世田谷区宇奈根3-13-21 TEL：03-3417-4781 FAX：03-3417-4781
包装資材販売会社 株式会社 エムエイティ 代表取締役 富田裕夫 (15回) 〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-11-4 TEL：03-3707-4768 FAX：03-3707-3589 http://www.m-a-t.co.jp	ジューク！ファースト！！ 弁護士 木村真一 (16回) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-2 新日石ビルディング9階 高橋法律税務事務所 電話：03-3213-5771 FAX：03-3213-5774 E-mail：s-kimura@abox3.so-net.ne.jp
(一社) 生活サポート基金 ～市民が市民を救う社会へ～ - 生活再生相談・融資・個人再生ファンド - 福祉施設建設運営／管理事業 代表理事 藤田愛子 (16回) URL http://www.ss-k.jp	◇地質・地下水調査・解析 ◇広域水収支 ◇米国BASKI(バスキー)社パッカー輸入代行 ◇土木計測 のことは… 有限会社 アキテック 代表取締役 芳野 裕 (24回) Aquitech Engineering Co., Ltd. 〒164-0003 東京都中野区東中野1-54-7 田嶋ビル301 電話：03-5330-9171 yoshino@aquitech.co.jp
有限会社 ナカ薬局 中 千 鶴 (15回) 中 眞知子 (18回) 〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9 TEL 03-3351-3011 FAX 03-3359-9991	古稀いちご会(15回生同期会)開催 日時：平成27年6月13日(土) 一次会 12：00～14：30 二次会 14：30～16：00 会場：クルーズ・クルーズ新宿店 (一、二次会とも) http://www.ginza-cruise.co.jp/shinjuku/ 会費：一次会 5千円、二次会 2千円

母校便り

学校長所感 校長 戸田 弘美
脈々と息づく「全員 指導者たれ」



本校に着任して五年目を迎えました。今年度も進学指導特別推進校として進学実績の向上に励むと共に、次代を担うリーダーを育てるため、生徒を鍛えて伸ばす教育を推進します。昨年度の教育活動を報告します。

一・伝統である「文武両道」の推進
今春の進学状況は国公立大学合格者が増加するなど、良好でした。「進路は補欠なき団体戦」の合言葉のもとで学年集会を重視し、学校行事の終了時（行事↓学習への切替）等に学年ごとに年十回程度行ったり、入学当初の一年生全員セミナー合宿、一、二年生秋の勉強合宿（希望者約四百人）等、生徒が励まし競い合いながら勉強する体制が続いています。放課後には二、三年生の希望者が各自習室に集まり、毎日計百人以上の生徒が勉強し（部活動後の参加奨励）、静かな熱気に溢れています。

一方で運動会、臨海教室、朝陽祭といった学校行事は昨年もたいへん盛んで、「学校行事で成果をあげた学年ほど、大学受験でも結果を出せる」という新宿流は今も健在です。特に運動会では、三年生中心の実行委員会が全生徒をリードする体制を確立し、教育目標「自主自律・人間尊重」を実践してくれました。

部活動は生徒加入率92%と高く、運動部だけでなく文化部もE.S.S都高生英語ディベートコンテスト準優勝、有志による「科学の甲子園」出場等、健闘しました。また、「子供の体力向上推進優秀校」として都の表彰を頂いたことも成果です。

二・同窓生の力強い支援による活動
本校では職業観を深めるキャリア教育を推進しています。二年生向け大学模擬授業では同窓生である東工大の関嶋政和准教授、一年生向けキャリアガイダンスでは企業で活躍中の近藤由香里さん、松井徳子さん両OGにご講演いただきました。また、夏の臨海教室は水泳部OB・OGの皆さんのご支援で盛況でした。心より感謝申し上げます。

母校便り

副校長 樋口 博文



図書室に足を運ぶと、そこではいつもの席にいつもの生徒が座って学習に励んでいる。朝も八時前に、すでに一階と二階の自習室に明かりが灯り、それぞれお気に入りの席を占めて学習に集中し始めている。この生徒たちが、授業の始まる五分前になると、ずっと教室に向かう。先生が教室にいても、授業開始直前まで弁当を食べている、しかし、チャイムが鳴る直前には授業に臨む態勢を整えられる。夜の自習室からの下校時、今年初めて聞いたのが、「お前右組」という言葉だ。何のことだろうと思っていたら、正門を出て右に行く区立の図書館があり、そこが午後九時まで使えるらしい。午後八時まで学校で勉強をして、さらに図書館へいく。下級生も、ある部活は試合に行ったときに試合と試合の合間に学習できる場所を確保して勉強をしている。朝も始業前に職員室前の質問コーナー等で補習を受けている。二年次生になると、部活後に自習室で勉強をしていく生徒も増えた。実によく勉強をする。実際、学習時間

を調べてみると伸びているようだ。おまけに勉強合宿である。

これでは、勉強漬けではないか、「新宿」らしさはどこへ行ったのだとお叱りの声が聞こえてくる気がする。ご心配無用。皆様の後輩たちは、立派に文武両道を実践しています。伝統の運動会や新宿戸山戦は勿論のこと、球技大会、臨海教室、朝陽祭、合唱コンクールと月に一度はある学校行事を学習そっちのけで熱心に取り組む時期も大いにあり、教員を心配させている。ここは昔ながらの生徒と教員の綱引き。どちらが勝つというのではなく、まさに「チーム新宿」創立当時の大家族主義は健在だ。この行事運営や部活動を通して、生徒たちは成長し「新宿生」になっていく。

そんな学校行事だが、残念なこともあった。臨海教室では、完泳した期もあるが、Ⅳ期は台風の影響で遠泳は中止にせざるを得なかった。大遠泳のルート変更も考えたが、計画変更は危険を伴うため、やむなく中止とした。また、国公立へ進学する生徒が多くなり、水泳部OBの参加が期によっては難しくなってきたことは課題として出てきた。ただ、これらのことから、運営方法を検討し、今まで以上に生徒の安全面を強化するきっかけとなっている。また、マラソン大会も、当日の雪の影響で中止せざるを得なかった。部活動はチアリーダー部の全国大会出場やソフトボール部の関東公立校大会出場など明るい知らせが入ってきている。また、今年度から化学部が中心となって「科学の甲子園」に出場した。ESS部も英語スピーチコンテストに出場し、内容的には優勝でもおかしくなかったと言われるほどの出来栄であった。宿泊を伴う防災訓練では、四谷消防署の協力を得て昨年以上に内容が充実したものになった。また、教育委員会の施策として新たに学力調査が実施された。このことや、入学選抜業務の改善のため、学校休業日が増え、授業時間の確保が新たな課題として浮かび上がった。生徒たちが学業以外にも力を発揮するためには、授業の質とともに量も不可欠である。進学校を自負する新宿高校としては、大きな課題を背負わされたと感じている。

三月十四日卒業式が挙行され三一〇名が卒業した。その後の卒業を祝う会で披露された生徒のエピソードが新宿生の優しさ、人間的深みを感じさせるものだった。自習室も最後となる日、この時期になると流石に自習室を利用する生徒も少ない。国公立後期に向けて頑張っている生徒がちらほら来ている。そんな生徒の一人に友人がついてくる。この友人はすでに進路が決まっ

ている。自習室まで来て勉強をする必要はない子たちだ。しかし、まだこれから受験をする仲間を応援するために一緒に自習室に来ている。「頑張れ」という声はない。ただ、寄り添って自分の勉強をしながら、あるいは読書をしながら静かに見守っている、「静かな応援」。大人たちはつい、声をかけてしまう。そんな大人たちよりも深い応援ではないだろうか。後輩たちは人間的にも確実に成長して新宿高校を巣立って行った。

さて、思い浮かぶままに記させていただきましたが、新宿生はすくすくと育っております。各界で活躍されています諸先輩方を手本に新宿生は次々と巣立っていきます。二月に、同窓会の協力を得て、今まさに第一線で活躍している本校卒業生の講話をキャリアアガダンスとして実施しました。生徒たちに近い年齢である分、実に生徒たちの励みになったようです。百周年に向けて、同窓会では新宿生の支援をいろいろとお考えいただいております。中学生やその保護者から、新宿高校の売りはなんですかと聞かれたとき、私は、「生徒」と「本校での人脈」だと答えております。新宿生が社会に巣立ち、社会で活躍できますように、今後とも本校へのご支援・ご協力をお願いいたします。

母校アルバム

4 月 入学式

5 月 運動会



6 月 戸山戦



7-8 月 塩見臨海教室



9 月 朝陽祭



3 月 卒業式

平成26年度主な行事

4 月 7 日	始業式	10 月 1 日～3 日	勉強合宿
4 月 8 日	入学式 (69 回生) 新入生 男子 148 名 女子 172 名	12 月 11 日～13 日	沖縄修学旅行
4 月 10 日～11 日	セミナー合宿 (1 年次生) 箱根	1 月 20 日	合唱コンクール
5 月 8 日	運動会 (駒沢公園)	2 月 5 日	マラソン大会
6 月 5 日	戸山戦	2 月 12 日～13 日	学力調査 (1 年次生)
7 月 24 日～8 月 8 日	臨海教室	3 月 14 日	卒業式 男子 138 名 女子 172 名
7 月 29～30 日	宿泊防災訓練	3 月 25 日	修了式
9 月 6～7 日	朝陽祭		

平成27年度 異動一覧 (非常勤および経営企画室を除く)

教職員

平成27年 4 月 1 日

氏 名	転 出 先 等	転入者氏名	転入前所属	教科等
樋口 博文	保谷	中川 徹	八王子桑志 (全)	副校長
五関 紀子	三田 (全)	野中 裕	町田 (全)	国語
今井 由美子	杉並 (全)	加藤 順子	富士兼富士高付属中	国語
高熊 真弓	竹早 (全)	田村 幸司	足立西 (全)	国語
宮部 精一	国分寺 (全)	大谷 誠	桜修館中等教育	地歴公民 (日本史)
橋本 龍吾	墨田川 (全)	佐藤 江美	町田 (全)	地歴公民 (世界史)
高野 甚蔵	白鷗 (全)	毛利 哲	新規採用	数学
松下 のり子	三田 (全)	鮫島 央	東村山 (全)	数学
杉浦 忠雄	駒場 (全)	加藤 義彦	調布北 (全)	数学
宮田 知樹	小松川 (全)	赤松 輝夫	青山 (全)	理科 (物理)
古川 淳一	町田総合 (全)	日原 奈緒美	戸山 (全)	外国語 (英語)
宮原 正和	九段中等 (全)	小林 克之	八王子東 (全)	保健体育

2006年および過去3年間の大学合格者数 (現役 + 既卒)

4月1日現在

国公立大	2006	2013	2014	2015
	58	65	66	67
北海道大	1	7	1	5
帯広畜産大		1		
秋田大				1
東北大			3	4
山形大		1		
群馬大				2
茨城大		1		2
筑波大	2	4	1	7
埼玉大	1	6	7	2
千葉大	2	12	10	9
お茶の水女子大	1		1	1
電気通信大	2	3	4	1
東京大		2		
東京医科歯科大				2
東京外国語大	1	3	3	6
東京海洋大	1	2	1	4
東京学芸大	1	5	9	9
東京芸術大		1	1	0
東京工業大		3	1	6
東京農工大	1	6	5	10
一橋大		1	4	
横浜国立大	3	6	5	8
信州大		2	2	3
新潟大		1		
静岡大		1	2	1
金沢大			1	
京都大			1	1
大阪大			2	
首都大東京	8	12	16	11
横浜国立大	1	1	1	4
他の国公立大学等	2	13	13	10
国公立大学等計	27	94	94	109
現役大学進学率	54.2%	83.7%	80.1%	79.4%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.3	2.48	2.08	2.17

私立大	2006	2013	2014	2015
	58	65	66	67
青山学院大	11	28	32	30
学習院大	13	20	16	11
北里大	7	9	7	11
慶應義塾大	6	27	18	25
工学院大	6	3	13	6
國學院大	6	4	9	7
国際基督教大	1	2		3
駒澤大	7	15	23	10
芝浦工業大	13	50	53	67
上智大	3	24	26	20
成蹊大	14	22	20	16
成城大	14	20	4	12
専修大	11	15	14	10
中央大	24	47	49	49
津田塾大		8	14	4
東海大	11	4	12	10
東京女子大	1	29	31	18
東京電機大	15	2	7	12
東京農業大	15	18	11	24
東京薬科大		4	2	4
東京理科大	16	43	55	59
同志社大		1		1
東洋大	26	40	42	40
獨協大	2	7	3	9
日本大	30	51	52	48
日本女子大	7	25	29	29
法政大	33	54	71	51
武蔵大	3	15	10	
東京都市 (武蔵工) 大	6	16	15	10
明治大	30	117	102	105
明治学院大	26	24	22	17
立教大	20	56	65	59
早稲田大	18	52	65	61
以上の私立小計	395	852	892	838
他の私大短大	152	122	142	111
私大・短大計	547	974	1034	949
大学・短大総計	589	974	1128	1058
卒業生の数	321	318	317	310
現役大学進学率	54.2%	83.7%	80.1%	79.4%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.3	2.48	2.08	2.17

部活動紹介 生物部

顧問 佐藤 由紀夫

現在、生物部は三年生一名、二年生二名、一年生四名で活動しています。普段はそれぞれの生徒が興味に従って実験や観察をしていて粘菌を培養している生徒、発光バクテリアの単離に取り組んでいる生徒、クマムシを採集している生徒と研究テーマはさまざまです。しかし、生物室にはウーパールーパーなどの生物がいて、これは当番を決めてみんなで協力して飼育しています。

また全体の活動としては、東京工業大学でおこなわれる「高校生バイオコン」へ毎年参加しています。高校生バイオコンは六月から十月の発表までおよそ五ヶ月をかけて小中学生向けの生物教材を開発するというコンペで、今年度は三位に入賞しました。過去に二回の優勝経験もある生物部としてはちょっと残念な結果でしたが、他県の高校生と競い合うことができ部員たちには良い刺激になりました。

そして今年度は高校生バイオコンで三位以内となったため東工大生命理工の三年生がチームを作って研究結果を競い合う「ものづくりコンテスト」にも招待参加しまし



先端技術
東工大のものづくりコンテストで先端技術賞を獲得した新宿高校生物部員

かスマホのアプリを駆使して測定し、それらの要素のうちヒトはなにを「寂しい声」と感じるか要素を変えた鳴き声を四十名の人に聞かせて感想を取り調査し調べました。この研究は東工大の先生方に認められ「先端技賞」を受賞しました。ちなみに人は周波数や波形の違いではなく、コロギの鳴き声のパターン（間隔）の違いで寂しく感じる事が明らかになりました。このほか、夏には一泊で館山に観察と採集の合宿に出かけたり新宿御苑の野鳥観察、高尾山のムササビ観察などもおこなっています。活動は実質二年生の三学期までなのですが、なかなか腰を据えた研究ができていないのが悩みですが、さまざまなことに取り組んでいる生物部員です。（生物科教諭）

た。ここでは

「人は秋のコ
オロギの声を
なぜ寂しく感
じるか」を

テーマにコロ
ギの鳴き声
の周波数、波
形、鳴く間隔
のパターンが
どのような温
度特性を示す

部活動紹介 軟式野球部

顧問 伊藤 重信

軟式野球部の平常の練習日は火金日がグラウンド練習、月水木が部室前練習、土がオフとなっています。火は二つの部活で金は三つの部活でグラウンドを共用しているため、グラウンドを独占出来るのは日で他の部が入らないときだけです。公式戦は三月末の春季大会、七月末の夏季大会、八月末の秋季（？）大会の三大大会です。シーズン（三月～十一月）では日、祝日に本校グラウンドかまたは遠征して練習試合を入れています。本校グラウンドは硬式野球部と共用のためネットが広く外野フライはほとんどネットに引つかかるため練習試合では二回フェアゾーンのネットに当たるとアウトになるというローカルルールを採用しています。他校の広いグラウンドを持つ学校と試合が出来ればよいのですが、どの学校もグラウンドが狭いか、広くても使わせてもらえない学校もあるようでどこもグラウンド確保に苦慮してるようです。

本校も全員指導者たれ、自主自律の精神、文武両道の追求などの教育方針を謳っていますが、軟式野球部の部員たちもその精神

離任恩師ご挨拶

新宿高校の思い出

杉浦 忠雄（数学・在職十二年）



を受け継ぎ、部活動においても自主的に試合での反省を生かした練習メニューを考えて、チームの目標を持って日々活動しています。

また、OB・OGの

方々にもいろいろ支えていただいています。毎年監督・コーチとして大学生OBが休日練習、夏季合宿と指導に来てくれます。春には年に一度のOB戦が行われ、ベテランOB同士の部と若手OB対現役の部に分かれて試合をします。OB会からは部に援助金もいただき、夏季合宿に参加してくれるOBにも援助があります。

いろいろな方々に支えられ、それに応えられるように軟式野球部は自らの目標に向かって突き進んで行きたいと思っています。

（数学科教諭）



新宿高校に赴任してきたのは、進学重視型単位制に移行した初年度でした。一学年が六クラスから八クラスに増えたため、生徒募集の倍率も上がり、苦労している時代でもありました。今思えば隔世の感があります。様々な模索をしている「黎明期」に新宿高校に来て、その道筋を生徒・教員と一緒に進めることができたのは、大変幸せなことだったと思っています。

平成十八年から九年連続で担任になりました。それも学年主任という大役でありました。「周りの先生が協力してくれるから」と「学年主任じゃなければ担任を…」という飴と鞭の言葉で引き受けました。まさか六一、六四、六七回と三サイクル連続で学年主任をするとは思っていませんでした。六一回生では、一年次の箱根のセミナー合宿を始めました。教務・進路・生活及び各教科のオリエンテーションに加えて、球

技大会も行い、早くクラスの仲間と親睦を深めるということにも重点を置きました。

その結果、五月当初のアンケートで人間関係に不安を訴える生徒が前年度に比べて激減しました。また、二年次の夏休みには、希望者五四名による勉強合宿を夢の島のBumby東京スポーツ文化館で始めました。現行より長い三泊四日でしたが、最後まで黙々と勉強している生徒をみていて感動したものです。いずれの行事も学年の創意工夫を反映して、その内容は変わってきていますが、それだからこそ残り続けてきたと感じています。

六四回生では、二年次の終りに起こった東日本大震災のことを忘れるわけにいきません。学年末考査後の午後でもあり、二年生は約二五〇名がクラブ活動等で学校に残っていました。ただちにテニスコートに避難し、そのあと、四階教室に移動しました。他の生徒の安否確認をし、生徒の帰宅は保護者の引き取りを条件としましたので、一晩で五〇回以上玄関と四階を往復しました。ニュースでも伝えられたように、帰宅困難者の方々三千人を受け入れ、そのケアも行いました。様々な対応をしていく団結

力に新宿高校の教員団の一員であることを誇りに思ったものでした。

六七回生では、震災後の臨海教室の復活と修学旅行を広島・京都の三泊四日にしたことが、印象に残っています。

臨海教室は、水質と地震時の対応が課題で、館山市職員の方に保護者会で説明してもらい、遠泳のコース変更や避難訓練など前二回と異なる点が多いものでした。一方、修学旅行は、広島で平和学習を行った翌日に班別行動で広島・京都間を移動する自由度の高い内容で実施しました。しまなみ海道を自転車で渡ったり、尾道や姫路、神戸を観光したりとバラエティに富んだ内容で、どの班も定刻までに宿に到着しました。

このように振り返ってみますと、教職員、生徒、保護者、同窓会の方々のおかげで充実した十二年間を送らせていただいたと感謝しております。

私はNHKテレビの高校講座を見て、数学の教員になろうと思うようになりました。講師は新宿高校で数学を教えられていた岩波裕治先生でありました。九十周年の同窓会のパーティで先生に挨拶することができ、このために新宿高校に来たのかなと思ったことでした。

それでは、新宿高校の更なる発展を祈っております。

新宿高校に望むもの

宮部 精一（地歴・在職七年）

齢を重ねるにつれ、歳月の経つのが早く感じられて、実に寂しいものです。新宿高校での七年間も今では「千秋」一日のように短く感じられます。

本校での前半の四年間は生活指導部のプロパーとして、主に朝陽祭の実行委員会顧問を三年間務めました。赴任した最初の年は、朝陽祭の副顧問（装飾部・広報部）を担当しました。集中的に準備をしたのはやはり夏季休業中です。午前中に三年生の補講を終えると、午後は社会科教室を作業場にして装飾部の生徒とベニヤ板大の「折り畳み二面立看板」を作成しました。現在も朝陽祭期間中、正面玄関に並べられている三年生のあの特大の立看板です。その頃、エレベーター横の倉庫に積まれていた再利用可能なベニヤ板や垂木が材料でした。その年の朝陽祭テーマを書いた横断幕や体育館外の非常階段に二年生の看板ポスターを見栄えよく吊るす作業も大分苦心したように思います。二年生の看板ポスターは、新宿四丁目交差点からよく見えて宣伝効果は抜群でしたが、雨天時の手当は厄介でした。二、三年目は主顧問として各部門全般の

指導に当たりました。四月から九月までの半年間は、顧問も幹部生徒もほとんど準備に忙殺され、放課後も昼休みもほとんどクラブのように活動していました。生徒に言わせると、委員会ではなくて「朝陽祭実行部」でした。

東北大震災があつた四年目の年には生徒会顧問に転じ、生徒の発案で朝のあいさつ運動の際に募金活動を行いました。これは定期的に一年間続けられました。一般生徒からアンケートをとり、自販機の飲み物を検討することもこの年から生徒会で始まりました。

本校での後半の三年間は幸いなことに学年担任に加わることができました。学級担任の目を通して見ても、「新宿生」は勉強に部活動に、そして一ヵ月おきに一つは設定されている学校行事や学年行事に、本当に熱心に取り組む生徒たちだと改めて感心させられました。

今ではもう目にすることはなくなりましたが、以前は「チーム新宿」や「文武両道」「自主自立」などの標語がエレベーター前や進路室前の窓ガラスに貼られていて、従前の諸活動は勿論のこと、新宿高校はこれから進学推進のための学習活動をさらに充実していくのだという意気込みを感じさせられたものです。そんな中で、これ

はさすがに揭示されてはいませんが、最も感銘を受けたのが、他校に類語を見ない「全員、指導者たれ」という初代校長以来の校是でした。これまで漠然と感じていた自ら取り組むべき教師としての課題を端的に言い表してくれているようで、思わず嬉しくなりました。

振り返って見ると、これまでの教員生活で最も長く経験した分掌が生徒会や行事関係の委員会顧問でした。そして委員会などの指導を通じて、ぜひとも生徒に伸ばして欲しいと願ってきたのがリーダーとしての資質でした。これは学級担任としてホームルーム活動に臨む時も同じだったと思います。

委員会やクラブ、学校行事など様々な活動への取り組みを通じて、個々の生徒がリーダーシップを身につけて、社会へ巣立って行ってくればいいなと願っています。新宿高校がこれからもよき指導者を育むことのできる学び舎であることを心から願ってやみません。



恩師の会 教員版「新宿高校同窓会」 四半世紀ぶりの出会い

前号で、教職員同窓会『新宿高校多摩の会』について報告させていただきました。

今年は、声かけ世話人が交代して少し若返り、地域性でなく同時代性を念頭に、「新宿高校でともに働いてから、すでに長い年月が経ち、お会いする機会も少なくなってしまうました。そこで、久しぶりに多くの皆さん方とお会いして、旧交を温め、楽しい時を過ごせたら」とご案内し、三月中旬に親睦会を開催する予定です。職員会議が開ける人数になればいいなと思っています。これまで、周年行事や教科や担任団、あるいは部活や趣味などで個別に会うことはあっても、全体となると、「卒業三十年同期会」のように、三十年ぶりの顔合わせがあるかもしれません。

いづれにしても、新宿高校を離れて四半世紀前後を経た教職員が、「懐かしい」というキーワードで、何十人も集まろうとしているのは、やはり当時の学校現場が「おらかな学び舎で、良き生徒、よき先輩・同僚・後輩に囲まれ務めることができた」(前号報告)からだと思います。



平成27年3月15日「新宿会」参加者記念撮影

是非はともかく、夕食抜きで夜の八時過ぎまで、職員会議の議論をしていたのを思い出します。

現在のように、通常五、六年で強制的に異動させられたり、職員会議で自由にものが言いにくい雰囲気では、なかなか難しいかもしれません。さて、当日、「異論」を排除しようとする空気が強まる風潮に抗して、当時の職員会議なみの元気が弾けることを楽しみにしています。

最後に、何かと手違いもあり、すべての「懐かしいみなさん」に連絡しきれなかったことを、この場を借りてお詫び申し上げます。

今後、毎年お会いできる機会を持ちたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

(菅 豊)

総 会 報 告

平成26年度朝陽同窓会総会議事は以下の通りでした。

1. 役員人事

新任：垂水尚志 (15回)、橋本健一副会長 (19回)、宮崎直道副会長 (24回)

退任：青柳正規会長 (15回)、小泉公生副会長 (10回 平成26年 3月21日逝去)

2. 平成25年度活動報告と決算

- ・母校100周年記念事業に向け7月ワークショップ開催、11月実行委員会設立。実行委員長に宮崎直道同窓会副会長 (24回) 選任。
- ・編集長交代5月 西出紀久 (15回) →林慶治郎 (18回)、
- ・ホームページ担当交替6月 松田百合子 (26回) →林慶治郎 (18回)
- ・全国6支部で総会開催 (群馬、USA は非開催年)、戸山交流戦、東京校歌祭、朝陽クラブなど同窓会活動を着実に実施。
- ・新卒業生入会の生徒、保護者に呼びかけを重ねる一方、仕組み改善についても学校の協力を得て着実に前進を図る。

3. 平成26年度活動計画と予算

- ・親睦の輪の更なる拡大、府立六中以来の伝統の継承、組織・財政基盤の確立を引き続き重点目標に活動を展開。
- ・100周年記念事業にむけ、6月に実行委員会事務局長に大池克幸 (24回) を選任、7月に第2回ワークショップを実施し、活動強化。
- ・新卒業生の入会率の更なる向上のため、新卒業生および保護者への呼びかけを強化。仕組み改善についても実現を図る。

上記活動には概算12,809千円の出費を想定。

各議案とも吉村幹事長より報告・提案があり、異議なく承認。

総会記念講演については次ページに掲載

新宿高校17回生斎藤雅久著

かつて『チョイス』という名の 英語教材があった

現 武蔵野美術大学講師
元 河合塾・駿台予備校講師
游学社 (TEL 03-5337-0630)
定価：本体 1600円＋税



『教養の場としての英文解釈』の続編。

浪人をした人の大半は駿台予備校に通った、と思います。55歳以上の人であれば鈴木長十先生に、35歳以上の人であれば奥井潔先生に『チョイス』という教材を習った事を覚えておられる事でしょう。ところが駿台予備校は愚かにも、この極めて良質な『チョイス』という教材を10年以上前に廃止してしまいました。

「コミュニケーション英語」なるものを文部科学省が強引に奨励し、その結果として中学・高校ひいては大学生の学力の低下は目を覆う惨状です。大学生にレポートを提出させると、簡条書きか、携帯のメールの様なもので、日本語の文書になっておりません。母国語である日本語が全く身に付いていないのが実情です。

英語を小学校から教えるなど、最悪の愚策で、日本人を骨抜きにしています。

強靱な思考力と鋭敏な感性を身に付け、本当の意味で日本語を獲得するのには、内容が充実し格調が高く志のある英文を精読し格闘するしか他に手段はありません。この本には、明治時代以来の旧制中学 (高校) の、本物の英語があります。

平成二六年度 朝陽同窓会総会記念講演 「翻訳語と日本文化」

十六回 長谷川（野上）三千子



社会、個人、権利、自由、科学、電気——こうした言葉をいま私たちは「日本語」として使っています。けれど

もこれは二百年前には存在していなかった日本語です。幕末から明治にかけて大量の西洋の文献が輸入されてきたとき、それまでの日本語には対応する言葉が見つからない西洋語が沢山ありました。それを翻訳するために新たに漢字を組み合わせて造語したり、古典や仏教語から借用して翻訳にあてたりした——それを「翻訳語」と言います。これらはみな翻訳語なのです。

現在、翻訳語はわれわれの回りのいたるところで使われています。新聞の一面記事の漢語を拾い上げたら、その半分は翻訳語だと思つてよい。それらすべてを作り出すのは大変な作業だったに違いありません。

しかし、どうして明治の先人達は、苦勞をいとわずそんな大変な作業をしたのでしょうか。それは、西洋から輸入した学問を、すべての日本人が使えるようにするた

めの不可欠な作業だったのです。もしも西洋の学問や思想の基本用語を、一度も自分たち自身の言語をくぐらせることなく、いわば直輸入のままの原語でつかってしまうと、結局その学問全体が翻訳不可能なままになってしまいます。新しい学問は西洋語を使いこなせる一握りのエリートだけのものとなってしまふ。もしそうならいたれば、明治の日本は形だけは独立国でも、完全な植民地文化の国家となっていたことでしょう。

そしてまた、この翻訳語作成という作業は、単に西洋の概念を受け入れるというだけではなく、それを解釈し、批判する、いわば文明批判の側面をももっていました。

たとえば、freedom, liberty という西洋語には「自由」という訳語があてられていましたが、これは中国古典では、もっぱら「わがまま勝手」という意味の語でした。と同時に禅語では、厳しい修行によって、自己自身へのとらわれを脱し、真の自己へと到達する、その境地を表す語として用いられます。すなわち、他人や社会の束縛を

うるさがつて「自由」を主張するだけでは単なるわがまま勝手になってしまふ。厳しい自己修養がともなつてはじめて真の「自由」が可能となる——そんな思想がこの翻訳語には込められているのです。

かつて明治日本で作成された大量の翻訳語は中国にも逆輸入されて、かの国の文明開化を助けました。文明の衝突ではなく、文明の相互交流の生き証人、それが翻訳語なのだと言えるでしょう。

（埼玉大学名誉教授）



平成三十四年 母校は創立百周年を迎えます

百周年記念事業に向けて

創立百周年記念事業実行委員会

委員長 宮崎 直道（二四回）



平素より新宿高等学校、並びに朝陽同窓会の発展のためにご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、私どもの新宿高等学校は大正十一年に現在の新宿御苑の一角に東京府立第六中学校として学舎を構え、初の入学生を迎えました。昭和二三年の学制改革に伴い東京都立第六新制高等学校と改め、その後昭和二五年に東京都立新宿高等学校と改称し男女共学となり現在に至ります。この間、「自主自律」に代表される建学の精神の下に三万人弱の卒業生が輩出し各界で活躍されるときに、我が国の発展に大きく寄与して参りました。

そして、母校は七年後の平成三十四年には創立百周年という大きな節目を迎えること

になります。この記念すべき節目の年に向かい、学校、保護者、そして同窓の皆様とともに「チーム新宿一九二五」として「祝い、盛上げたい」と思っている次第です。

この百周年記念の準備のために一昨年「創立百周年記念事業実行委員会」が発足しました。そして、まず百周年事業をどのような目的で実施するのかを考え

◇「良き伝統の未来への継承」

としました。数多の先輩諸氏の足跡を辿りつつ、「自由闊達な新宿DNA」を次の世代へ継承し、母校を誇りに大海原に向かって大きな帆を広げて新時代を切り開いて行つてほしいとの思いです。

委員会では記念事業を同窓の皆様から募り、その実現に向けて協働で推進すること役割としています。既に六十件余りの記念事業の提案をいただき、一部は実現に向かって進行中です。

この記念事業を通し次の三つの柱を狙いに母校に相応しい、また他校の範と成るような事業を進めたいと思っています。

一、母校新宿高校の更なる発展に向けてハード、ソフト両面での環境づくりを進める「母校の支援」

一、同窓会会員間の親睦を益々向上させる「親睦の輪の拡大」

一、同窓会活動をより活発化し、そのための財源も強化する「組織、財政基盤の強化」

百周年記念史の編纂、祝賀パーティの開催、興国の鐘の復元、朝陽合唱団の設立や記念音楽祭の開催などが具体的に検討されている一例です。

中でも百年の歴史を通し、またこれからの百年の礎となる母校を象徴する事業は何かと考えたときに次の三つの事業にあたるとなりました。

一、人材育成支援のための「奨学基金の充実」

一、旧朝陽会館の様な同窓会、学校、PTAの「集いの場の確保」

一、臨海教室の継続と館山寮の活用拡大による「館山寮の機能増進」

これらの事業を是非とも成功させるべく甚だ恐縮ですが、同窓会の皆様にお願ひし寄付を募ることにしました。何卒格別のご支援を賜りますことを心からお願ひ申し上げます。

創立百年の鐘を鳴らすのは

若いキミたちだ！

元国語科教諭 佐藤 喜一（二回）

四年前、「朝陽六十号」（平成二三年）に、「母校は母なる港なり」という一文を寄せた。サブタイトルは、「新宿育ちの若い諸君へ」。

内容は、「若い卒業生諸君よ、連れだって母なる港新宿高校へ立ち寄って！」という趣旨だった。

背景には、若い卒業生の同窓会離れという現実がある。その年の秋に作成された「会員名簿」を開くとよくわかるけれど、期回が若くなるにつれて、卒業生数と朝陽同窓会会員数の差が著しくなるのだ。その当時では最も若い六三回生（平成二三年卒）、三三〇名前後卒業したのに、名簿掲載の会員は約半数の一六五名。

その後やや改善の兆しが見られる中、学校側の尽力で今年からは新入生全員が同窓会に入会すると聞く。これで、今後は若い卒業生の母校への関心度が高まるのだろうと期待する。

いつしか、「♪俺もおまえも、新宿育ち」と歌いながら、たまには母なる港へ立ち寄ってもらえたらなによりだ。

◆「朝日のごとくさはやか」なれ

新宿高校を辞めて二十八年経った。まだ生きていて、母なる港「新宿」には関心が強い。だから、秋の学園祭には必ず出かけ、若い後輩諸君の息吹に触れることにしている。

学園祭は、今、「朝陽祭」と言っている。いつからそうなったのかははっきりしないが、「朝陽」祭というのはうれしい。でも、少々意地悪な先輩、出かけるたびに利発そうな女子生徒に、「どうして朝陽祭なの？」とたずねる。と、「知らないアーい」という明るい声が返ってくる。説明しようという気持ちも、なんとなく消えてしまう。

今の生徒たち、男子は帽子をかぶらず、女子はバッジも付けていない。どうやら、あの懐かしい校章は消えてしまったようだ。残念なことに、街で会ってもわが後輩ということは不明だ。

せめて、バッジを付けていれば、あの中心から外へと矢のように伸びる線に指をあて、これが朝日の光なんだよ、と言って建学の礎となった明治天皇の、

さしのぼる朝日のごとくさはやかに
もたまほしきは心なりけり

の御歌を示して、「朝陽」の由来を話せるような気がするのだけれど。

明治はすでに遠き時代にあるのだろうか。百年に近づこうとしているわが校の伝統がその隔たりを埋めることがきつと出来ると信じている。とすれば、今の生徒たちの学校に対する帰属意識は強まり、卒業生が同窓会の一員たんとする気持ちも育まれていくものと、私はひそかに期待しているのだが。

◆新しき「朝陽之鐘」を鳴らそう

百年記念事業の一つとして、「興国の鐘」復元という案があるという。今更、日露戦争の遺物を復元することにはくみしえないが、百年記念の鐘——「朝陽之鐘」の新造にはおおいに賛同する。

この鐘、御苑に面したバラ園の傍に建てる。始業前に鳴らす。鐘の音に耳に傾けながら、生徒一同黙想し、今日という日々を実りある一日にしようと誓う。そして、新宿高校生としての自覚とプライドを確認しよう。

鐘の音は、御苑の木々の翠のようにさわやかな音色をふりそぐだろう。また、新宿のまちにも美しくこだまするだろう。まちの人は思う。「高校の鐘が鳴った。今日も一日、しっかりと働こうぜ」と。

その新しい鐘を鳴らすのは、年をとった私たちじゃない。鐘を鳴らすのは、そう、若いキミたちなのだ。次の百年に向かって羽ばたく後輩諸君、朝陽百年に向けて結集し、よりよき伝統を継承し、より良き学園の創造に努めようじゃないか！



百周年史編纂に当って

百周年史編纂委員会
委員長 太田 正行（二三回）

二〇二二年（平成三四年）、東京都立新宿高等学校（旧東京府立第六中学校）は百周年を迎えます。母校では、一九七二年（昭和四七年）の五十周年以降、十年ごとに周年誌を編集、刊行してきました。そして二〇一二年（平成二四年）には「九十年の歩み」（二〇二頁）が刊行されました。すでに百周年を迎えた都立高校では、どのような記念誌が刊行されているのでしょうか。まず、一中（日比谷高校）は、一九

七九年上中下三分冊の「日比谷高校百年史」（三分冊総計二二八一頁）、二中（立川高校）は、二〇〇一年「立川高等学校創立百周年記念誌」（三五〇頁）、三中（両国高校）は、二〇〇二年「両国高校百年史」（四八九頁）、四中（戸山高校）は、一九八八年「府立四中・都立戸山高百年史」（九八一頁）が刊行されています。今後、五中（小石川高校）、そしてわが六中（新宿高校）が刊行の番になります。

さて、わが新宿高校では、今まで五冊の「記念誌」が刊行されています。元祖記念誌として最も歴史的価値が高いのが「五十年のあゆみ」で一九二二年から五十年間の歩みを編年体でまとめたもので、特に一九五〇年までの年表は極めて細かく史実を拾いあげています。武井正教、豊澤弘正両先生の功績です。その後の「七十年の歩み」（一六五頁一九九三年）、「八十年の歩み」（二一六頁二〇一三年）そして「九十年の歩み」（二〇二頁二〇一二年）はこの編年体形式を継承しています。また「六十周年記念誌」（二二八頁一九八三年）は、編年体ではなく、六中・新宿高校で学んだ者たちの心の記録を中心として、新制一回生から三四回生まで、担任と卒業生がその思い出を語る形式でした。

さて、数年後に刊行される百年史の構想

として、「九十年の歩み」のような学校史を資料として保存するという部分と、「六十周年記念誌」のような卒業生と旧師の思い出を綴るという部分、両方を考えています。保存されている資料の制約もあり、編年体の部分は「五十年のあゆみ」を基本としてさらに五十年分を追加する「百年の歩み」と、新制の卒業生と旧師による心の記録をまとめた「百周年記念誌」という二部構成を考えています。また、同窓会事務室に保管されている古い卒業アルバムをもとに、各年代で懐かしい写真を多用した写真集なども企画しています。可能な限り、旧制から最近の卒業生まで多くの同窓生に寄稿をお願いして、読んで楽しめる内容にしたいと考えています。

編集にあたり、費用負担や編集の役割分担など解決しなければならない課題も山積していますが、学校やPTAと連携し、朝陽同窓会の同窓生の皆さんには、是非ともご協力をお願いいたします。



平成27年度の事業計画について

朝陽同窓会 幹事長 吉村 悟(7回)

本年度は母校創立100周年記念事業の最重要案件である募金活動が、1億円を目指していよいよ開始されます。

朝陽同窓会は100周年記念事業の他にも、下記の様な新規事業に取り組む予定です。

- ・母校キャリア教育拡大への支援
- ・同窓会組織の強化
- ・朝陽同窓会名簿の発行
- ・同期会の初回開催の支援

現在母校1年生を対象としてキャリアガイダンスを実施しています。これは各界の卒業生2名を招いて自己の社会における活動を紹介し、1年生のこれからの進路設計に役立てようというものです。今年はこれをさらに拡大して8名の卒業生からなるキャリア教育を実施する予定です。また4月から新たに「進路指導室だより」という4頁の月刊紙を発行しましたが、これにも毎月1名の寄稿を依頼されています。朝陽同窓会としても現役生の役に立てるならということで、適任者を推薦していきます。

同窓会組織の中心は何といっても代表幹事です。現在各回2名の代表幹事が合計160名ほど選任されています。しかし代表幹事会への出席は毎回50名程度と低調です。出席率の低い代表幹事はその回にお願いして、交代してもらうなどの対策を取り出席率を向上させたいと思います。またいろんな方面の方々の意見をお聞きするという意味で、運動部や文化部のOB・OG会の代表との懇談会なども計画いたします。

朝陽同窓会名簿は4年に1度発行しており、今年度がその発行時期に当たります。発行の可否に関しては代表幹事会で熱のこもった討論をいたしましたが、結局「名簿あつての朝陽同窓会だ」「大学生の就職活動には欠かせない」「親子孫で一緒に名前を載せたい」などの声が強く、今回も11月頃名簿を発行することと致しました。一冊4千円ですので、ぜひお買い求め下さい。

各回の同期会の発足時期は、大体卒業後

30周年のころです。これは「朝陽」に卒業後30周年記念記事を集めるため、それがきっかけとなり同期会が始まるということです。今年発行の64号では新たに20周年が加わりますので更に若い層の同期会結成が期待されます。朝陽同窓会では初回の同期会開催には多少の資金援助を行い、或は案内状送付事務を朝陽同窓会で代行するなどの支援を考えています。

その他毎年恒例に行っている事業は、今年も実施します。

- ・総会の開催
- ・代表幹事会の開催
- ・支部朝陽会の開催
- ・戸山新宿交流戦の実施
- ・朝陽クラブの開催
- ・朝陽祭への展示
- ・朝陽65号の発行
- ・母校やPTAとの懇談会の実施
- ・東京校歌祭への参加
- ・館山寮における臨海教室の支援と一般宿泊の実施

実施する事業は同じでも、内容は質や量の向上を求めてゆきます。例えば昨年の第18回朝陽クラブではついに参加人数が43名と過去最高となりました。しかしこれで満足せず今年は70名の参加を目標にするなど、より高い成果を得られるよう努力いたします。

より高い目標が達成できるかどうかは、ひとえに朝陽同窓会会員の皆様のご参加の如何に掛かっております。どうぞ今後とも朝陽同窓会活動をご支援くださるとともにご自身でも各種事業にご参加下さるよう、お願い申し上げます。

水上寮解体のお知らせ

昭和4年に建設された水上寮は、夏の林間学校の基地として永く親しまれてきましたが、平成17年の林間学校を最後に無人となって以降は厳しい自然環境で荒廃が進み、不審火や自然災害の恐れを指摘する地元の声もあって、理事会の決定に基づき平成26年10月に解体されました。謹んでお知らせ致します。

財団法人朝陽会

平成26年度決算(案)
平成26年4月1日より平成27年3月31日まで

△印は予算に対して実績が少なかったことを示す

勘定科目	予算	実績	差異	差異理由(予算⇒実績)
<収益の部>				
入会金	4,035,000	3,075,000	△ 960,000	269名→205名
年会費	1,970,000	1,546,000	△ 424,000	985名→773名
長期会費	5,581,000	4,788,242	△ 792,758	3,349名→2,874名
寄付金	557,000	482,500	△ 74,500	
名簿売上	0	10,500	10,500	
朝陽広告料収入	596,000	608,000	12,000	
預金受取利息	37,000	72,338	35,338	
朝陽クラブ収入	270,000	236,000	△ 34,000	
経常収益合計	13,046,000	10,818,580	△ 2,227,420	
<費用の部>				
事務局手当	4,428,000	4,498,000	70,000	
通勤交通費	357,000	384,305	27,305	
会議費	681,000	315,869	△ 365,131	代表幹事との懇談会の費用節減など
通信費	321,000	336,151	15,151	
光熱費	204,000	300,808	96,808	
備品費	40,000	192,564	152,564	パソコン1台新規購入
消耗品費	564,000	740,052	176,052	しおり新規印刷
記念品・慶弔費	116,000	34,542	△ 81,458	
銀行郵貯手数料	195,000	175,803	△ 19,197	
減価償却費	215,000	214,032	△ 968	
出張旅費	218,000	155,690	△ 62,310	
寄付金	100,000	100,000	0	
名簿印刷発送費	75,000	151,596	76,596	
朝陽発行費	3,032,000	2,727,702	△ 304,298	配送単価節減 75円→62円
総会費	573,000	658,299	85,299	
支部助成金	290,000	200,000	△ 90,000	
校歌祭費用	120,000	100,000	△ 20,000	
朝陽クラブ運営費用	380,000	303,360	△ 76,640	
朝陽祭参加費用	50,000	25,398	△ 24,602	
戸山戦開催費用	50,000	37,500	△ 12,500	
100周年記念事業	200,000	17,899	△ 182,101	記念各事業 出足やや遅れ
予備費	600,000	0	△ 600,000	
経常費用合計	12,809,000	11,669,570	△ 1,139,430	
当期経常増減額	237,000	△ 850,990	△ 1,087,990	

* 当期経常増減額

- + 入会金、長期会費、年会費の伸びが鈍化し、予想を大きく下回った。
- + 入会金については予約会員制度を年度末に導入したので、3年後には期待が持てる。
- + 長期会費、年会費については増加のための対策が必要である。

* 費用

- + 100周年記念事業要員用パソコンの購入や新卒業生向けの栞の作成など追加費用が発生。
- + 代表幹事との懇談会で個人負担してもらったり、朝陽の配送費を節減したなど節約に努めた。

財産目録

			平成27年3月31日現在	
科目	金額	摘要	科目	金額
<資産の部>			<負債の部>	
固定資産	17,857	コンピュータシステムなど	源泉徴収所得税預かり	31,684
定期預金	39,000,000	中央三井信託、三菱東京UFJ 三井住友、ゆうちょ銀行	長期会費未経過分引当金	14,765,758
郵便貯金	1,922,692	東京貯蓄センターなど	計	14,797,442
普通預金	2,157,082	中央三井信託、三菱東京UFJ 三井住友、ゆうちょ銀行	<繰越金>	
現金	20,568		繰越金	28,320,757
計	43,118,199		計	43,118,199

剰余金処分案

- 前年度繰越金 29,171,747
当期経常増減額による取り崩し △ 850,990
計 28,320,757
- これを次の通り処分します
次期繰越金 28,320,757

会計監査報告

平成26年度朝陽同窓会の会計監査を行いましたところ、会計帳簿、および証憑書類との照合結果については、いずれも一致していることを確認いたしました。

平成27年 4月15日

監事 山本展也・島崎主税

平成27年度予算(案)
平成27年4月1日より平成28年3月31日まで

△印は前年実績に対して予算が少なくなったことを示す

勘定科目	予算	前年実績	差異	差異理由(予算⇒実績)
<収益の部>				
入会金	3,300,000	3,075,000	225,000	前年実績の10%増
年会費	1,700,000	1,546,000	154,000	前年実績の10%増
長期会費	5,266,226	4,788,242	477,984	前年実績の10%増
寄付金	0	482,500	△ 482,500	100周年記念募金開始により無し
名簿売上	1,600,000	10,500	1,589,500	27年度は400部売上を目標に
名簿広告代収入	500,000	0	500,000	前回実績の半分で見込んだ
朝陽広告料収入	848,000	608,000	240,000	販売促進努力の結果
100周年記念募金	50,000,000	0	50,000,000	初年度は目標額の半分を達成
預金受取利息	73,000	72,338	662	
朝陽クラブ収入	270,000	236,000	34,000	26名/回→30名/回
経常収益合計	63,557,226	10,818,580	52,738,646	
<費用の部>				
事務局手当	5,428,000	4,498,000	930,000	100周年記念募金担当者新規任命
通勤交通費	426,000	384,305	41,695	
会議費	395,000	315,869	79,131	
通信費	339,000	336,151	2,849	
光熱費	240,000	300,808	△ 60,808	
備品費	374,000	192,564	181,436	新型プリンター導入
消耗品費	780,000	740,052	39,948	
記念品・慶弔費	66,000	34,542	31,458	
銀行郵貯手数料	342,000	175,803	166,197	募金開始による倍増
減価償却費	17,857	214,032	△ 196,175	償却終了
出張旅費	192,000	155,690	36,310	
寄付金	100,000	100,000	0	
名簿発行費	3,733,000	151,596	3,581,404	27年度版名簿1,000部印刷
朝陽発行費	3,035,000	2,727,702	307,298	印刷頁数増加 66P→80P
総会費	752,000	658,299	93,701	
支部クラブ等助成金	370,000	200,000	170,000	初回同期会助成金制度発足
校歌祭費用	120,000	100,000	20,000	
朝陽クラブ運営費	388,800	303,360	85,440	
朝陽祭参加費	50,000	25,398	24,602	
戸山戦開催費	50,000	37,500	12,500	
100周年記念事業	1,880,000	17,899	1,862,101	100周年記念事業実質スタート
予備費	600,000	0	600,000	
経常費用合計	19,678,657	11,669,570	8,009,087	
当期経常増減額	43,878,569	△ 850,990	44,729,559	

- * 当期経常増減額
 - + 100周年記念事業募金の開始により、経常額は4,388万円の黒字となる予想
 - + ただし集まった募金は使途が決定するまで留保する。
- * 名簿収支
 - + 印刷部数は1,000部だが、今年は400部の売り上げを見込んだ。
 - + 600部は次年度以降に売上げる予定で、今年度は差引156万円の赤字となる。
- * 100周年記念事業関連費用
 - + 事務局費用として人件費やプリンター導入費用など165万円が必要。
 - + 事業費用としてポスター代やパンフレット、決起集会費用に188万が必要。
 - + 支出に当たっては必要性などを再度十分吟味する。

朝陽同窓会会員諸氏の著書紹介

平成26年度に下表のように多くの会員の方々から著作の寄贈をいただきました。
いただいた図書は事務局にて保管後、適宜母校の図書館に寄贈しております。

著 者	回	書 名	出 版 社	価 格
小沢 信男	中21	捨て身な人	晶文社	¥1,900
不破 哲三	中21	私の戦後六〇年	新潮社	¥1,700
田村 信雄	中21	川柳句集 冠行頭字吟	(財)全日本川柳協会	¥2,000
加賀 乙彦	中21	生と死と文学	潮出版社	¥1,500
		高山 右近	講談社	¥1,900
安土 敏	8	スーパーマーケットほど素敵な商売はない スーパーマーケット(上)(下) 他多数の寄贈を頂いております	ダイヤモンド社	¥1,429
滝沢 孝之	8	句集 虎尾草	中央俳句会事務局	¥1,500
朝倉 雄一	9	中小企業のイノベーション支援	三恵社	¥2,000
土井 邦雄	10	学長の回顧録	インナービジョン	¥700
岩田 誠	13	鼻の先から尻尾まで	中山書店	¥2,800
渡部伸一郎	14	会津より	深夜叢書社	¥2,400
池辺晋一郎	15	人はともだち、音もともだち	かもがわ出	¥2,400
垂水 尚志	15	基本に帰る ―研究開発マネジメントを 通して得た人生訓―	交通新聞社	非売品
飯澤 喜四郎	15	不思議な迷い人	文芸社	¥1,700
牛越 国昭	16	潜入盗測 第三編	同時代社	¥5,000
石坂 蘆	17	悲しみと希望(訳)	(株)ミルトス	¥1,400
斎藤 雅久	17	かつて『チョイス』という名の英語教材 があった	游学社	¥1,600
東 英文	17	今もなお臉に浮かぶ旅の断片	幻冬舎	¥1,400
大木 茂	18	汽罐車	新宿書房	¥3,800
田口 久美子	18	書店員のネコ日和	ポプラ社	¥1,500
坪内 祐三		昭和の子供だ君たちも	新潮社	¥1,800
内山 節	20	山里の釣りから(内山節著作集2)	農文協	¥2,900
本村 眞澄	21	日本はロシアのエネルギーをどう使うか	東洋書店	¥800
三木 悟	25	現代仏教塾 I (共著)	幻冬舎	¥1,200
阿部 浩一	38	戦国期の徳政と地域社会	吉川弘文館	¥8,500
山口 麻美子	44	ベビーマッサージ	徳間書店	¥1,000
田野瀬良太郎		西大和学園の軌跡	三恵社	¥2,000

追悼文・計報

久米先輩さようなら

佐藤 喜一（中22回・一回）

久米豊朝陽同窓会名誉会長略歴

昭和五八年 朝陽同窓会副会長

平成七年 同会長

平成十一年 同名譽会長

平成二六年九月 ご逝去（九三歳）



久米先輩、とうとう旅立たれましたね。

ご冥福を祈ります、と言いたいところですが、あの世でも新境地

の開拓に努められておられるのでは？

先輩は、六中13回生。昭和14年に卒業さ

れ、天下の一高に入学。寮生活とポート部

で心身を鍛えられ、東大は航空原動機学科

を卒業。ただちに海軍に入り、技術中尉と

して終戦。昭和21年から日産自動車へ。何

と半世紀にわたって日産を支えられました。

同窓会とのご縁は、昭和58年に副会長に

就任されてからか。日産の社長をしながら

平成7～11年は会長として指導性を発揮さ

れました。ありがとうございます。

先輩は、実業界でも功績のある方と信じ

ていますが、私にとっては晩年に出版された十冊近い随筆集に、お人柄がよくにじみ出ていて、なつかしい。

すべてが自費出版。「道楽だよ」と言わ

れても、四六判ハードカバーの立派な書

物。内容は多岐にわたり、首相や都知事を

チクリと刺したり、核兵器・核エネルギー

を批判する一方で、小学唱歌や近代の詩歌

への想いをもちりばめられていて、愉しい

本でした。

そういう先輩を、私は、平成の兼好法師

さん、と申し上げたことがありますね。

これは、「きょうを生きる」というタイト

ルの末尾の一節。「力を尽くしてきょう

を生きよう。若くして世を去った大正の歌

人九条武子はこう歌っている。

見ずや君 明日は散りなん花だにも

命の限り この時を咲く

悲しみも感じさせるこの歌が、私は好き

である。」（94・6・30）

そう、先輩は「力を尽くして「毎日を生

きられた方」、と私は思います。あの世で

お目にかかれたら、また、いろいろとお話

を聞かせてください。さようなら。

小泉公生君を悼む

村上 光一（十回）

小泉公生朝陽同窓会前副会長略歴

平成二三年 朝陽同窓会副会長

同年 （財）朝陽会業務執行理事

平成二六年三月 ご逝去（七四歳）



小泉公生君が逝っ

て、二度目の夏がも

うやってくる。元

気でいてくれたら、

夏のシーズンにむけ

て、足繁く館山寮に通う彼の姿が見られる

頃だ。生徒たちが臨海学校で楽しい思い出

が持てるようにと、寮の運営に心をくだい

てくれた小泉だった。しかしあの頼りにな

る大きな体はもういない。

思えば、彼はほんとうに新宿高校と縁の

深い男だった。二人の弟さん、そしてお子

さん二人も新宿高校生。その時期PTA会

長もつとめあげ、最後は同窓会の副会長と

して母校の発展を支えてくれたのだから、

もう新宿高校の申し子としかいいようがない。

私とは朝陽同窓会の会長と副会長とい

う同期コンビだったが、出不精な私とは反

対に、小泉はおよそ多趣味なその才能を内

に外に発揮していた。バスケットボールはいまだに現役で活躍できる実力だったし、ゴルフをはじめ同期が集まる場所にはいつも彼の姿があったように思う。

そして小泉公生といえば、彼の歌！

まだ私がサラリーマン時代、部下との飲み会にふと立ち寄った下町のスナックで、気持ちよさそうにラテンを歌っている彼と遭遇し、お互い仰天した夜が昨日のことのように思いだされる。

人生をもっともっと楽しむはずだった小泉。新宿高校と共にもっと生きるはずだった小泉。その早すぎる死が口惜しい。心からご冥福をお祈りします。

計 報

小島英男先生

平成二六年四月三日ご逝去

教科科目…国語

在勤…昭和二五年三月～昭和三四年三月

(十九年間)



平成 27 年「第 21 回 0 の会作品展」のご案内

0 の会展も 21 年目にはいりました。
下記要領で作品展を開催いたします。
皆様のご来場をお待ちしております。

会期： 11 月 9 日（月）～11 月 15 日（日）
時間： 午前 11：00～午後 6：30
（但し最終日は午後 3：00 まで）
場所： ギャラリーくぼた（4F）
中央区京橋 2－7－11
TEL： 03-3563-0005
（11 回 神田 隆一）

朝陽同窓会 FaceBook (FB) の友達となっていたければ、同期会や種々会合の案内を FB でご覧いただける他、コメントを投稿いただけます。

- (1) FB の設定は以下の通りとなっております。
 - ・タイムラインを読める人：友達
（ただし一部記事は一般公開しています）
 - ・タイムラインに書き込める人：友達
 - ・友達に書き込まれたタイムラインの共有範囲：友達の友達
- (2) 同窓会員のコミュニケーション活性化のため FB の活用をお願いします。同期会案内やクラス会のお知らせなどの書き込み歓迎です。
- (3) FB に送られた友達リクエストは事務局にて同窓会名簿と照合のうえ承認しております。
- (4) URL <https://www.facebook.com/jchouyou>

編集後記

百年近い歴史を重ねる同窓会の会員相互の交流拡大をめざし、今号から卒業二十周年の記念寄稿もいただくなど「朝陽」への寄稿世代・読者世代の拡大を図っております。昔の苦しみ・良き時代を知らぬ若い世代と、新しい世代に疎い古き世代が朝陽誌上で交流・親睦を深めることができますように紙面作りに努力してまいります。紙面作りや掲載記事につきご要望などよせていただければありがたく存じます。

（朝陽編集委員長 一八回 林 慶治郎）

東京都立新宿高等学校朝陽同窓会 同窓会会報 朝陽 64 号

発効日：平成27年5月1日
発行人：東京都新宿区内藤町11番4
東京都新宿区内
朝陽同窓会長 垂水 尚志
表紙デザイン：草川 衛（18回）

非売品

本文（写真、文章）の無断転用転載はお断りいたします

日中の未来を託す人財を育てる

「ゼンショー」 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム」を支援



三国時代の258年に開設された呉の「太学」から始まったとされる、中国でも有数の伝統ある南京大学。



学生に向けて記念講演をする小川賢太郎ゼンショーホールディングス会長。ゼンショーの創業から現在に至るまでの様々なエピソードを通じ、「起業において大切なことはいかに金儲けをするかではなく人類に対して自分の才能と能力をどう活かすかである」と訴えた。



「商売が簡単なところに投資した方が効率が良いのではないか」と質問する南京大学の学生に対し、小川会長は「経営とは難しい課題に真正面から取り組むことであり、だからこそ企業は強くなる」と答えた。

戦後70年。国交正常化から43年を経て、今もなお緊張した関係が続く日本と中国。南京は過去の両国の不幸な歴史の象徴として語られる地です。

この地に長い歴史を刻んだ知の殿堂・南京大学で、2013年、東京大学は「ゼンショー 東京大学・南京リベラルアーツ・学生交流プログラム」を開始。日本と中国の将来を担う人材を育成するため、東京大学が南京大学と連携し、

リベラルアーツ教育を通して、双方の学生の中から豊かな人間性を備えた知中派・知日派を育成しようというものです。

ゼンショーホールディングスはこのプログラムを全面支援しています。ここで育った学生が、やがて両国の永きにわたる蜜月の関係の礎となることを願って。

株式会社 ゼンショーホールディングス

代表取締役社長 小川 賢太郎 (19回卒)

ZÉNSHO

平成27年度同窓会総会・懇親会ご案内

日時：5月30日(土) 午後2時～6時

場所：

総会 新宿高校3階視聴覚室 2時～

懇親会 クルーズ・クルーズ新宿店 4時～

総会議事

- 26年度活動報告・決算
- 27年度活動計画・予算
- 100周年記念事業、その他

記念講演

「コンセプト思考技術開発38年—
鉄鋼からSUICA、さらなる展開へ」

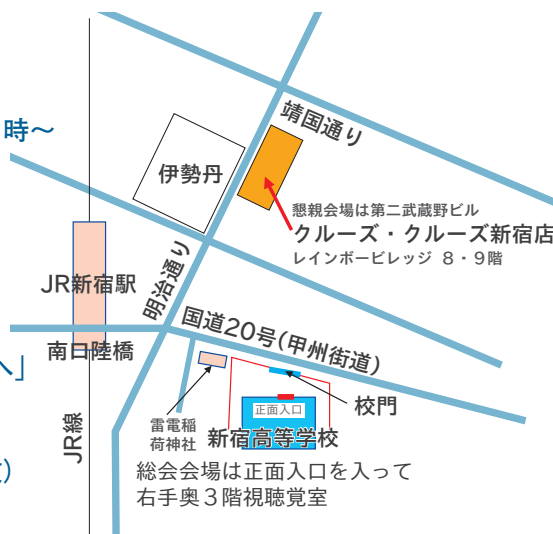
森 欣司氏

(早稲田大学大学院教授

基幹理工学研究科情報理工学専攻)

懇親会は4時から。参加無料です。

ぜひご参加ください。



今年の夏を、ぜひ館山寮(旧塩見寮)で

あの懐かしい青く澄んだ海、遠浅の浜辺がみなさまを
お待ちしております。お気軽にご利用ください。

- 所在地 千葉県館山市香156
- 期間、料金、申し込み方法などの詳細は、
朝陽同窓会ホームページに掲載しています。



創立100周年記念事業に向けてご寄付をお願いします

母校は7年後の平成34年に創立100周年を迎えます。この節目の年に向かって、一昨年より色々な事業の展開を開始致しました。また、その中で多くの資金を必要とする3事業を対象に、平成27年4月から募金を行うことにしました。目標達成に向けて、会員の皆様方のご協力を謹んでお願い申し上げます。詳しくは、同封の「募金趣意書」をご覧ください。

会費納入のお願い

朝陽同窓会のさまざまな事業は、すべて皆様からの会費によってまかなわれています。一層のご支援ご協力をお願いいたします。

- 年会費：2,000円、長期会費10,000円(6年間有効)のいずれか。
- 会費免除の制度もあります。詳しくは2ページをご覧ください。